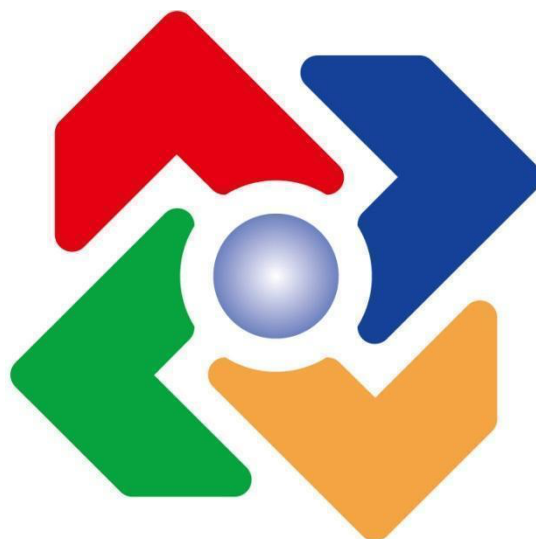


学際生命科学東京コンソーシアム
Tokyo Interdisciplinary Life Science Consortium

共通シラバス

2026 年度



T O K Y O
I L S C

内容

学際生命科学東京コンソーシアムの概要	4
履修方法.....	6
履修モデル	11
1. 製薬業界(創薬・生命系)を目指す大学院生へ	11
2. 製薬業界(創薬・有機合成系)を目指す大学院生へ.....	15
3. 臨床開発職をめざす大学院生へ	18
4. 化学業界を目指す大学院生へ	21
5. 食品業界を目指す大学院生へ.....	24
6. 化粧品業界を目指す大学院生へ	27
7. 理系メディア業界を目指す大学院生へ.....	31
8. 公務員を目指す大学院生へ.....	34
共通科目一覧	38
B01 神経科学特論	44
B01-T 神経疾患特論 (東京科学大学)	44
B01-G1 分子細胞生物学特論Ⅱ (学習院大学)	45
B01-G2 統合生命科学特論Ⅵ (学習院大学)	46
B01-O1 細胞生理学 (お茶の水女子大学)	48
B01-O2 細胞生理学演習 (お茶の水女子大学)	49
B01-O3 動物生理学特論 (お茶の水女子大学)	51
B01-O4 バイオメカニクス特論 (お茶の水女子大学)	53
B02 免疫学特論.....	57
B02-T 免疫学 (東京科学大学)	57
B03 細胞情報伝達特論	59
B03-T 細胞生物学特論 (東京科学大学)	59
B03-G 統合生命科学特論Ⅱ (学習院大学)	60
B04 発生学特論.....	62
B04-T 発生・再生科学 (東京科学大学)	62
B04-O 分子発生学 (お茶の水女子大学)	63
B04-G 分子細胞生物学特論Ⅰ (学習院大学)	64
B05 ゲノム科学特論.....	66
B05-G 分子細胞生物学特論Ⅴ (学習院大学)	66
B05-O1 環境発生進化学 (お茶の水女子大学)	67
B05-O2 環境発生進化学演習 (お茶の水女子大学)	67
B07 糖鎖科学.....	69
B07-O 糖鎖科学 (お茶の水女子大学)	69
B08 生命薬学特論	71
B08-K 生命薬学特論 (北里大学)	71
B09 植物環境応答学特論	73
B09-G1 統合生命科学特論Ⅰ (学習院大学)	73
B09-G2 統合生命科学特論Ⅳ (学習院大学)	74
B09-O 植物細胞生物学 (お茶の水女子大学)	75
B10 薬理・薬物学特論	77
B10-K 薬理・薬物学特論 (北里大学)	77
B11 薬剤・分析学特論	79
B11-K 薬剤・分析学特論 (北里大学)	79
B12 食品栄養科学特論	81

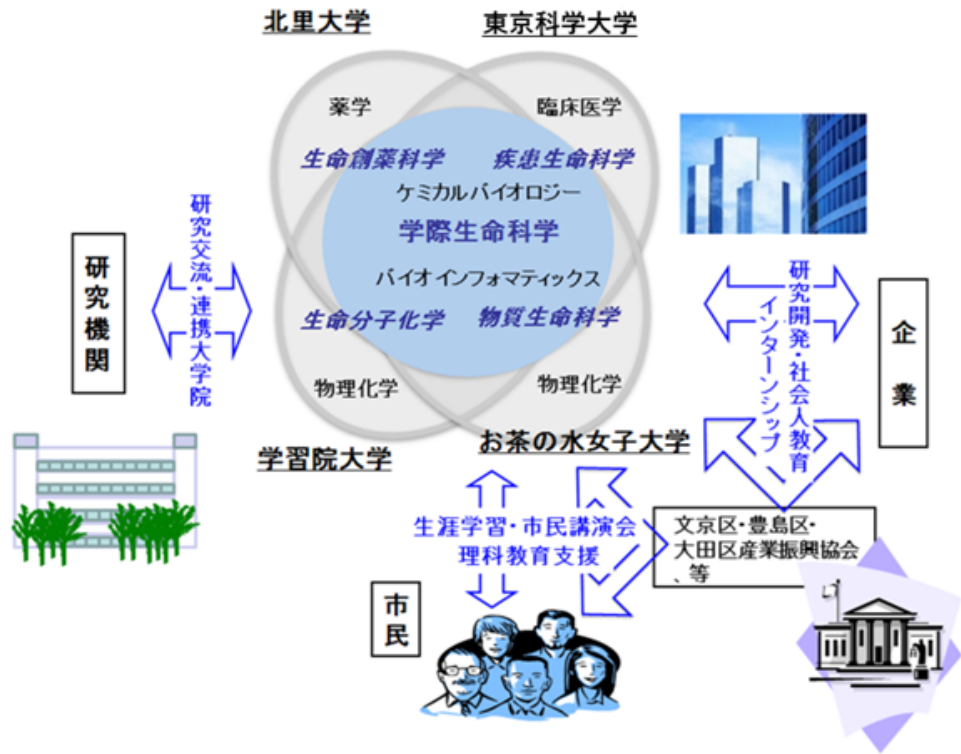
B12-O1 食品栄養科学研究法（お茶の水女子大学）	81
B13 総合生命科学特論	83
B13-O ライフサイエンス論（お茶の水女子大学）	83
B13-G1 統合生命科学特論Ⅴ（学習院大学）	84
B13-G2 統合生命科学特論Ⅲ（学習院大学）	85
C01 先端有機化学特論	87
C01-K 有機化学特論（北里大学）	87
C02 構造理論化学特論	89
C02-O 分子分光化学特論（お茶の水女子大学）	89
C03 機能分子化学特論	91
C03-T 機能分子化学（東京科学大学）	91
C03-O1 超分子化学特論（お茶の水女子大学）	93
C03-O2 界面化学特論（お茶の水女子大学）	94
C04 ケミカルバイオロジー・創薬化学特論	95
C04-T ケミカルバイオロジー特論（東京科学大学）	95
C06 創薬物理化学特論	97
C06-K 創薬情報科学特論（北里大学）	97
C08 構造生物学特論	99
C08-T 分子構造学特論（東京科学大学）	99
C08-G 分子細胞生物学特論Ⅳ（学習院大学）	100
C09 タンパク質工学特論	102
C09-G 応用生物学特論Ⅱ（学習院大学）	102
C10 生体材料工学特論	103
C10-T1 生体材料学（東京科学大学）	103
C10-T2 応用生体材料学（東京科学大学）	104
C12 医歯薬産業技術特論	107
C12-T1 医歯薬産業技術特論（東京科学大学）	107
C12-T2 バイオメディカルデバイス理工学Ⅰ（東京科学大学）	108
C12-T3 バイオメディカルシステム理工学Ⅰ（東京科学大学）	110
I01 統計学特論	111
I01-K1 臨床統計学入門Ⅰ（北里大学）	111
I01-K2 臨床統計学入門Ⅱ（北里大学）	111
I01-O1 生命情報学演習（お茶の水女子大学）	112
I01-O2 データサイエンス特論（お茶の水女子大学）	114
I02 生命情報学特論	115
I02-T 疾患オミックス情報学特論（東京科学大学）	115
I02-O 生命情報学特論（お茶の水女子大学）	116
Q01 生命倫理学特論	118
Q01-T 研究倫理・医療倫理学（東京科学大学）	118
Q03 医療概論	120
Q03-O1 医療概論（お茶の水女子大学）	120
Q03-O2 生活習慣病医学・疫学（お茶の水女子大学）	122
Q03-K 衛生薬学特論（北里大学）	122
Q04 産学リンケージ特論	124
Q04-T 産学リンケージ特論（東京科学大学）	124
L01 科学英語	126
L01-O 英語アカデミック・プレゼンテーション（お茶の水女子大学）	126
L01-T 英語交渉・ディベート特論（東京科学大学）	127

J01 留学生特別科目	128
J01-O 特設日本語（お茶の水女子大学）	128
E01 Neuro Diseases	130
E01-T Introduction to Medical Neurosciences.....	130
E02 Immunology	132
E02-T Immunology.....	132
E06 Development and Regenerative Science	134
E06-T Developmental and Regenerative Bioscience.....	134
E08 Functional Molecular Chemistry.....	135
E08-T Introduction to Chemistry and Biology of Biofunctional Molecules.....	135
E09 Chemical Biology.....	136
E09-T Chemical Biology.....	136
E11 Molecular Structure	137
E11-T Special Lectures on Molecular Structures.....	137
E12 Biomaterial Science.....	138
E12-T Advanced Biomaterial Science	138
E14 Omics Informatics	139
E14-T Disease OMICS Informatics	139
E16 Biomedical Device and System.....	140
E16-T1 Biomedical Device Science and Engineering II	140
E16-T2 Biomedical System Science and Engineering II	141
E17-T Applied Biomaterials	143
E18 Summer Program	144
E18-O Special Lectures in Humanities and Sciences III.....	144
E19 Disease Prevention Medicine.....	145
E19-T Overview of Public Health Medicine in Disease Prevention	145
各大学キャンパスマップ	147
<東京科学大学>	147
<お茶の水女子大学>	149
<学習院大学>	151
<北里大学>	152

学際生命科学東京コンソーシアムの概要

学際生命科学の高度化において互いに補完的な特色を有し、東京の中心部に位置する東京科学大学大学院(生命情報科学教育部・疾患生命科学研究部)、お茶の水女子大学大学院(人間文化創成科学研究科理学専攻およびライフサイエンス専攻)、北里大学大学院(薬学研究科薬学専攻)、学習院大学大学院(自然科学研究科生命科学専攻)の4大学が中核となり、学際生命科学東京コンソーシアムが設置されました。四大学は、首都圏の様々な研究機関・企業・自治体と連携の輪を広げて産官学地域ネットワークを確立し、地域ネットワークと連携しつつ補完的に大学院共通カリキュラムの開発やインターンシップ共同実施、学生支援共同実施等の教育高度化システム構築や地域連携、国際化推進を行います。このような取り組みにより国・私立の枠を超えて地域と連携した異分野融合的教育研究環境を構築し、幅広い学識を備え真の社会ニーズを理解して探究できる人材の育成を行うとともに生命科学領域の産官学地域拠点形成を行います。

URL: <http://square.umin.ac.jp/DPSC/>



履修方法

履修を希望する者は、講義が行われる大学院ではなく、自分が所属する大学院の教務を通じて履修手続きをしてください。以下の通り、各大学院で履修登録の締め切り日が異なります。所属大学院の締め切りと、講義を行う大学院の締め切りの両方に間に合うよう注意し、また追加で提出していただく書類等があるため、早めの登録を行ってください。なお、履修手続き完了後の変更等については、所属大学または科目開講大学のアドバイザー教員へ相談してください。

手続き期間一覧	履修を希望する講義を行う大学院			
所属大学院	東京科学大学	お茶の水女子大学	学習院大学	北里大学
東京科学大学 大学院生	-	前期：4/1～4/8 後期：9/14～9/18	前期・後期共通 4/4～4/9のみ(※)	前期・後期共通 4/7～4/10 変更(後期) 9/7～9/8
お茶の水女子大学 大学院生	前期：4/3～4/9 後期：9/16～9/23	-	前期・後期共通 4/4～4/9のみ(※)	前期・後期共通 4/7～4/10 変更(後期)： 9/7～9/8
学習院大学 大学院生	前期・後期共通 4/3～4/9のみ	前期・後期共通 4/1～4/8のみ	-	前期・後期共通 4/7～4/10 変更(後期) 9/7～9/8
北里大学 大学院生	前期：4/3～4/9 変更(後期)：9/16～ 9/23	前期：4/1～4/8 後期：9/14～9/18	前期・後期共通 4/4～4/9のみ(※)	-

※但し、上記の期間に所属校への申請に加えて、同期間内に、後述の<学習院大学で開講される科目を履修する場合>記載の内容に従って、学習院大学宛てにメールをお願いいたします。

1. アドバイザリー教員

<東京科学大学>

松田 憲之 nr-matsuda.biom@tmd.ac.jp

伊藤 暢聡 ito.str@tmd.ac.jp

梶 弘和 kaji.bmc@tmd.ac.jp

<お茶の水女子大学>

棚谷 綾 tanatani.aya@ocha.ac.jp

由良 敬 yura.kei@ocha.ac.jp

<学習院大学>

菱田 卓 takashi.hishida@gakushuin.ac.jp

柳 茂 shigeru.yanagi@gakushuin.ac.jp

<北里大学>

前田 和哉 maedak@pharm.kitasato-u.ac.jp

田辺 光男 tanabemi@pharm.kitasato-u.ac.jp

2. 履修方法

<東京科学大学で開講される科目を履修する場合>

1) 手続き期間

前期 2026年4月3日(金)~4月9日(木)

後期 2026年9月16日(水)~9月23日(水)

2) 他大学の大学院生のための履修登録に当たっての注意事項

履修登録は所属する大学院と、東京科学大学の履修登録の締め切りの両方に間に合うように、所属する大学院で手続きを行ってください。

履修取り消しは、所属大学および科目を開講する大学のルールに従ってください。

3) 他大学の大学院生が履修する際の注意事項

- ・履修を認められた者は、東京科学大学特別聴講生となり、所属大学で履修登録証を発行します。
- ・シラバスに記載している授業実施方法から変更となる可能性がありますので、授業担当教員や大学からの連絡を確認するようお願いします。
- ・台風等の自然災害や交通機関運休による休講措置については本学のHPをご確認ください

4) 講義内容、日程の変更等の情報の入手方法

メールおよびホームページ上で行います。また、以下のサイトから検索が可能

です。

<http://square.umin.ac.jp/DPSC/>

または、以下の本学 HP「医歯学総合研究科修士課程履修要項」をご覧ください。

<http://www.tmd.ac.jp/campuslife/syllabus2/index.html>

5) 教務に関わる問い合わせ先

教務課湯島教務室大学院教務第 2 グループ (1 号館西 1 階)

TEL: 03-5803-4534

E-mail: grad02@ml.tmd.ac.jp

<お茶の水女子大学で開講される科目を履修する場合>

1) 手続き期間

前期 2026 年 4 月 1 日(水)～4 月 8 日(水)

後期 2026 年 9 月 14 日(月)～9 月 18 日(金)

2) 他大学の大学院生のための履修登録に当たっての注意事項

所属する大学院の手続きに加えて、下記フォームも期間内に入力してください。

<https://forms.office.com/r/yWQeCpnCaE>

※入力がない場合、授業受講のための資料や Web ページを閲覧するためのアカウントの発行が出来きませんのでご注意ください。

3) 他大学の大学院生が履修する際の注意事項

履修を認められた者は、お茶の水女子大学特別聴講学生となり、所属大学で履修登録証を発行します。

4) 講義内容、日程の変更等の情報の入手方法

以下のサイトから検索が可能です。

<http://tw.ao.ocha.ac.jp/Syllabus/>

5) 教務に関わる問い合わせ先

学務課大学院担当 (学生センター棟 1 階)

TEL: 03-5978-5821/5822

E-mail: daigakuin@cc.ocha.ac.jp

<学習院大学で開講される科目を履修する場合>

1) 手続き期間

前期・後期:

2026 年 4 月 4 日(土)～4 月 9 日(木)

注) 東京科学大学・お茶の水女子大学・北里大学の院生が学習院大学設置の科目

を聴講する場合、上記の期間、所属大学に申請していただくことに加えて、学習院大学教務課宛てに以下のとおりメールをお送りください。(北里大学の院生は所属校事務室を CC にいれたうえでメールをお送りください。)

宛先 : s226510d@gakushuin.ac.jp

件名 : 「大学院履修願 (コンソーシアム)」

必要事項 : 申請フォーマットの添付

※申請フォーマットは各所属大学から配付されます。

メール受信後、学習院大学から、直接メールにて、ポータルサイト・ラーニングマネジメントシステムの ID・パスワードをお送りします。

- 2) 他大学の大学院生のための履修登録に当たっての注意事項
学習院大学で集中講義として、あるいは後期に設定されている科目でも、必ず上記期間に各大学院生自身が所属する大学の教務課で履修登録を済ませて下さい。
「後期からの登録」、「随時登録」は一切認められませんので、注意して下さい。
- 3) 他大学の大学院生が履修する際の注意事項
履修を認められた者は、学習院大学交流学生となり、所属大学で履修登録証を発行します。
- 4) 講義内容、日程の変更等の情報の入手方法
講義に関する連絡事項は、南 7 号館の掲示板にて確認してください。休講等のお知らせは学習院大学ポータルサイト (G-Port) もしくはラーニングマネジメントシステム (Moodle) にて連絡します。
- 5) 教務に関わる問い合わせ先
学生センター教務課、履修・成績窓口 (中央教育研究棟 1 階)
TEL: 03-5992-1453

<北里大学で開講される科目を履修する場合>

- 1) 手続き期間
前期・後期 2026年 4月 07日(火) ~ 4月 10日(金)
変更期間 (前期) 2026年 4月 16日(木) ~ 4月 17日(金)※1
変更期間 (後期) 2026年 9月 07日(月) ~ 9月 08日(火)※2
※1 前期科目、後期科目の追加・変更が可能。
※2 後期科目のみ追加・取消可能。これ以降の変更は一切認められませんので、ご注意ください。
- 2) 他大学の大学院生のための履修登録に当たっての注意事項
所属する大学院の教務(事務局)にて、北里大学所定の手続用紙「特別聴講学生出願・登録書」に必要事項を記入し、所属する大学院の承認印を受けた必要書類

を、本学事務室へ送付するよう依頼してください。

なお、所属する大学院と北里大学の登録締め切りの両方に間に合うように、所属する大学院で手続きを行ってください。

3) 他大学の大学院生が履修する際の注意事項

履修を認められた者は、北里大学特別聴講学生となり、所属大学で履修登録証が発行されます。北里大学図書館の利用を希望する場合は、「北里大学図書館共通利用カード」を発行しますので、白金キャンパス大学事務室教務課(下記参照)へ申し出てください。

4) 講義内容、日程変更等の情報の入手方法

講義内容については、担当教員へ直接問合せてください。

(薬学部・薬学研究科ホームページ内の研究室紹介ページにアドレスを記載しています。)

→ <https://www.kitasato-u.ac.jp/pharm/research/laboratory/>

日程変更等については、講義内か所属大学を通してお知らせするか、Web シラバスに記載します。→ <https://kitasato-u.e-campus.gr.jp/public/syllabus/2026>

5) 教務に関わる問合せ先

白金キャンパス大学事務室教務課 (プラチナタワー1 階)

TEL: 03-5791-6486

3. 注意事項

<東京科学大学大学院生への注意事項>

以下の本学 HP に掲載している「医歯学総合研究科修士課程履修要項」記載事項に従い手続きをしてください。

<http://www.tmd.ac.jp/campuslife/syllabus2/index.html>

<お茶の水女子大学大学院生への注意事項>

「派遣学生申請書」を提出してください。様式等については別途案内しており、ポータルサイトよりご確認ください。

<学習院大学大学院生への注意事項>

履修を申請する用紙は、学生センター教務課にて配付していますので、手続き期間内に教務課へお越しくください。

<北里大学大学院生への注意事項>

履修希望科目の開講年度を確認したうえで、薬学部情報ポータルサイトに掲示される所定の履修登録期間内に登録手続きを済ませてください

履修モデル

大学院生の皆さんが、この共通シラバスの中から履修する科目を選択する上で役立つように、代表的な職種に分けて履修モデルをまとめました。それぞれの職種別に、必要度に応じて「ぜひ受講したい科目」と「できれば受講したい科目」の科目群に分けた履修候補科目が記載されています。また、現在、それらの分野で活躍中の4大学卒業生から寄せられた皆さんへの有用なアドバイス、さらには、各分野の企業や官公庁の方々からも「大学院で身につけておくべき知識や技術」に関する貴重なアドバイスが掲載されています。ぜひ、これらを参考にして、いま社会で必要とされている人材がどのようなものであるかを感じとって、自らのキャリア形成のために、この特徴ある共通シラバスから適切な履修選択をされることを期待します。

1. 製薬業界(創薬・生命系)を目指す大学院生へ
2. 製薬業界(創薬・有機合成系)を目指す大学院生へ
3. 臨床開発職を目指す大学院生へ
4. 化学業界を目指す大学院生へ
5. 食品業界を目指す大学院生へ
6. 化粧品業界を目指す大学院生へ
7. 理系メディア業界を目指す大学院生へ
8. 公務員を目指す大学院生へ

アンケート結果に基づいた履修モデル一覧表

1. 製薬業界(創薬・生命系)を目指す大学院生へ

製薬業界の研究は、シーズ探索から、構造解析、作用機序の解析、安全性・毒性の解析、薬物動態の解析など多岐にわたり、生化学、分子生物学、神経科学、免疫学、タンパク化学などの幅広い生物学系の知識が必要となる。また、医薬品を構造から理解するためには、有機化学の基礎的な知識は必須であり、さらに作用を解析する上では、薬理学や生物統計学も大変重要である。また、動物実験の経験や特許に関する知識などもあるとより選択の幅は広くなると考えられる。さらに、製薬業界は、医薬品を市場に送り出すという点で、医療現場における重要な役割を担っていることを忘れてはならず、医療に携わる心構えも十分に持ちたい。

履修候補科目

◎ぜひ受講したい科目

- B01 神経科学特論
- B02 免疫学特論
- B04 発生学特論
- B05 ゲノム科学特論
- B10 薬理・薬物学特論
- B11 薬剤・分析学特論
- I01 統計学特論
- I02 生命情報学特論
- Q01 生命倫理学特論

○できれば受講したい科目

- B07 糖鎖科学
- B08 生命薬学特論
- C04 ケミカルバイオロジー・創薬化学特論
- C05 ケミカルバイオロジー演習



卒業生アンケート

大学院で生命科学系を選んだ理由を教えてください

- 自分で新しいものを創ったり発見したりすることができる基礎研究に興味を持っていたためです。また、将来、創薬研究に携わりたいという希望があったので、そのための知識や技術を習得できると思ったからです。
- 創薬に関する研究を行いたいと考えていましたので、そのために必要な知識・技術を習得することができると思ったからです。

現在の仕事に直接役立っている大学院の科目を教えてください

- 生命薬化学特論では、創薬研究に必要な知識がわかりやすく説明されていました。仕事の会話で出てくる用語や概念を理解するのにも役立っています。
- ケミカルバイオロジー・創薬化学特論：創薬研究の様々な分野に関わっている方の話を聞くことができました。実際の創薬研究では他分野との連携が重要なので、自分の分野以外にも知識を広げることは重要です。また、色々な会社の開発のアプローチを知ることができたのも、現在仕事をする上で貴重な知識になっています。

社会人として今の大学院生に勧めたい科目があれば教えてください

- 細胞シグナル制御学特論：新薬を創るには多数ある細胞シグナルのどこを標的にするかを考えなければいけないので、この様な事も学んでおけば良かったと思います。生体機能分子化学特論：薬の標的となる可能性のある受容体の知識は持っていた方が良いでしょう。
- データベース特論：業務では日々収集される膨大な量のデータを扱う必要があり、データを分析する技術が重要になります。こういった分析に必要な概念をもっと早い時期に学ぶことができたなら良かったと思います。

仕事をする上で身につけておくべき知識や技術があれば教えてください

- 論文を読んだりする機会が多いので、英語の知識。様々な病気に対する創薬研究の実情など、自分の専門以外の幅広い知識や製薬業界の動向に関する一般的知識。創薬の標的になりうる酵素や受容体についての知識や、その受容体や酵素と病気との関連の知識など、より生化学的側面の知識。
- 医薬品が実際に使われる臨床現場の知識。現在、製薬企業では新薬の開発を行うことだけでなく、医薬品に新たな付加価値を創出することも重要な研究開発の分野となっています。付加価値を創出するためのアイデアを出すには、実際に医薬品がどう使われるのか、現場を知ることが重要になります。

生命科学系の大学院生へひとこと

- 自分の専門については奥深く学び、専門以外のことについても幅広く興味を持ち学ぶと、多くの知識が吸収でき、将来役立つと思います。

- 大学院での研究を通して学んだことは、将来たとえちがう分野で研究を進めるうえでも必ず役に立ちます。研究者としての基礎を構築できるよう頑張りましょう。

企業アンケート

大学院で身につけておくべき知識や技術があれば教えてください

- 薬理、有機化学、無機化学等の基礎知識や自分の専門領域の基礎知識、一朝一夕では身に付かない英語力をしっかり身につけておくと、入社後大いに活用できると考える。あまり、自分のこれまでの専門に固執せずに、入社したらなんでもやってやるという気概をもって入ってきて欲しい。
- 創薬薬理研究では、細胞培養技術、分子生物学的な実験技術に加え、動物を用いた *in vivo* 研究の経験を積んでおくべき。開発薬理研究では、*in vitro* および *in vivo* の実験技術に加えて、臨床成績を示した論文を読めるようにしておくべき。特に疫学や統計学の知識を身につけておくとよい。
- 創薬化学に必要なほとんどの知識(特許、薬物動態、創薬の流れなど)は入社後に習得できる機会があります。しかしながら、科学の基本的な部分は各個人にまかされており、OJTでの教育にも限界があるので大学院できちんと身に付けて頂ければ助かります。
- タンパク化学もしくは *in vivo* の薬理評価の技術が必要であり、それに加えて分子生物学、免疫学もしくは組換え DNA 技術に関する知識や経験も有することが望ましい。また、研究所内での意思疎通に十分な口頭および文書でのコミュニケーション能力を有していることが必要である。
- 企業研究では決められた時間の中で、論理的にものを考え、効率的に実験し、その結果を人に分かりやすく伝えるという点が、基本的に重要になってくるかと思えます。なかなか大学で専門であった領域と、企業へ入社して担当する領域が一致することはありません。将来企業へ入社することを考えた場合、大学では上記一連の流れを効率的にこなせる技量を身につけることが重要となると思えます。
- 英語力、コミュニケーション能力、その専門分野における習熟度の高さなどが要求されるかと存じます。また、実際に入社した後、大学で習っているべき基礎学力(化学、生物学、物理学など)の強さがいろいろと間接的に仕事の作業効率を左右していると思えます。なお、オミックスの知識はある程度必要に感じます。またバイオインフォマティクスや計算化学といったコンピュータ科学を活用する知識があることが望まれるのではないかと考えます。
- 各々の分野での専門知識、実験手技・技術が習得されていること。製薬企業ですので、合成、製剤、分析、安全性、薬理に分かれており、これらの分野での基礎知識が必要となります。昨今、分子生物学が主流でございますが、動物を取り扱いますので、生理学等も重要になります。また、英語に関する能力、レポート作成能力、プレゼンテーション能力なども必要と考えます。

2. 製薬業界(創薬・有機合成系)を目指す大学院生へ

創薬研究では、有機化学、医薬化学は新規医薬品候補化合物の創出において非常に重要である。新規生理活性物質の探索から、効率的合成経路の確保、機能に關与する構造の解析、薬理活性・薬物動態・安全性をより改善するための類縁体開発など、新薬創出の基盤を担う。このため、しっかりとした有機化学の基礎知識や合成技術は不可欠である。また、新規化合物を設計、開発する上では、特許性を意識した研究姿勢も重要であり、さらには、データを解析するための統計学・情報科学の知識、および生化学・分子生物学・薬理学などの幅広い生物学系の知識を有していることも期待される。

履修候補科目

◎ぜひ受講したい科目

- C01 先端有機化学特論
- C02 構造理論化学特論
- C03 機能分子化学特論
- C04 ケミカルバイオロジー・創薬化学特論
- C05 ケミカルバイオロジー演習
- C06 創薬物理化学特論
- C08 構造生物学特論
- C09 タンパク質工学特論

○できれば受講したい科目

- B10 薬理・薬物学特論
- B11 薬剤・分析学特論
- I01 統計学特論
- Q01 生命倫理学特論



卒業生アンケート

大学院で生命科学系を選んだ理由を教えてください

- 高校生の頃から医薬品の研究を将来行いたいと考えており、有機化学及び実験も好きだったことから、薬学部の有機化学の研究室を選びました。
- 研究業務に従事したかったため。
- 医薬品の研究に関わりたいと考えていたため、それに必要な知識や技術を身につけられる大学院への進学を決意しました。

現在の仕事に直接役立っている大学院の科目を教えてください

- メディシナルケミストリーやプロセス化学、特許など、製薬メーカーで必ず必要となることの基礎を学びました。
- 創薬に関する授業、特許に関する授業。
- 創薬化学。

社会人として今の大学院生に勧めたい科目があれば教えてください

- 計算化学特論、蛋白質結晶学特論。現在仕事でコンピュータのドッキング計算や、化合物と蛋白の共結晶からドラッグデザインをしたりすることがあるので、これらについての基礎を勉強してみたかった。
- 統計学：様々な分野で統計の勉強をしておくと思えます。神経科学、遺伝学、免疫学、化学・物理系全般：知っておくと仕事の理解度が増すと思えます。
- 創薬物理化学特論：現在 *in silico* 等、計算化学の知識が仕事に必要な場合があるため。蛋白質結晶学特論：複合体結晶構造解析に関する知識が必要なため。生命薬化学特論：創薬に関する講義はあまりなく、会社に入ってからでは独学で勉強するしかなくなってしまうため、将来合成研究者として創薬研究を行いたい学生にはお勧めします。

仕事をする上で身につけておくべき知識や技術があれば教えてください

- 現在は製薬会社で有機合成を行っていますが、よい化合物を選択する際、活性だけでなく動態や物性など様々なパラメータのバランスを考えて化合物のデザインをしなくてはなりません。そこで、これまでに(特に近年に)上市された薬がどのような経緯でその化合物にたどり着いたのかというようなことを聞ける講義があると素晴らしいと思えます。
- 統計：仕事上よく使うため。物理・化学：分析を行う上で、基本的な原理を理解するのに必要だと思うため。

- 現在特許業務を行うことが多々あるため、大学院生の頃から医薬品の特許に関する具体的な知識をつけておけば良かったと感じています。また、受容体理論や、*in vitro*でのスクリーニング方法などは入社してから初めてより詳しく学んだので、学生時代から有機化学者として最低限知っておくべきそれらの知識をつけておけば良かったと思います。

生命科学系の大学院生へひとこと

- やはり自分の作りたいものが確実に合成できるという力が最も重要だと思いますので、時間のある学生の時にいろいろな反応を使って多様な化合物を合成すると良いと思います。
- できるならば、幅広い知識を身に付けられるように勉強すると思います。
- 自分が専攻しようとしている専門分野だけは誰にも負けないように勉強頑張ってください。

企業アンケート

大学院で身につけておくべき知識や技術があれば教えてください

- 製薬会社の合成研究に関しては、大学院生向けに書かれた有機合成化学の教科書に載っている全反応について、原料と試薬を見たら、反応機構に基づいて生成物がすぐ書けるレベルになって欲しい。基本的な有機合成化学の実験技術(抽出、カラム精製、再結晶など)をきちんとできる技術を身に付けて欲しい。
- 創薬化学(有機化学)では有機化学(理論、技術)を基礎からキチンと修得して欲しい。化合物をモノとして取り扱える研究者が少なくなっている(例えば再結晶)。
- 探索合成(創薬化学)では、有機合成化学の基礎知識を習得した上で天然物合成化学、有機金属化学、(触媒的)反応有機化学等の特定の分野における専門知識ならびに実験技術を身につけ、さらに自分の研究テーマの意義や位置づけを理解しておくべき。
- 創薬化学は会社に入ってからでも学べる部分が多いので、学生の時代には有機合成化学の基礎知識を徹底的に習得・演習してマスターしてきてほしい。特に反応機構を矢印で直ぐに書くといった訓練をしてきた学生は、会社に入って伸びると感じている。
- 一般的な合成の知識は欲しいと思います。また、TLC を見ることによってフラスコの中で何が起きているかを考える力を養って欲しいと思います。最近の新入社員はLC/MS を測定するのみであまり考えない人が散見されます。また、NMR、IR、MS、UV、元素分析等を測定する意義とその解析については最低限学んで欲しいです。大学では基礎を叩き込んでくれることを期待しています。更に求めるとすれば、薬物動態、薬理学や生物学など合成以外の分野に興味を持っていてくれると優れた発想で仕事に入れるかもしれません。

3. 臨床開発職をめざす大学院生へ

多くの製薬メーカーや CRO では、就職後の配属先は多様で、修士課程で研究していた課題に直接関係することは非常に稀である。入社後に臨床開発に関する専門教育を行うことが多いので、大学院ではその基礎となる有機化学、生化学、生理学、薬理学などをきっちりと理解しておくことが望まれている。一方で、業務に役立つ科目として、薬物動態学、薬理学、統計学を挙げる先輩や企業が多い。また、医薬品開発に関連した法律についても習得が期待されている。この他、多くの企業が、論理的な思考力、語学力（英語）、コミュニケーションやプレゼンテーションの能力を期待している。

履修候補科目

◎ぜひ受講したい科目

- B10 薬理・薬物学特論
- B11 薬剤・分析学特論
- B13 総合生命科学特論
- I01 統計学特論
- I02 生命情報学特論
- Q06 トランスレーショナルリサーチ特論

○できれば受講したい科目

- C04 ケミカルバイオロジー・創薬化学特論
- C06 創薬物理化学特論
- C08 構造生物学特論
- I02 生命情報学特論



卒業生アンケート

大学院で生命科学系を選んだ理由を教えてください

- 就職先を考えた時、役に立つと考えたため。
- 仕事に活かせるより専門的な知識を身に付けたかったため。
- 将来、臨床開発に携わりたいと考え生命科学系の大学院を選びました。

現在の仕事に直接役立っている大学院の科目を教えてください

- 薬物動態学、薬剤学、薬理学。
- 生命薬化学特別講義、生体分子解析特別講義、薬品製造化学特別講義、医薬品化学特別講義、生物分子設計特別講義、生薬学特別講義、生化学特別講義、薬理学特別講義、分子薬理学特別講義、微生物特別講義、微生物薬品化学特別講義、薬剤学特別講義。臨床開発では、薬剤の開発された経緯、体内でのメカニズム、非臨床や臨床でのデータを医師へ説明する機会があるため、様々な形で上記の講義は役立っていると思います。

社会人として今の大学院生に勧めたい科目があれば教えてください

- 統計学特論：大まかな知識だけでも仕事はできると思いますが、詳細な部分も知っていれば知っているだけ仕事に活かせると思います。
- 社会人になって、実験計画の段階でどのようなデータが必要で、データの取り扱いをどうするかという点にもっとじっくり時間をかける必要があったと痛感しました。
- データベース特論、生命情報学特論、創薬物理化学特論：情報技術系の知識は今後非常に重要になってくると思います。
- 細胞シグナル制御学特論：薬剤の体内での動きを理解するため、生体機能分子化学特論：薬剤の体内での動きを理解するため、先端有機化学特論：薬剤の構造を理解するために必要、創薬物理化学特論：薬剤の構造を理解するために必要、臨床統計学入門：データを理解する際に統計をもっと勉強しておけば良かったと感じます、生命倫理学生命科学史特論：臨床試験では倫理感が大切だと思います、OMICS-based Drug Discovery and Development：近年 OMICS が注目されているため。

仕事をする上で身につけておくべき知識や技術があれば教えてください

- 英語の文献を読む力、医薬品開発の流れに関する知識、ADME (Absorption、Distribution、Metabolism、Excretion)についての知識。
- 臨床試験では、データの解析、解釈が重要なため、統計学の知識を身につけておけばよかったですと感じています。また、人を対象とした試験のため倫理感が非常に大切だと思います。

- 基本的な統計学の知識は治験実施計画を立案したり、理解したりする上で必要になるため、きちんと学習しておけば良かったと思いました。様々な疾患の診療記録を確認する仕事なので生理学や基礎的な疾患についての授業も学習しておくと思いつと思います。また、生命科学系とは関係ないですが、何もかもが英語なので読み書きだけでなく会話も含めて語学は学んでおくべきだったなと思います。

生命科学系の大学院生へひとこと

- 自分が何になりたいのか、今後どうしたいのかをきちんと見据えて入学されると良いかと思います。
- 大学院で学んだことは社会人になってからの大きな糧になると思います。進路選択も含め、沢山考え、沢山悩んでみてください。応援しています。
- 薬学部は6年制に変わり、戸惑う部分もあるとは思いますが、頑張ってください。

企業アンケート

大学院で身につけておくべき知識や技術があれば教えてください

- 医薬品開発では、分子生物学の知識、基礎的な医学的知識、基礎的な生物統計の知識を身につけると入社後に大変役立つと思います。これらの知識に加えて、論理的思考、コミュニケーション能力、英語力(会話と読み書き)等を身につけられているとよりいっそう良いと思います。
- 薬物動態部門における薬物動態や統計の知識、また統計解析部門の生物統計学の知識などは専門性の高い知識・経験が会社の業務に良く役に立つ例です。
- より基本的で Transferable な能力、具体的には (1)論理的思考、(2)本質を見出す能力、(3) Learning Agility、(4) Leadership、などの点をより重視した採用をしています。
- 「合成・製剤・分析・薬物動態・安全性・薬理」等の分野の基礎知識に加えて「医薬品開発の流れ」について知識があると、仕事に慣れ易いと考えます。その他、情報収集能力、対人能力(臨床開発はドクターとの面談が多いため)、PC 操作、資料作成能力、語学力(海外企業との連携プロジェクトへの対応)なども必要となります。
- 修士卒での新入社員に対しては特に特殊な知識、技術を要求しておりません。自然科学一般に対する広い知識と一般常識が必要と考えられます。また、英語が国際標準語である現在を考えると英会話、英語での mail、論文の作成能力が必要と考えます。
- 臨床開発モニター(CRA)では、臨床統計学、薬物動態学の知識を身につけていれば強みになると考えます。薬事法や GCP などの法規を含めた薬事行政と、薬理学の基礎も学習していればさらに導入は早いと思います。品質管理(QC)担当者では、薬事法や GCP などの法規を含めた薬事行政と、品質管理の概念を学習していれば導入は早いと思います。

4. 化学業界を目指す大学院生へ

最近の化学業界においては、バイオテクノロジーやナノテクノロジーなど従来の化学とは違った技術も導入して新しい物質や商品の研究・開発が行われており、また医薬品や健康食品などの開発も行われている。生命科学系の大学院生にも当然ながら基本的な化学の知識を持っていることが期待されており、化学系の講義の履修が望まれ、化学系の大学院生には、生命科学全般をカバーするライフサイエンス論などの履修が望まれる。研究・開発の国際化は言うまでもないが、営業、販売においても、海外での市場調査、マーケティングなどの重要性が年々高まっており、英語でのコミュニケーションおよびプレゼンテーション能力が求められる。国際的に活躍して行くためにも、確かな語学力を身につけることは必要であり、科学英語の講義や各種英語講義の履修も望ましい。

履修候補科目

◎ぜひ受講したい科目

- C01 先端有機化学特論
- C03 機能分子化学特論
- C05 ケミカルバイオロジー演習
- C10 生体材料工学特論
- C12 医歯薬産業技術特論

○できれば受講したい科目

- B10 薬理・薬物学特論
- B11 薬剤・分析学特論
- C02 構造理論化学特論
- Q03 医療概論

卒業生アンケート

大学院で生命科学系を選んだ理由を教えてください

- 大学で学んでいたことを更に深く学習しようと思ったため。
- 化学が好きで、学部時に配属された研究室の研究、実験が面白く、続けたいと思ったから。また、将来製薬メーカーで仕事をしたいと考えていたから。

現在の仕事に直接役立っている大学院の科目を教えてください

- 医薬品化学、薬品製造学。
- 有機化学系の分野の講義は、自分の専門領域であるので役に立っていると思う。



- 申し訳ありませんが、直接役立っている講義はない気がします。化学系の講義は、知識を高める上で重要だったとは思いますが。

社会人として今の大学院生に勧めたい科目があれば教えてください

- 化学物質や薬品に関する法律等を学べる科目があったら良いかなと思います。
- 自分の興味がある科目を受ければ良いと思います。特にこれが必要とは言えません。

仕事をする上で身につけておくべき知識や技術があれば教えてください

- 危険物取扱者の資格や消防法の知識。
- 現在の仕事では樹脂の合成の他に材料の物性評価なども行っているため、物理・工学系の特論を受けられたら良かったと思う。

生命科学系の大学院生へひとこと

- 他分野の研究をしている学生との積極的なコミュニケーションを。専門外で判らないことが聞ける貴重な存在になると思う。

- 大学院は、勉学はもちろんですが、様々な人との出会いにより貴重な経験を積める良い機会を得ることができる場であると思います。
- 生命科学系の大学院では色々な科目について学べる機会があることが良いところだと考えます。専門の知識について深く学ぶことは必要なことですが、社会に出たときに専門以外のことにいくわすことも多くあると思います。そんな時にも柔軟に対応できるように、多くのことについて興味をもって学び、楽しい大学院生活を送ってほしいと思います。

企業アンケート

大学院で身につけておくべき知識や技術があれば教えてください

- 研究開発職では、専門知識および周辺の技術知識、プレゼンテーション力をはじめとするコミュニケーション力、スケジュールマネジメント力。工場技術職では、専門知識および周辺の技術知識、法規の知識(消防法、毒劇物管理取締法など)、プレゼンテーション力をはじめとするコミュニケーション力。
- 人間力: 自分の能力と(組織上に)おかれた立場を客観的に把握する力、上記の能力と立場に応じて、組織最大力を引き出す知恵。共通能力: 英語力、知財センス、論理的思考と説得力。専門能力: 弊社は、バイオ系の学生をほとんど採用していないので、なんともいえませんが、論理的思考力があり、課題を深堀できる解析力と苦難に勝てる忍耐力があれば、専門能力のレベルは最低限あれば大丈夫です。
- 弊社の場合だと業種は石油化学工業、研究者の職務はポリマー材料の研究開発ということになるのですが、大学で汎用ポリマーを研究対象にしておられるところは少ないので、入社してから仕事に必要な知識を身に付けてもらっているのが現状です。具体的には、ポリマーの基礎知識、特許制度(国内、海外)、化学物質管理制度(国内、海外)などです。また、海外との交流機会も多いので、英語でのコミュニケーション力、プレゼンテーション力も必要です。さらに最近では、市場を意識した開発ができることが研究者にも求められており、いわゆる技術マーケティングの能力アップが必要とされています。弊社では新卒採用は修士卒がほとんどですが、仮に博士卒の場合であっても、教育項目に特に違いはありません。

5. 食品業界を目指す大学院生へ

食品業界では、市場調査、研究、開発、マーケティングなどにおいて、国内のみならず海外との交流機会が多く、英語でのコミュニケーションおよびプレゼンテーション能力の重要性を説く先輩や企業が多い。科学英語の講義や、各種英語講義を積極的に受講し、語学力の向上に努める必要がある。当然ながら、基本的な生命科学や統計学の知識を持っていることも期待されており、生命科学全般をカバーする講義や、統計学の履修が望まれる。食品業界も近年では、医薬品の開発などを手がけており、他に履修を検討すべき科目としては、有機化学、ケミカルバイオロジー、創薬化学、細胞生物学などが挙げられる。調理科学、食品分析、微生物等、食品に特化した基礎知識を修得したい場合は、食品科学の講義を履修するとよい。

履修候補科目

◎ぜひ受講したい科目

- B03 細胞情報伝達特論
- B12 食品科学特論
- B13 総合生命科学特論
- Q03 医療概論

○できれば受講したい科目

- B08 生命薬学特論
- B10 薬理・薬物学特論
- B11 薬剤・分析学特論
- C04 ケミカルバイオロジー・創薬化学特論
- I02 生命情報学特論
- Q06 トランスレーショナルリサーチ特論



卒業生アンケート

大学院で生命科学系を選んだ理由を教えてください

- 大学入学前より生命科学系分野に非常に興味があり、将来的にこの分野に携わった職業に就くことを目指していたから。
- もともと修士で就職するつもりだったので、まとまった研究をするためにも同じ研究室で同じテーマで研究を続けるのがよいだろうと思い、特に深くは考えず選択しました。

現在の仕事に直接役立っている大学院の科目を教えてください

- ライフサイエンス論は、様々な先生のお話が聞けて良かったです。
- バイオインフォマティクスの履修コースが設立され、一年にわたりいろんな授業を履修しました。どの授業もとても勉強になり、かつ即自分の研究に使えることが多かったです。特に、産業技術総合研究所での1ヶ月間のインターンシップはとてもためになりました。研究を進める上でバイオインフォマティクスのテクニックは必ず必要になると思います。

社会人として今の大学院生に勧めたい科目があれば教えてください

- 統計学は、どういう職種についても重要だと思う。是非身につけてほしい。
- それぞれの専門の教授が開催する院生向けの論文ゼミなどは役に立つと思います。研究職に進むならば、若いうちにもっと広く深い知識を身につければよかったと思います。一度ラボに入って専門ができると自分の分野の勉強に終始しがちですが、他分野(例えば専門が発生生物学なら生化学とか遺伝学とか、あるいは最近ならゲノムサイエンスなどもいいかもしれません)の論文を読みこむ機会があるのは良いように思います。教科書にはのっていないその分野特有の知識、技術、専門用語などを専門家の助けを借りて学べるといいと思います。その後の研究人生で、他の分野に手を出したいときや、学会等で様々なディスカッションについていかなければならない時が必ずでてきます。その時にサイエンス全体に対する広く深い知識が必要となります。

仕事をする上で身につけておくべき知識や技術があれば教えてください

- バイオインフォマティクス、OMICS 解析は、医薬品開発において重要な予測、解析ツールとなると思うので、身につけておけば良かったと思う。
- 研究をしていく上では、世界各国の人々との協力は欠かせません。世界の歴史や文化、日本の伝統などについてもっと知識を積んでおけば良かったと思っています。

生命科学系の大学院生へひとこと

- 生命科学は、まだまだ未知なことでいっぱいだと思います。是非ともたっぷりある時間を使っていろんな発見をし、世界的に活躍できる研究者になれることを応援

しています。

- 社会人になって感じるのは、人との繋がりがとても大切だということでした。勉強も大事ですが友人関係も構築して行って下さい。
- 研究職に就くつもりのない人も、ぜひ研究生活を楽しんでほしいです。特に友達や先輩・後輩などよい仲間をたくさんつくってください。
- 専門への深い理解、専門以外の幅広い知識の習得を通じて、論理的思考能力と実践力を身につけるとあらゆる業界でうまくやっていけると思います。

企業アンケート

大学院で身につけておくべき知識や技術があれば教えてください

- 求められる知識は職種により大きく異なるため、それぞれの職種にあわせた入社後の指導体制が整っています。ただし、基礎的な知識は必要で、具体的には、微生物系では 1. 遺伝子操作技術、2. タンパク質操作技術、3. 大腸菌の取り扱い、4. HPLC、GC (MS) を用いた分析が出来れば良いと思います。知識や技術そのものよりも、それをどのように会社での研究に活かせるかといった応用力こそ重要になります。
- 技術系人材の中核は修士卒の皆さんです。技術系の職種は幅広く、特殊な専門知識は仕事の必要に応じて身につければ良いと考えており、寧ろ科学的なものの見方や思考法が身につけているかどうか、新しい領域に対する適応力・応用力があるか、食品に対する基本的な知識(又は興味関心)があるか等を採用の際は見るようにしています。また、受身ではなく主体的な行動力があるかどうかも重要視しています。
- 食品業界では食品衛生 (HACCP 等) や食品栄養の基礎知識に加えて、分析化学、毒性学、統計学、オミックスのような医薬品開発の際に必要な知識もあるとなおよい。食品の機能性や安全性を研究する際、これらの基礎知識が必要となる。
- 具体的に何をしたかよりも、「研究」という作業を通じて「論理的構成力」が習得できていればよい。専門知識は入社後に身につければよいし、食品加工技術が求める知識は「専門的に深く」よりも「浅くてかまわないので出来るだけ広く色々なこと」なので、入社後の勉強で十分対応可能。

6. 化粧品業界を目指す大学院生へ

化粧品業界は、世界中でビジネスを展開しているグローバルカンパニーが多く、海外出張や海外赴任の際はもちろん、日本国内でも日々英語で仕事が進められている。また近年では、化粧品業界も美容関連品や健康食品などの開発を手がけている。したがって、履修が望ましい科目として、生命科学や化学に関する英語講義、生命倫理学特論、先端有機化学特論、免疫学特論、心理臨床学特論、食品科学特論などが挙げられる。また、基本的な生命科学や統計的手法の知識も期待されており、ライフサイエンス論、生命科学演習、統計学特論等も選択履修するとよい。

履修候補科目

◎ぜひ受講したい科目

- B02 免疫学特論
- C05 ケミカルバイオロジー演習

○できれば受講したい科目

- B03 細胞情報伝達特論
- B08 生命薬学特論
- B13 総合生命科学特論
- C01 先端有機化学特論
- C03 機能分子化学特論
- Q03 医療概論
- Q06 トランスレーショナルリサーチ特論

卒業生アンケート

大学院で生命科学系を選んだ理由を教えてください

- 高校生の頃から生命科学に興味があり、研究者になりたいと思っていたため。
- 生物学や医学など、生命に関する知識を総合的に学びたかったから。

現在の仕事に直接役立っている大学院の科目を教えてください



- 大学院の授業だったのかは覚えていないのですが、海外の研究者のセミナーを聞いて、それについてディスカッションをする授業。他大学や国外の研究者の実際の研究内容を聞くのは、これから研究をしていく上で、イメージも膨らむし、様々な分野を知ることにも出来ますし、大変ためになると思います。
- バイオ産学連携特論：企業の研究は常に特許を意識していなければならないため、特許など知的財産の考え方を学ぶことのできたバイオ産学連携特論は非常に役に立っている。免疫学・生体異物情報学：医薬品や化粧品の研究の場合、たいいていの疾患に免疫反応が関与してくるため、免疫学の基礎を網羅的に学ぶことができた本講義は役に立っている。

社会人として今の大学院生に勧めたい科目があれば教えてください

- 他大学院の科目の受講を積極的にお勧めしたいです。分野も、自大学にはないような分野を受講し、他大学院の雰囲気も知ることによって、視野が広がると思います。そのような中で、だんだんと自分のやりたいことが絞れてくるのではないのでしょうか。
- 免疫学・生体異物情報学：免疫学の基礎を網羅的に学ぶことができた。糖質科学特論：最近、糖質科学はどの分野の研究においても注目され始めている印象を受けるので基礎を学んでおくと役立つかもしれない。統計学特論：臨床試験をまとめる時に統計の知識は必須なので、基礎を学んでおくと良いと感じる。
- 医薬品の効力を考える上で、免疫系に関して深く理解できていると研究を進める上で考えやすかったため、免疫系に関する科目。

仕事をする上で身につけておくべき知識や技術があれば教えてください

- 細かい知識や技術は、その都度、いつでも身につけられると思います。幅広い分野への興味や、研究自体への深い興味、考える力などを身につければよいのではないのでしょうか。また、基本的な実験手技の正確性や、信頼できるデータを出す能力も重要です。これらは、どんな分野を専攻していても、身につけることが出来ると思います。いずれにせよ、一般的な分子生物学・生化学の知識・技術は必要になってきます。今の研究の進め方や方向性を考える時、新しいテーマを考える時、幅広い分野への興味や理解、沢山の引き出しがあればある程いいのではないのでしょうか。
- 化粧品の研究を行っていますが、化粧には「人の心理状態」が深く関わってきます。「理系としての心理学」のような講義があれば受けておきたかったと感じます。
- 皮膚科にかかわる医薬品を扱っているため、皮膚に関して知識を持っていると研究に入りやすいと思う(入社後でも勉強の場はあるので、心配することはない)。

生命科学系の大学院生へひとこと

- 楽しくおもしろく、やりがいのある研究に出会えますよう。
- 生命科学という分野は、何か曖昧でつかみ所がない分野かもしれません。自分が興味を感じたことはどんどん自発的に学び、最終的に自分が研究してわくわくするような研究対象を見つけて下さい。卒業後どのような道に進むにしろ、学んだ生命科学の知識が仕事や日常生活、色々なところで役に立ちます。がんばってください。
- 仕事についてからは必要なことは仕事をしながら学んでいけるので、卒業後の仕事のためにどうしたらよいのかを考えるのではなく、現在の自分の研究についてしっかりと学んでほしいです。

企業アンケート

大学院で身につけておくべき知識や技術があれば教えてください

- 弊社では化粧品、健康食品の研究開発を行っておりますが、学際的な領域ですので、実際にはライフサイエンスのみではなく製剤化技術(物理、化学的な知識、技術)も必要になってきます。卒業時にそのすべてを習得しておくというのは不可能ですので、そのような知識、技術は入社以降に勉強して身につけていってもらえばよいと考えています。ですから卒業時に身につけておいていただきたいのは、応用的な知識、技術ではなく、1. 応用技術を理解できる生物学、化学の基礎知識、技術、2. 課題設定、遂行を自ら行うことができる研究推進力であり、そのあたりを採用時には重視しています。
- 弊社では「常にビジネスマインドを持ち、お客さまの期待に応える価値を創造できる人材」を求めています。専門知識も必要ですが、それだけでは独創的な商品やソリューションを作り出し、提供することはできません。そのため、持続的なイノベーション創出には、1. 専門領域以外の幅広い視野、2. 常に自分の能力やスキル、

置かれている状況をグローバルレベルで認識できる客観性、3. 人との交わりを通じて他の人の価値観を受け入れられる柔軟性と多様性、4. 熱き心を秘めた行動力などが必要と考えています。自分の研究領域・専門分野に留まらず、市場との接点やお客さまとの接点を通じて、「研究の次のステージ」を描ける人材を期待しています。

7. 理系メディア業界を目指す大学院生へ

理系における幅広い知識はメディア業界、あるいはサイエンス・コミュニケーターのような職種からも求められている。例えば出版社における編集者は、企画発案から、原稿の依頼、ページ作りなど、本や雑誌が形になるまでの一連の長い作業にプロデューサー的な立場で関わって行く。そのため、オールマイティーに記事を書くスキルが求められるとともに、上がってきたさまざまな原稿をまとめるスキルも不可欠であり、専門書の出版社であってもジェネラリストである必要がある。専門書の編集といっても、視野、知識の広さは必須であり、大学院在学中にできるだけ多くの科目を履修し、勉強しておくことが望ましい。生命科学の専門的な講義の中でも、特に社会的に注目を浴びているトピックに関わる講義は、理系出版社での編集の仕事に直接役立つことが多い。また、編集業務の一環として、英語で書かれた専門書、論文を翻訳編集する業務もあるため、科学英語の講義や英語講義を履修し、語学力の向上に努める必要がある。

履修候補科目

◎ぜひ受講したい科目

- B05 ゲノム科学特論
- B08 生命薬学特論
- C01 先端有機化学特論
- I01 統計学特論

○できれば受講したい科目

- B09 植物環境応答学特論
- B12 食品科学特論
- C06 創薬物理化学特論
- Q01 生命倫理学特論
- Q03 医療概論
- Q04 産学リンクージュ特論

卒業生アンケート

大学院で生命科学系を選んだ理由を教えてください

- 学部4年生で配属された研究室での研究内容を深く掘り下げてみたいと思い、大学院に進みました。
- 学部時代とは異なる分野で研究活動をしてみたいと思ったためです。



現在の仕事に直接役立っている大学院の科目を教えてください

- 編集者という仕事のせいかもしれませんが、専門科目よりも他大学から講師を招いた集中講義の内容が印象に残っています。授業よりも、研究室のゼミでの発表、論文の読み込み、修士論文による文章力のアップが、今の仕事の役に立っています。
- 産学連携講座：研究の枠を一步はみ出て、社会経済の中での生命科学を捉える大変よい機会でした。実際に社会で活躍している先生の講義が大変魅力的でした。

社会人として今の大学院生に勧めたい科目があれば教えてください

- 統計学特論、生命倫理学特論、医療概論などは興味があります。編集者は各方面にアンテナを伸ばすことが重要ですので、欲を言えば「すべての授業を受けてみたい」といったところでしょうか。
- 私が今の考えで学生でしたらすべて受講したいです。広い知識は決して無駄にならないと思っています。自分の専攻と関係ないものをあえて学ぶということは、学生ならではの特権だと思います。

仕事をする上で身につけておくべき知識や技術があれば教えてください

- 英語を含めた外国語です。大学院のときが一番、論文を通して外国語にふれていたこともあり、社会人になって英語を使用する機会が少なくなって語学力が落ち、英文校閲が必要なときに困りました。
- 特にありません。どの分野もまんべんなく学習することが自分の視野を広げることになり、どのような仕事に就いても役立つと思います。

生命科学系の大学院生へひとこと

- 大学院では指導教官から研究を通して「常に本質を見失わず大局的に考えること」

を教えてください、社会人になってからも役立っています。研究職をめざすにしても他職種を選ぶとしても、大学院で「人生に大切な何か」を見つけてください。

- 学生時代にいかに見識を高められるかが、社会に出てからのリードに繋がります。研究はもちろん、色々なことにチャレンジして下さい。

企業アンケート

大学院で身につけておくべき知識や技術があれば教えてください

- 専門的知識があるに越したことはないですが、仕事に直接活かせることはほとんどありません。むしろ、専門的な知識に対しては「自分は素人である」という気持ちを常にもち、決して奢らないことが大切です。専門家の先生から話を聞き出し企画を立てるのがおもな仕事ですので、学会発表やセミナーで、コミュニケーション能力、ディベート能力を磨いてください。
- 出版社としては、専門知識も大切ですが、コミュニケーション力、計画を立てて実行する能力、発想力、細部にまで至るこだわり、などが重視されるかと思います。
- 当社では理系の学生さんに入社いただいた場合、編集職での配置が想定されます(あくまで総合職として採用)。その際、学部卒、大学院卒に関わらず、必ずしも必要とされる研究分野・領域はありません。ただし当社は、医学、看護、生化学、分子生物学に関する出版物を発行している会社ですので、携わる編集者が学生時代に自然科学での研究を通して得た知識や経験を、基礎的な能力として活かして欲しいと考えております。当社は専門出版社ではありますが、その対象とする分野・領域は広く、むしろ編集者としては、ご自身の研究とは専門外のことを担当することがほとんどです。そのため様々な分野に対する好奇心や、様々な分野の著者、執筆者の方々の能力を引き出す企画力等が要求されます。また出版物は著者、執筆者をはじめとした多くの人々との共同によって作られますので、「本を作る」という一つのプロジェクトを推進する、コミュニケーション能力が必要とされます。

8. 公務員を目指す大学院生へ

理系公務員と一口に言っても、公的機関における研究者のほか、地方自治体の検査技師、官公庁で働く技術官や行政官もいる。行政官に関しては、特許や商標などの産業財産権を扱う特許庁、教育および科学技術を扱う文部科学省において理系の人材が多く活躍している。研究職や技術職には高い専門性が必要とされるが、多岐に渡る研究分野の成果を評価、審査する行政官には、広い科学技術分野をカバーする理系としての総合的な知識を身に付けておくことが求められる。したがって行政官を目指す場合の必須科目としては、ライフサイエンス論、生命科学演習、医療概論、食品栄養科学研究法などが挙げられる。また、例えば特許庁で働くことを考えれば、研究開発が国際的に行われている現在、その成果も日本国内だけに留まらないため、海外での研究、特許についての情報収集が必要となる。自分が学んできた知識を活かしつつ、国際的にも活躍していくためには、確かな語学力を身につけることが必要であり、各種英語講義の履修も望ましい。

履修候補科目

◎ぜひ受講したい科目

- B13 総合生命科学特論
- Q03 医療概論
- Q04 産学リンケージ特論

○できれば受講したい科目

- B01 神経科学特論
- B04 発生学特論
- B09 植物環境応答学特論
- B11 薬剤・分析学概論
- B12 食品科学特論
- C09 タンパク質工学特論



卒業生アンケート

大学院で生命科学系を選んだ理由を教えてください

- 学部4年生時に配属された研究室での研究テーマに非常に魅力を感じていたため、その研究テーマを大学院においても継続する形で生命科学系大学院に進学しました。
- 生命科学関係の研究に携わる職業を考えていたため。

現在の仕事に直接役立っている大学院の科目を教えてください

- 大学院時代の経験で現在の仕事に最も直接的に役立っているのは、やはり卒業研究で身につけた技術と、その過程で様々な分野の先生方にお教え頂いた実践的な知識です。専攻横断的なライフサイエンス論は、自らの専門分野について様々な角度から考えをめぐらせるための基礎として役立っていると思います。
- 他大学からの非常勤講師による研究活動に関する集中講義、工学的な視点での研究の進め方がどのように異なるかについて目の当たりにすることができた。

社会人として今の大学院生に勧めたい科目があれば教えてください

- 仕事では幅広い知識を要求されるのですが、私は基礎研究に偏った科目選択をしていたため、もっと幅広く履修すべきであったと考えます。また、あったらよかった科目として、薬事法等の法律の勉強があります。私に限らず開発職を目指して就活されていた学生が多くいたと記憶しております。開発の大切なプロセスとして、研究者が見つけた薬を迅速に世に出し、メーカーとして利益を得る工程として、PMDAの審査を早くパスし、そして厚生労働省医薬食品局経済課との保険点数の交渉をすることがあります。その規制の根幹にある薬事法等の法律を幅広い観点から学ぶ機会があるとよいと思います。
- 統計学特論：苦勞して得たデータを最大限に生かしてあげるためには、正しい統計学の知識が必須です。英語アカデミックライティング：英語で論文を書くという行為は、人生において突如要求されるようになるようなものだと思います。あらかじめ、講義でノウハウを学んでおくとう便利かと思います。自大学にはない専門分野の他大学講義を積極的に受け、知識の幅を広げてください。
- 生命科学の社会的意義、社会的受容に関する講義：価値観を広く持って専門分野を見ることが重要。科学者倫理：研究者として何を大切にして行動するか、という基本的な行動原理の教育が必要。英語での論文作成、英語での学会発表等の方法論：共通的に必要な方法論は最初に学ぶことが必要。

仕事をする上で身につけておくべき知識や技術があれば教えてください

- もっと真剣に取り組んでおけばよかったと思うのは英語(読み書き会話すべて)です。どの職種においても昨今では英語によるコミュニケーション能力が要求されるかと思いますが、研究職では特に、英語が話せて当然というふしがあります。研究そのものにも英語は要求されますが、研究職の世界は閉鎖的に見えて意外と人とのつながりが重要だったりしますので、広く世界の研究者とコミュニケーションするため

に、英語はしっかり身につけておけばよかったと思っています。

● 行政で自然科学の全体像の土地勘を持つことが必要であるため、生命科学の学問体系やその変遷に関する知識を身につけておけば良かった。生命科学の学問分野を構造化させて見る見方を身につけたかった。

生命科学系の大学院生へひとこと

● 大学院へ進学する意味というのも多様化してきていると思います。思い描く将来も人それぞれだとは思いますが、研究室という場所で過ごす時間はとても特別な体験になるのではないかと思います。是非、楽しく、充実した時間を過ごしてください。

● どんな専門の研究をするにあたって、常にその意義を広い視点でとらえることを意識して学んでほしいと思います。

官公庁アンケート

大学院で身につけておくべき知識や技術があれば教えてください

● 国立大学の技術専門職には、広い範囲にわたる生化学および分子生物学の基礎的な手法に熟知していることが求められます。自身の研究課題だけからこのような知識を身につけるのは難しいので、学友を多く持って研究の話をしたり、学会などに顔を出して多少畑違いの話の聞いたりすることが重要になるかと思われます。最近では技術の変革、研究動向の変化などに関心を持つことも求められるでしょう。もちろん、基本的な英語によるコミュニケーション能力も必要です。国立大学が法人化される前は採用されるために国家公務員試験に合格しなければならなかったため、試験対策のための勉強をする必要もありました。

● ディベート力、社会的な問題に対する論理的な議論の展開。

● もう一つ学生さんに身に付けて欲しいのは「日本語力」だと考えております。或いはそれを含めた「コミュニケーションスキル」でしょうか。幹部の前で、かなり怪しい日本語を放つケースを散見します。言葉は生き物であり、時代と共に変わりゆくものであるという考えは尤もですが、オフィシャルな場できちんと話す力は、出来れば学生時代に身に付けておいて貰えれば非常に有難いと思います。

● 日本人の学生は、海外の学生と比較した場合、かなりおとなしく、あまり勉強も積極的ではないという話をよく聞きました。一時期は、日本人は勤勉だとか、忍耐強く、良いものを作り出すなどと評判は高かったのですが、今はそうでもない印象です。中国の特許庁で働いていたとき、いろいろな国の学生が話を聞きにくる際に、中国人学生はどんどん積極的に議論に加わり、こちらがひるむほどの真剣さで臨んでいたのに比し、日本から来た学生は教授の背後にモゾモゾと隠れ、議論に際しても大して勉強した形跡も無い印象でした。学生時代に大いにグローバルな刺激を受け、現代日本人固有の悠長な雰囲気は払拭されることを望みます。その結果、学生が海外に流れてしまうことがあったとしても、そうした試練も日本には必要なのかも知れません。

アンケート結果に基づいた履修モデル一覧表

◎ ぜひ受講したい科目 ○ できれば受講したい

科目

科目 \ 職種	製薬 (生命系)	製薬 (合成系)	臨床開発	化学	食品	化粧品	メディア	公務員
神経科学特論	◎							○
免疫学特論	◎					◎		
細胞情報伝達特論					◎	○		
発生学特論	◎							○
ゲノム科学特論	◎						○	
生命薬学特論	○				○	○	◎	
植物環境応答学特論							○	○
薬理・薬物学特論	◎	○	◎	○	○			
薬剤・分析学特論	◎	○	◎	○	○			○
食品科学特論					◎		○	○
総合生命科学特論			◎		◎	○		◎
先端有機化学特論		◎		◎		○	◎	
構造理論化学特論		◎		○				
機能分子化学特論		◎		◎		○		
ケミカルバイオロジ ー・創薬化学特論	○	◎	○		○			
ケミカルバイオロジ ー演習	○	◎		◎		◎		
創薬物理化学特論		◎	○				○	
構造生物学特論		◎	○					
タンパク質工学特論		◎						○
生体材料工学特論				◎				
医歯薬産業技術特論				◎				
統計学特論	◎	○	◎				◎	
生命情報学特論	◎		◎		○			
生命倫理学特論	◎	○					○	
医療概論				○	◎	○	○	◎
産学リンケージ特論							○	◎

共通科目一覧

年度の後ろに付す「前」は前期、「後」は後期、「集」は集中を表します。

【生命科学系】

科目番号 科目名	講義を行う大学院	単位	開講	ページ
B01 神経科学特論				
B01-T 神経疾患特論	東京科学大学	2 M	2026 前	44
B01-G1 分子細胞生物学特論 II	学習院大学	2 M	2026 後休講	45
B01-G2 統合生命科学特論 VI	学習院大学	2 M	2026 前	46
B01-01 細胞生理学	お茶の水女子大学	2 M	2026 前休講	48
B01-02 細胞生理演習	お茶の水女子大学	2 M	2026 後休講	49
B01-03 動物生理学特論	お茶の水女子大学	2 M	2026 前	51
B01-04 バイオメカニクス特論	お茶の水女子大学	2 M	2026 後	53
B02 免疫学特論				
B02-T 免疫学	東京科学大学	2 M	2026 後	57
B03 細胞情報伝達特論				
B03-T 細胞生物学特論	東京科学大学	1 M	2026 前	59
B03-G 統合生命科学特論 II	学習院大学	2 M	2026 前集中	60
B04 発生学特論				
B04-T 発生・再生科学	東京科学大学	2 M	2026 後	62
B04-0 分子発生学	お茶の水女子大学	2 M	2026 前	63
B04-G 分子細胞生物学特論 I	学習院大学	2 M	2026 前休講	64
B05 ゲノム科学特論				
B05-G 分子細胞生物学特論 V	学習院大学	2 M	2026 前集中	66
B05-01 環境発生進化学	お茶の水女子大学	2 M	2026 後集中	67
B05-02 環境発生進化学演習	お茶の水女子大学	2 M	2026 後集中	67
B07 糖鎖科学特論				

B07-0 糖鎖科学	お茶の水女子大学	2 M	2026 前	68
B08 生命薬学特論				
B08-K 生命薬学特論	北里大学	2 M	2026 後	70
B09 植物環境応答学特論				
B09-G1 統合生命科学特論 I	学習院大学	2 M	2026 前集中	72
B09-G2 統合生命科学特論IV	学習院大学	2 M	2026 前集中 中休講	73
B09-0 植物細胞生物学	お茶の水女子大学	2 M	2026 前	74
B10 薬理・薬物学特論				
B10-K 薬理・薬物学特論	北里大学	2 M	2026 前	76
B11 薬剤・分析学特論				
B11-K 薬剤・分析学特論	北里大学	2 M	2026 後	78
B12 食品科学特論				
B12-01 食品栄養科学研究法	お茶の水女子大学	2 M	2026 前	80
B13 総合生命科学特論				
B13-0 ライフサイエンス論	お茶の水女子大学	2 M	2026 前	82
B13-G1 統合生命科学特論 V	学習院大学	2 M	2026 前休講	83
B13-G2 統合生命科学特論 III	学習院大学	2 M	2026 前 集中 休講	84

【化学・物理系】

科目番号 科目名	講義を行う大学院	単位	開講	ページ
C01 先端有機化学特論				
C01-K 有機化学特論	北里大学	2 M	2026 後	86
C02 構造理論化学特論				
C02-0 分子分光化学特論	お茶の水女子大学	2 M	2026 前	88
C03 機能分子化学特論				
C03-T 機能分子化学	東京科学大学	2 M	2026 後	90
C03-01 超分子化学特論	お茶の水女子大学	2 M	2026 休講	92

C03-02 界面化学特論	お茶の水女子大学	2 M	2026 休講	93
C04 ケミカルバイオロジー・創薬化学特論				
C04-T ケミカルバイオロジー特論	東京科学大学	2 M	2026 前	94
C06 創薬物理化学特論				
C06-K 創薬情報科学特論	北里大学	2 M	2026 前	96
C08 構造生物学特論				
C08-T 分子構造学特論	東京科学大学	2 M	2026 後	98
C08-G 分子細胞生物学特論Ⅳ	学習院大学	2 M	2026 後	99
C09 タンパク質工学特論				
C09-G 応用生物学特論Ⅱ	学習院大学	2 M	2026 後 休講	101
C10 生体材料工学特論				
C10-T1 生体材料学	東京科学大学	2 M	2026 前	102
C10-T2 応用生体材料学	東京科学大学	2 M	2026 前	103
C12 医歯薬産業技術特論				
C12-T1 医歯薬産業技術特論	東京科学大学	1 M	2026 後	106
C12-T2 バイオメディカルデバイス 理工学Ⅰ	東京科学大学	1 M	2026 前	107
C12-T3 バイオメディカルシステム 理工学Ⅰ	東京科学大学	1 M	2026 前	109

【情報・数理系】

科目番号 科目名	講義を行う大学院	単位	開講	ページ
I01 統計学特論				
I01-K1 臨床統計学入門 1	北里大学	2 M	2026 前	110
I01-K2 臨床統計学入門 2	北里大学	2 M	2026 後	110
I01-01 生命情報学演習	お茶の水女子大学	2 M	2026 前	111
I01-02 データサイエンス特論	お茶の水女子大学	2 M&D	2026 後	113
I02 生命情報学特論				
I02-T 疾患オミックス情報学特論	東京科学大学	1 M	2026 前	114
I02-0 生命情報学特論	お茶の水女子大学	2 M	2026 前	115

【生命倫理・社会医学系】

科目番号 科目名	講義を行う大学院	単位	開講	ページ
Q01 生命倫理学特論				
Q01-T 研究倫理・医療倫理学	東京科学大学	1 M	2026 前	117
Q03 医療概論				
Q03-01 医療概論	お茶の水女子大学	2 M	2026 前	119
Q03-02 生活習慣病医学・疫学	お茶の水女子大学	2 M	2026 前集 休講	121
Q03-K 衛生薬学特論	北里大学	2 M	2026 前	121
Q04 産学リンケージ特論				
Q04-T 産学リンケージ特論	東京科学大学	2 M	2026 集	123

【科学英語】

科目番号 科目名	講義を行う大学院	単位	開講	ページ
L01 科学英語				
L01-0 英語アカデミック・プレゼンテーション	お茶の水女子大学	2 M&D	2026 後	125
L01-T1 英語交渉・ディベート特論	東京科学大学	2 M	2026 休講	126

【留学生特別科目】

科目番号 科目名	講義を行う大学院	単位	開講	ページ
J01 留学生特別科目				
J01-0 特設日本語	お茶の水女子大学	応相談	2026 春	127

【Lectures in English】

# Subject	Location	Unit	Term	Page
E01 Neuro Diseases				
E01-T: Introduction to Medical Neurosciences	Science Tokyo	2 M	2026 Fall	129
E02 Immunology				
E02-T: Immunology	Science Tokyo	2 M	2026 Fall	131
E06 Development and Regenerative Science				
E06-T: Development and Regenerative Bioscience	Science Tokyo	2 M	2026 None	133
E08 Functional Molecular Chemistry				
E08-T: Introduction to Chemistry and Biology of Biofunctional Molecules	Science Tokyo	2 M	2026 Fall	134
E09 Chemical Biology				
E09-T: Chemical Biology	Science Tokyo	2 M	2026 None	135
E11 Molecular Structure				

E11-T: Special Lectures on Molecular Structures	Science Tokyo	2 M	2026 None	136
E12 Biomaterial Science				
E12-T1: Advanced Biomaterial Science	Science Tokyo	2 M	2026 None	137
E14 Omics Informatics				
E14-T: Disease OMICS Informatics	Science Tokyo	2 M	2026 None	138
E15 Translational Research				
E16-T1: Biomedical Device Science and Engineering II	Science Tokyo	1 M	2026 Fall	139
E16-T2: Biomedical System Science and Engineering II	Science Tokyo	1 M	2026 Fall	140
E17 Biomaterial Application				
E17-T Applied Biomaterials	Science Tokyo	2 M	2026 None	142
E18 Summer Program				
E18-O: Special Lectures in Humanities and Sciences III	Ochanomizu U	2 M	2026 None	143
E19 Disease Prevention Medicine				
E19-T: Overview of Public Health Medicine in Disease Prevention	Science Tokyo	2 D	2026Fall	144

B01 神経科学特論

神経科学は、中枢神経系の形成機序および基本作動原理を解明し、脳の高次機能およびその破綻による精神神経疾患の病態を明らかにすることを目標としている。本特論では、神経科学の基礎的方法から最新の研究内容までを教授し、神経機能を制御することにより、認知行動といった高次生体機能の制御法についての教育を行う。

[対象履修モデル] 製薬(生命系), 公務員

B01-T 神経疾患特論 (東京科学大学)

担当者: 味岡 逸樹

講義時期: 2026 年度前期 (5 月 28 日~6 月 22 日)

講義場所: オンライン授業

講義の特徴: 脳の形成機序から作動原理までの正常な脳機能、脳研究の基本的な方法論、脳機能破綻による精神神経疾患の概略に関して、講義を行う。また、学外の講師による、最新の精神神経疾患に関する特別講義も行う。

レベル: 基礎的~先端的

講義内容:

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	5/28	08:50-10:20	ライブ	神経発生 1 (神経産生)	味岡 逸樹
2	5/28	10:45-12:15	ライブ	神経発生 2 (シナプス 1)	上阪 直史
3	6/1	08:50-10:20	ライブ	分子神経 1 (シナプス 2)	實吉 岳郎
4	6/1	10:45-12:15	ライブ	神経薬理 1 (ストレス 1)	勢力 薫
5	6/4	08:50-10:20	ライブ	神経生理 1 (神経回路)	平 理一郎
6	6/4	10:45-12:15	ライブ	神経生理 2 (情報処理)	磯村 宜和
7	6/8	08:50-10:20	ライブ	神経薬理 2 (ストレス 2)	古屋敷 智之
8	6/8	10:45-12:15	ライブ	脳とこころ 1 (ストレス 3)	内田 周作
9	6/11	10:45-12:15	ライブ	脳とこころ 3 (情動)	田中 大介
10	6/11	08:50-10:20	オンデマンド	脳とこころ 2 (精神疾患)	塩飽 裕紀
11	6/15	08:50-10:20	ライブ	脳とこころ 4 (子育て)	黒田 公美

12	6/15	10:45-12:15	ライブ	神経病態3 (神経疾患)	吉岡 耕太郎
13	6/18	08:50-10:20	ライブ	神経病態2 (神経免疫)	七田 崇
14	6/18	10:45-12:15	オンデマンド	神経病態3 (分子医薬)	坂上 史佳
15	6/22	10:45-12:15	ライブ	総まとめ	味岡 逸樹

単位： 2単位 (修士課程)

成績評価：成績評価は、授業の参加状況 (50点) と試験の総合点 (50点) を総合して評価する。

参考書：脳神経疾患の分子病態と治療への展開：アルツハイマー病，パーキンソン病，発達障害，精神疾患などの発症メカニズムを分子から解く／貫名信行，西川徹編集，貫名，信行，西川，徹，：羊土社，2007
「脳神経科学イラストレイテッド」 (羊土社)、「脳・神経科学入門講座 (上・下)」 (羊土社)
「脳と神経-分子神経生物学入門」 (共立出版)
「記憶と脳」サイエンス社
「Neuroscience-Exploring the brain」 (Lippincott Williams & Wilkins)
「From Neuron to Brain」 (Sinauer)
「精神の脳科学」 (シリーズ脳科学6、東京大学出版会)

B01-G1 分子細胞生物学特論Ⅱ (学習院大学)

担当者： 掛川 渉

講義時期： 隔年開講のため2026年度は開講されない。(2027年度後期・木曜日2限に開講予定)

講義場所： 教室未定

講義の特徴： 記憶や学習をはじめとする高次脳機能を支える脳内神経細胞に注目し、その機能的・形態的特性や生理的役割について、最新の分子細胞生物学研究の新知見を含めて概説する。

レベル： 中級

講義内容：

回数	日時	内容	担当者
1		イントロダクション	掛川 渉
2		興奮伝導	掛川 渉
3		イオンチャネルの構造と機能	掛川 渉
4		神経伝達受容体	掛川 渉

5		シナプス（１）	掛川 渉
6		シナプス（２）	掛川 渉
7		シナプス可塑性と記憶・学習	掛川 渉
8		運動系と制御系	掛川 渉
9		視覚系	掛川 渉
10		情動系	掛川 渉
11		脳の疾患	掛川 渉
12		神経科学研究最前線（１）	掛川 渉
13		神経科学研究最前線（２）	掛川 渉

単位： 2単位（修士）

成績評価： 授業での発表内容、授業への参加度、グループ作業の成果など 100%

B01-G2 統合生命科学特論VI（学習院大学）

担当者： 若月 修二

講義時期： 2026年度第1学期（前期）・金曜日2限（隔年開講のため2027年度は開講されない）

講義場所： 未定

講義の特徴： 神経生物学は、ヒトの脳がどのような分子・細胞・神経回路レベルの基本原則に基づいて形成され、いかにして高度な情報処理機能を発揮するのかを解明する学問分野である。脳機能の理解には、神経細胞がどのような性質を持ち、いかにして機能的な神経回路を構築するのかを分子・細胞レベルから捉える視点が不可欠である。

神経細胞は、他の体細胞と共通の分子要素から構成される一方で、軸索伸長、シナプス形成、回路の精緻化といった過程を通じて高度に組織化された細胞間ネットワークを形成する。このネットワーク形成により、情報の統合・保持・変換といった脳特有の機能が可能となる。

本講義では、こうした神経細胞の特殊化を細胞生物学的観点から捉え、個々の分子機構が神経回路機能へと統合される過程を理解することを目標とする。講義では、神経系の発生と構築、神経ネットワーク形成、シナプス機能と可塑性を軸に、記憶・学習・情動などの高次脳

機能を支える分子基盤を体系的に概説する。さらに、これらの正常機構の破綻が、神経発達障害、精神疾患、神経変性疾患といった病態にどのように結びつくのかを、近年の研究果を踏まえて考察する。神経科学を専門としない学生も対象とし、基礎概念の整理から最先端研究の位置づけまでを俯瞰することで、各自の専門分野と神経生物学を結びつける視点の獲得を目指す。

レベル： 中級

講義内容：

回数	日時	内容	担当者
1	4/17 (金) 2限	開講にあたって：講義の目的と全体像	若月 修二
2	4/24 (金) 2限	神経発生：神経細胞の誕生・移動・分化を制御する分子機構	若月 修二
3	5/1 (金) 2限	神経系の成り立ち：中枢・末梢神経系を構成する細胞種とその機能的役割	若月 修二
4	5/8 (金) 2限	経ネットワーク形成：軸索誘導、シナプス形成、回路精緻化	若月 修二
5	5/15 (金) 2限	シナプスの構造と機能、可塑性：神経伝達物質、受容体・イオンチャネルとシグナル伝達	若月 修二
6	5/22 (金) 2限	脳の高次機能：記憶と学習、情動の神経基盤	若月 修二
7	5/29 (金) 2限	前半のまとめ	若月 修二
8	6/5 (金) 2限	脳と遺伝子：遺伝子発現制御と神経機能・行動	若月 修二
9	6/12 (金) 2限	神経変性疾患：分子病態と神経回路破綻	若月 修二
10	6/19 (金) 2限	神経発達障害・精神疾患：発生・可塑性異常の視点から	若月 修二
11	6/26 (金) 2限	神経研究の最先端 1	若月 修二
12	7/3 (金) 2限	神経研究の最先端 2	若月 修二
13	7/10 (金) 2限	総括：神経生物学の統合的理解	若月 修二

単位： 2単位（修士）

成績評価： レポート 80%、平常点（出席、クラス参加、グループ作業の成果等）20%、講義内容に沿ったレポート出題に答えること。各自の研究内容について説明できること。初回講義に出席し、期限内にレポート提出を終えること。

教科書：スタンフォード神経生物学, Liqun Luo (監訳：柚崎通介、岡部繁男), メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2017, 8, 978-4-89592-888-5 (基本的に教科書に沿った授業を実施するが購入は必須ではない)

参考文献：カンデル神経科学, Eric R. Kandel 他, メディカル・サイ

エンス・インターナショナル, 2022, 2, 978-4-8157-3055-0 (講義では使用しない。神経科学について体系的に学ぶことができる世界的に評価の高い書籍である)

B01-01 細胞生理学 (お茶の水女子大学)

担当者: 毛内 拓

講義時期: 今年度は開講しない

講義場所: 今年度は開講しない

講義の特徴: 私達の行動や認知を担う脳機能は、脳細胞であるニューロンとグリア細胞およびその他の要素の統合的な相互作用によって成り立っている。特に高次脳機能におけるこれらの要素と神経回路ネットワークとのシナプスを介さない相互作用が重要な役割を果たしていることを学び、脳が生きているとはどういうことかを理解する。最新(2年以内)の神経生理学関連の論文を選び、内容について簡潔に要約し、発表する。受講者は週ごとに担当する回を決め、自分の担当の回は、わかりやすい発表を心がける。自分が発表担当でない場合は、積極的な質問を行い、内容の理解に努める。発表はパワーポイントを用いたプレゼンテーション(日本語)を行う。発表の前日までに、取り上げる論文とその要旨を参加者全員にアナウンスすること。

レベル: 上級

講義内容:

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1		9:00-10:30	理学部 2号館 306 室	論文紹介 (1)	毛内拓
2		9:00-10:30	理学部 2号館 306 室	論文紹介 (2)	毛内拓
3		9:00-10:30	理学部 2号館 306 室	論文紹介 (3)	毛内拓
4		9:00-10:30	理学部 2号館 306 室	論文紹介 (4)	毛内拓
5		9:00-10:30	理学部 2号館 306 室	論文紹介 (5)	毛内拓
6		9:00-10:30	理学部 2号館 306 室	論文紹介 (6)	毛内拓
7		9:00-10:30	理学部 2号館 306 室	論文紹介 (7)	毛内拓
8		9:00-10:30	理学部 2号館 306 室	論文紹介 (8)	毛内拓
9		9:00-10:30	理学部 2号館 306 室	論文紹介 (9)	毛内拓
10		9:00-10:30	理学部 2号館 306 室	論文紹介 (10)	毛内拓

11		9:00-10:30	理学部 2 号館 306 室	論文紹介 (1 1)	毛内拓
12		9:00-10:30	理学部 2 号館 306 室	論文紹介 (1 2)	毛内拓
13		9:00-10:30	理学部 2 号館 306 室	論文紹介 (1 3)	毛内拓
14		9:00-10:30	理学部 2 号館 306 室	論文紹介 (1 4)	毛内拓
15		9:00-10:30	理学部 2 号館 306 室	論文紹介 (1 5)	毛内拓

単位： 2 単位（修士課程）

成績評価： 講義への出席状況と発表

教科書： 毛内拓 著『脳を司る「脳」』講談社ブルーバックス

参考書： 標準生理学 第 9 版 | 書籍詳細 | 書籍 | 医学書院

工藤佳久 著 「もっとよくわかる脳神経科学 やっぱり脳はとってもスゴイのだ！」羊土社

工藤佳久 著 「脳とグリア細胞」技術評論社

宮川博義・井上雅司 著「ニューロンの生物物理 第 2 版」丸善出版

カラー版 ベアー コノーズ パラディーソ 神経科学—脳の探求

第 4 版 カールソン神経科学テキスト 脳と行動 泰羅 雅登

B01-02 細胞生理学演習（お茶の水女子大学）

担当者： 毛内 拓

講義時期： 今年度は開講しない

講義場所： 今年度は開講しない

講義の特徴：私達の行動や認知を担う脳機能は、脳細胞であるニューロンとグリア細胞およびその他の要素の統合的な相互作用によって成り立っている。特に高次脳機能におけるこれらの要素と神経回路ネットワークとのシナプスを介さない相互作用が重要な役割を果たしていることを学び、脳が生きているとはどういうことかを理解する。最新（2 年以内）の神経生理学関連の論文を選び、内容について簡潔に要約し、発表する。受講者は週ごとに担当する回を決め、自分の担当の回は、わかりやすい発表を心がける。自分が発表担当でない場合は、積極的な質問を行い、内容の理解に努める。発表はパワーポイントを用いたプレゼンテーション（日本語）を行う。発表の前日までに、取り上げる論文とその要旨を参加者全員にアナウンスすること。

レベル： 上級

講義内容：

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
---	----	----	-----	------	------

1		9:00-10:30	理学部 2 号館 306 室	論文紹介 (1)	毛内拵
2		9:00-10:30	理学部 2 号館 306 室	論文紹介 (2)	毛内拵
3		9:00-10:30	理学部 2 号館 306 室	論文紹介 (3)	毛内拵
4		9:00-10:30	理学部 2 号館 306 室	論文紹介 (4)	毛内拵
5		9:00-10:30	理学部 2 号館 306 室	論文紹介 (5)	毛内拵
6		9:00-10:30	理学部 2 号館 306 室	論文紹介 (6)	毛内拵
7		9:00-10:30	理学部 2 号館 306 室	論文紹介 (7)	毛内拵
8		9:00-10:30	理学部 2 号館 306 室	論文紹介 (8)	毛内拵
9		9:00-10:30	理学部 2 号館 306 室	論文紹介 (9)	毛内拵
10		9:00-10:30	理学部 2 号館 306 室	論文紹介 (10)	毛内拵
11		9:00-10:30	理学部 2 号館 306 室	論文紹介 (11)	毛内拵
12		9:00-10:30	理学部 2 号館 306 室	論文紹介 (12)	毛内拵
13		9:00-10:30	理学部 2 号館 306 室	論文紹介 (13)	毛内拵
14		9:00-10:30	理学部 2 号館 306 室	論文紹介 (14)	毛内拵
15		9:00-10:30	理学部 2 号館 306 室	論文紹介 (15)	毛内拵

単位： 2 単位 (修士課程)

成績評価：講義への出席状況と発表

教科書：毛内拵 著『脳を司る「脳」』講談社ブルーバックス

参考書：標準生理学 第9版 | 書籍詳細 | 書籍 | 医学書院

工藤佳久 著 「もっとよくわかる脳神経科学 やっぱり脳はとってもスゴイのだ！」羊土社

工藤佳久 著 「脳とグリア細胞」技術評論社

宮川博義・井上雅司 著「ニューロンの生物物理 第2版」丸善出版

カラー版 ベアー コノーズ パラディーソ 神経科学—脳の探求

第4版 カールソン神経科学テキスト 脳と行動 泰羅 雅登

B01-03 動物生理学特論（お茶の水女子大学）

担当者： 毛内 拓

講義時期： 2026年度 前期 金曜日 9-10限（16:40-18:10）

講義場所： オンラインで開催する

講義の特徴： 【主題】外界からの刺激に対する生体の応答について、動物の場合は、生体組織・臓器・器官の反応（生理学）、および行動（心理学）として表出し、観察することができる。この講義では、「生理心理学」の観点から理解を深める。【到達目標】生理学および心理学を細胞レベルから個体レベルまで網羅的に理解し、説明できる。※バイオメカニクス特論と連続して履修することをオススメする。

レベル： 初級

講義内容：

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	4/10	16:40-18:10	オンライン	イントロダクション	毛内拓
2	4/17	16:40-18:10	オンライン	【クリティカル・シンキング, 科学的心理学】 科学的心理学の必要性 心理学ではどのように問いを立て、どのように答えるのか？ 日常生活における統計的推論 心理学についてのよくある質問	毛内拓
3	4/24	16:40-18:10	オンライン	【心の生物学的基盤】 生物学・行動・心 神経コミュニケーション 神経系・内分泌系・脳	毛内拓
4	5/1	16:40-18:10	オンライン	【心の生物学的基盤】 生物学・行動・心 神経コミュニケーション 神経系・内分泌系・脳	毛内拓
5	5/8	16:40-18:10	オンライン	【心の生物学的基盤】 生物学・行動・心 神経コミュニケーション 神経系・内分泌系・脳	毛内拓
6	5/22	16:40-18:10	オンライン	【意識と二重路線の心】 脳の状態と意識 睡眠と夢 催眠 薬物と意識	毛内拓
7	5/29	16:40-18:10	オンライン	【意識と二重路線の心】 脳の状態と意識	毛内拓

				睡眠と夢 催眠 薬物と意識	
8	6/5	16:40-18:10	オンライン	【生得要因, 獲得要因, 人間の多様性】 行動遺伝学: 個人差を予測する 進化心理学: ヒトの生得性を理解する 経験はどのように発達に影響するか? 文化の影響 ジェンダーの発達 生得要因と獲得要因の再考	毛内拮
9	6/12	16:40-18:10	オンライン	【生得要因, 獲得要因, 人間の多様性】 行動遺伝学: 個人差を予測する 進化心理学: ヒトの生得性を理解する 経験はどのように発達に影響するか? 文化の影響 ジェンダーの発達 生得要因と獲得要因の再考	毛内拮
10	6/19	16:40-18:10	オンライン	【生涯を通しての発達】 発達心理学の論点 出生前発達と新生児 乳児期と児童期 青年期 成人期	毛内拮
11	6/26	16:40-18:10	オンライン	【生涯を通しての発達】 発達心理学の論点 出生前発達と新生児 乳児期と児童期 青年期 成人期	毛内拮
12	7/3	16:40-18:10	オンライン	【感覚・知覚】 感覚・知覚の基本原理 視覚 聴覚 その他の感覚	毛内拮
13	7/10	16:40-18:10	オンライン	【感覚・知覚】 感覚・知覚の基本原理 視覚 聴覚 その他の感覚	毛内拮

14	7/17		オンライン	補講日	毛内拓
15	7/24		オンライン	補講日	毛内拓

単位： 2単位（修士課程）

成績評価： 講義への出席状況と期末レポート

教科書： 毛内拓 著『脳を司る「脳」』講談社ブルーバックス

参考書： マイヤーズ心理学 西村書店

標準生理学 第9版 | 書籍詳細 | 書籍 | 医学書院

工藤佳久 著 「もっとよくわかる脳神経科学 やっぱり脳はとってもスゴイのだ！」 羊土社

工藤佳久 著 「脳とグリア細胞」技術評論社

宮川博義・井上雅司 著「ニューロンの生物物理 第2版」丸善出版

カラー版 ベアー コノーズ パラディーソ 神経科学—脳の探求

第4版 カールソン神経科学テキスト 脳と行動 泰羅 雅登

B01-04 バイオメカニクス特論（お茶の水女子大学）

担当者： 毛内 拓

講義時期： 2026年度 後期 金曜日 9-10限（16:40-18:10）

講義場所： オンラインで開催する

講義の特徴：【主題】外界からの刺激に対する生体の応答について、動物の場合は、生体組織・臓器・器官の反応（生理学）、および行動（心理学）として表出し、観察することができる。この講義では、「生理心理学」の観点から理解を深める。【到達目標】生理学および心理学を細胞レベルから個体レベルまで網羅的に理解し、説明できる。※動物生理学特論と連続して履修することをオススメする。

レベル： 初級

講義内容：

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	10/2	16:40- 18:10	オンライン	【学習】 学習とはどういうことか？ 古典的条件づけ オペラント条件づけ 生物学的特性と認知と学習 観察による学習	毛内拓
2	10/9	16:40- 18:10	オンライン	【記憶】 記憶の研究	毛内拓

				記憶を上げる 記憶の保持 検索：情報を取り出す 忘却 記憶の構成の誤り 記憶力の向上	
3	10/16	16:40- 18:10	オンライン	【思考と言語】 【知能】 知能とは何か？ 知能を査定する 知能のダイナミクス 知能への遺伝的影響と環境的影響	毛内拮
4	10/23	16:40- 18:10	オンライン	【思考と言語】 【知能】 知能とは何か？ 知能を査定する 知能のダイナミクス 知能への遺伝的影響と環境的影響	毛内拮
5	10/30	16:40- 18:10	オンライン	【動機づけと仕事】 動機づけなる概念 飢餓 性の動機づけ クローズアップ：女の子の性愛化 所属の欲求 仕事での動機づけ	毛内拮
6	11/13	16:40- 18:10	オンライン	【動機づけと仕事】 動機づけなる概念 飢餓 性の動機づけ クローズアップ：女の子の性愛化 所属の欲求 仕事での動機づけ	毛内拮
7	11/20	16:40- 18:10	オンライン	【情動とストレスと健康】 認知と情動 情動の身体化 情動の表出 情動の体験 ストレスと健康 健康を増進する	毛内拮
8	11/27	16:40- 18:10	オンライン	【情動とストレスと健康】 認知と情動	毛内拮

				情動の身体化 情動の表出 情動の体験 ストレスと健康 健康を増進する	
9	12/4	16:40- 18:10	オンライン	【パーソナリティ】 精神力動論 ヒューマニスティック理論 特性理論 社会的認知理論 自己を探る	毛内拓
10	12/11	16:40- 18:10	オンライン	【社会心理学】 社会的思考 社会的影響 社会的関係	毛内拓
11	12/18	16:40- 18:10	オンライン	【精神疾患】 精神疾患の様々な視点 不安症 気分障害 統合失調症 その他の精神疾患 精神疾患の発症率	毛内拓
12	12/25	16:40- 18:10	オンライン	【精神疾患】 精神疾患の様々な視点 不安症 気分障害 統合失調症 その他の精神疾患 精神疾患の発症率	毛内拓
13	1/8	16:40- 18:10	オンライン	【セラピー】 精神疾患を治療する 心理学的療法 心理療法を評価する 生物医学療法 精神疾患を予防する	毛内拓
14	1/15		オンライン	予備日	
15	1/22		オンライン	予備日	

単位： 2単位（修士課程）

成績評価：講義への出席状況と期末レポート

教科書：毛内拓 著『脳を司る「脳」』講談社ブルーバックス

参考書：マイヤーズ心理学 西村書店

標準生理学 第9版 | 書籍詳細 | 書籍 | 医学書院

工藤佳久 著 「もっとよくわかる脳神経科学 やっぱり脳はとってもスゴ
イのだ！」 羊土社

工藤佳久 著 「脳とグリア細胞」 技術評論社

宮川博義・井上雅司 著 「ニューロンの生物物理 第2版」 丸善出版

カラー版 ベアー コノーズ パラディーソ 神経科学—脳の探求

第4版 カールソン神経科学テキスト 脳と行動 泰羅 雅登

B02 免疫学特論

免疫応答は、病原微生物の排除を行なうとともにアレルギーや自己免疫疾患の発症に関わる。また、近年、自然免疫が代謝疾患等に深く関係することが明らかとなってきた。免疫学では、このような免疫応答のしくみを解明し、その制御法を開発する領域である。本特論では、免疫応答の基本的なしくみと制御法についての概説を行なう。

[対象履修モデル] 化粧品, 製薬(生命系)

B02-T 免疫学 (東京科学大学)

担当者: 瀬川 勝盛

講義時期: 2026 年度後期 (9 月 30 日~10 月 30 日)

講義場所: 3 号館 6 階大学院特別講義室、オンライン授業

講義概要: 学部生で免疫学の講義を履修していない学生も対象として、免疫の基礎から最新知見まで幅広く含めた講義を行う。免疫システムを担う細胞とその機能、さまざまな免疫疾患の病態を理解することで、科学的なエビデンスに基づいた免疫学的思考を育成する。

レベル: 基礎的~先端的

講義内容:

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	9/30	13:30-15:00	大学院特別講義室	免疫学概論	瀬川 勝盛
2	9/30	15:25-16:55	大学院特別講義室	免疫学概論	瀬川 勝盛
3	10/5	13:30-15:00	大学院特別講義室	B細胞と抗体	伊勢 涉
4	10/5	15:25-16:55	大学院特別講義室	免疫記憶のしくみ	伊勢 涉
5	10/7	13:30-15:00	大学院特別講義室	次世代ワクチン開発	白銀 勇太
6	10/7	15:25-16:55	ライブ	T細胞生物学	木村 元子
7	10/13	13:30-15:00	大学院特別講義室	Tリンパ球の発生と分化	鈴木 春巳
8	10/13	15:25-16:55	大学院特別講義室	免疫機能と免疫疾患の遺伝学	高地 雄太
9	10/14	13:30-15:00	ライブ	サイトカインによる免疫反応の制御	久保 允人
10	10/14	15:25-16:55	ライブ	免疫チェックポイントと腫瘍免疫	竹馬 俊介

11	10/19	13:30-15:00	大学院特別講義室	粘膜免疫	佐藤 莊
12	10/19	15:25-16:55	大学院特別講義室	マラリア原虫の感染機構の解明からワクチン開発への展開	石野 智子
13	10/21	13:30-15:00	大学院特別講義室	自然免疫細胞の機能と病態制御	反町 典子
14	10/21	15:25-16:55	ライブ	マクロファージの多様性と疾患	榑木 俊 聡
15	10/30	10:45-12:15	大学院特別講義室	免疫不全症と自己免疫疾患	小松 紀子

単位： 2単位（修士課程）

成績評価： レポートの結果(50%)と授業への参加状況(50%)を総合して評価する。

参考書： Immunobiology／Charles A. Janeway／Garland Science.

受講上の注意： 講義前に高校・大学教養部で学んだ生物学、分子生物学等の基礎知識を確認しておくこと。また、講義で紹介された関連文献等を講義後に読んで理解を深めること。

B03 細胞情報伝達特論

生物個体を形成している個々の細胞は、それぞれの分化した性質を保ちながらも、お互いに密接な情報交換を行い、全体として統合のとれた生命活動を営んでいる。本科目群は、細胞同士がどのような分子を介して、どのように情報を交換しているのかについて、各専門分野の視点から、細胞内、細胞間シグナル伝達の分子機構を理解する。

[対象履修モデル] 食品, 化粧品

B03-T 細胞生物学特論（東京科学大学）

担当者： 諸石 寿朗

講義時期： 2026 年度前期（6 月 9 日～6 月 22 日）

講義場所： 3 号館 6 階大学院特別講義室、オンライン授業

講義の特徴： 生物個体を形成している個々の細胞・組織は、固有形質を保ちながらも、お互いに密接な情報交換を行い全体として統合のとれた生命活動を営んでいる。本特論では、各組織の細胞内・細胞間でどのような分子ネットワークを介して情報を交換しているのかについて講義を行う。

レベル： 基礎的～先端的

講義内容：

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	6/9	15:25-16:55	ライブ	がん微小環境を制御する TGF- β ファミリーシグナル	渡部徹郎
2	6/9	13:30-15:00	オンデマンド	がんの発生・進行とシグナル伝達	諸石寿朗
3	6/15	13:30-15:00	ライブ	組織幹細胞と恒常性維持機構	豊島文子
4	6/15	15:25-16:55	ライブ	マクロファージと樹状細胞の細胞生物学	樗木俊聡
5	6/16	13:30-15:00	大学院特別講義室	肝形成を制御するシグナル伝達系	仁科博史
6	6/16	15:25-16:55	ライブ	ホスファターゼの生命科学	佐々木純子
7	6/22	15:25-16:55	大学院特別講義室	頭蓋顎顔面の発生と先天異常	井関祥子

8	6/22	13:30-15:00	ライブ	次世代の細胞生物学研究法： Dry/Wet 融合による「予測する細胞生物学」	清水秀幸
---	------	-------------	-----	---	------

単位： 1 単位（修士課程）

成績評価： レポートは 8 回の講義の中から 4 回を選択して、選択した講義ごとに講義内容・感想を A4 で 1 枚から 2 枚にまとめ、当該講義翌日の夕方 5 時までにメール提出すること。複数の講義を一つのレポートにまとめるのは不可。ご自身の分野の教員の講義を選択することも可能です。

ソニー聴講生はレポート提出不要。

提出するレポートは pdf 版をお願いします。

pdf フォルダ名、およびレポート本文の書き出しの注意。「本講義名「細胞生物学特論」ではなく、レポートを書く選択をした講義名（そのコマの講義タイトル）、氏名、学籍番号」をフォルダタイトルとレポート本文の表題に記載してください。

不明や不備のあるレポートについては、大学側から提出者へ問合せ連絡は一切行いませんので、成績評価に影響する場合がございます。

体裁は、A4 余白上下 25mm、左右 20mm 程度、フォントサイズ 11p。

オンライン講義、対面講義、関わらず提出レポートはすべて pdf 版でメール提出とすること。

レポートの送信先は細胞動態学分野 秘書 福田まで。

fukuda.yumiko@tmd.ac.jp

B03-G 統合生命科学特論 II（学習院大学）

担当者： 嶋田 透

講義時期： 2026 年度第 1 学期（前期）に集中講義として実施。2026 年度は 7 月 23 日（木）午前午後、7 月 24 日（金）午前午後、7 月 27 日（月）午前午後、7 月 28 日（火）午前、7 月 29 日（水）午前午後の範囲内で開講する。この日程で不都合な時間帯がある受講者は、必ず、早めに嶋田へ知らせること。調整の上で決定した講義日程を Moodle により受講者へ周知する。（隔年開講のため 2027 年度は開講されない）

講義場所： zoom または Teams を用いた遠隔授業で行う。一部の授業ではオンライン同時配信型と動画・ウェブを用いたオンデマンド型を併用する可能性がある。

講義の特徴： カイコをはじめとする鱗翅目（チョウ目；Lepidoptera）の昆虫のゲノムには多くの特異的な遺伝子があり、それがコードする酵素の働き

で鱗翅目昆虫に特異的な代謝経路が作られている。昆虫の長い歴史のなかで、どのようにしてそれら遺伝子が獲得されてきたか、実際のゲノム情報の解析やアミノ酸配列の比較解析を通して進化を理解する。また、鱗翅目昆虫の培養細胞とそこに感染するバキュロウイルスは、ワクチンやサイトカインをはじめとする有用物質生産のためのバイオテクノロジーで広く利用されている。昆虫細胞や昆虫個体を用いる物質生産技術の利点と未解決の課題についても考える。

レベル： 中級

講義内容：

回数	日時	内容	担当者
1	集中・オンライン	ガイダンス	嶋田 透
2	集中・オンライン	バイオテクノロジーで活用される昆虫培養細胞とそこに感染性ウイルス（1）	嶋田 透
3	集中・オンライン	バイオテクノロジーで活用される昆虫培養細胞とそこに感染性ウイルス（2）	嶋田 透
4	集中・オンライン	バイオテクノロジーで活用される昆虫培養細胞とそこに感染性ウイルス（3）	嶋田 透
5	集中・オンライン	バイオテクノロジーで活用される昆虫培養細胞とそこに感染性ウイルス（4）	嶋田 透
6	集中・オンライン	水平転移による遺伝子獲得と新規代謝系の進化（1）	嶋田 透
7	集中・オンライン	水平転移による遺伝子獲得と新規代謝系の進化（2）	嶋田 透
8	集中・オンライン	水平転移による遺伝子獲得と新規代謝系の進化（3）	嶋田 透
9	集中・オンライン	動物におけるアミノ酸代謝（特にトリプトファン代謝の主経路であるキヌレニン経路）の多様性（1）	嶋田 透
10	集中・オンライン	動物におけるアミノ酸代謝（特にトリプトファン代謝の主経路であるキヌレニン経路）の多様性（2）	嶋田 透
11	集中・オンライン	動物におけるアミノ酸代謝（特にトリプトファン代謝の主経路であるキヌレニン経路）の多様性（3）	嶋田 透
12	集中・オンライン	質疑応答、意見交換集	嶋田 透
13	集中・オンライン	総括	嶋田 透

単位： 2単位（修士）

成績評価： 講義への出席状況（小テスト）とレポート

B04 発生学特論

受精卵から個体が形成される発生・分化のメカニズムの解明は、昔から生命科学の大きな1つの柱であるとともに、昨今は再生医療への応用も考えられている。謎に包まれていた個体発生の過程について、近年の分子細胞生物学的手法の導入によって解明されつつある知見等を中心に講義を行う。

[対象履修モデル] 製薬(生命系), 公務員

B04-T 発生・再生科学 (東京科学大学)

担当者: 佐々木 純子

講義時期: 2026年度後期(10月1日~10月20日)

講義場所: オンライン授業、大学院講義室1

講義概要: 生命の誕生から発達まで、最新の分子生物学、遺伝学のレベルで概説する。また、小児成長における遺伝疾患を系統的に学習し、発生学を基盤とした、将来の幹細胞を用いた再生医療への展望を考える。

レベル: 基礎的~先端的

講義内容:

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	10/1	08:50-10:20	ライブ	動物の個体と臓器サイズ	仁科 博史
2	10/1	10:45-12:15	ライブ	脳の発生と疾患	小藤 智史
3	10/5	10:45-12:15	大学院講義室	着床と胎盤発生	金井 正美
4	10/5	08:50-10:20	オンデマンド	発生・再生とシグナル伝達	諸石 寿朗
5	10/6	08:50-10:20	ライブ	ヒト胎児の発生と発育	宮坂 尚幸
6	10/6	10:45-12:15	ライブ	Musculoskeletal systemの発生・再生医学	浅原 弘嗣
7	10/8	08:50-10:20	ライブ	血液・免疫系の発生・分化とその異常	高木 正稔
8	10/8	10:45-12:15	ライブ	マウス胎仔期の肝臓での赤血球分化	荒川 聡子
9	10/13	08:50-10:20	大学院講義室1	生殖器の発生と性分化	佐々木純子
10	10/13	10:45-12:15	大学院講義室1	頭蓋顎顔面組織の発生と再生	井関 祥子

11	10/15	08:50-10:20	ライブ	初期胚発生	後藤 利保
12	10/15	10:45-12:15	ライブ	付属肢の発生	原田 理代
13	10/19	08:50-10:20	ライブ	間葉系幹細胞と再生医学（関節軟骨・半月板を例として）	関矢 一郎
14	10/19	10:45-12:15	オンデマンド	組織幹細胞研究とその医療応用	佐藤 卓
15	10/20	08:50-10:20	ライブ	妊娠における母体臓器リモデリング機構	豊島 文子

単位： 2 単位（修士課程）

参考書： 「Developmental Biology」 SINAUER 社 Scott F. Gilbert
「わかる実験医学シリーズ 発生生物学がわかる」 羊土社 編集／
上野直人, 野地澄晴

成績評価： 授業の参加状況（50点）及び試験（50点）に基づいて総合的に評価を行う。

B04-0 分子発生学（お茶の水女子大学）

担当者： 千葉 和義

講義時期： 2026 年度前期木曜 9:00～10:30（4月～7月開講予定）

講義場所： 理学部 1号館 502 室

講義の特徴： 生殖・発生を制御している分子機構を、以下の教科書「ギルバート発生生物学」を用いて学修する。教科書を予習して、授業で発表する。予習で理解できないところは授業中に議論して、理解を深める。

レベル： 基礎的

講義内容：

回数	日時	内容	担当者
1	4/9	配偶子の構造と機能（I）	千葉 和義
2	4/16	配偶子の構造と機能（II）	千葉 和義
3	4/23	受精（I）	千葉 和義
4	4/30	受精（II）	千葉 和義
5	5/7	無脊椎動物の初期発生（概説）	千葉 和義
6	5/14	無脊椎動物の初期発生（ウニ I）	千葉 和義
7	5/21	無脊椎動物の初期発生（ウニ II）	千葉 和義
8	5/28	脊椎動物の初期発生（ウニ III）	千葉 和義
9	6/4	脊椎動物の初期発生（ウニ IV）	千葉 和義
10	6/11	脊椎動物の初期発生（カエル I）	千葉 和義
11	6/18	脊椎動物の初期発生（カエル II）	千葉 和義

回数	日時	内容	担当者
1	4/9	配偶子の構造と機能 (I)	千葉 和義
2	4/16	配偶子の構造と機能 (II)	千葉 和義
3	4/23	受精 (I)	千葉 和義
12	6/25	脊椎動物の初期発生 (カエル III)	千葉 和義
13	7/2	脊椎動物の初期発生 (カエル IV)	千葉 和義
14	7/9	脊椎動物の初期発生 (哺乳類 I)	千葉 和義

単位: 2 単位 (博士前期課程)

成績評価: 講義への出席状況と試験

教科書: ギルバート発生生物学 第2版 (著者: Scott F. Gilbert 監訳 阿形清和 高橋淑子 出版: メディカル・サイエンス・インターナショナル)

B04-G 分子細胞生物学特論 I (学習院大学)

担当者: 柳 茂

講義時期: 隔年開講のため 2026 年度は開講されない。(2027 年度第 1 学期 (前期) ・月曜日 2 限に開講予定)

講義場所: 遠隔授業 (主にオンデマンド型)。同時配信の場合は、Zoom を利用する予定である。講義資料などは、G-Port または Moodle から連絡する。不明の場合は早めに、shigeru.yanagi@gakushuin.ac.jp へ問い合わせること。

講義の特徴: 癌、神経変性疾患、精神疾患、感染症、消化器疾患、脳血管障害、老化など、様々な疾患の分子病態を分子細胞生物学の視点から解説し、現在の治療法およびその問題点について考察する。また、病態解明や治療法開発につながる分子細胞生物学レベルの最先端の研究を紹介し、新たな治療法開発の可能性を議論する。

レベル: 中級

講義内容:

回数	日時	内容	担当者
1		癌総論: 癌遺伝子と癌幹細胞	柳 茂
2		癌各論: 癌治療の最前線	柳 茂
3		感染症 (I): インフルエンザウイルス	柳 茂
4		消化器疾患 (I): 胃十二指腸の生理学	柳 茂
5		消化器疾患 (II): 胃十二指腸の病態とピロリ	柳 茂

6		老化の分子機構：テロメア、酸化ストレス、クロトーマウス、早老症など	柳 茂
7		臨床検査の原理と応用：血液検査、胸部レントゲン、腹部エコー、心電図など	柳 茂
8		脳心臓血管障害：くも膜下出血、脳出血、虚血性心疾患など	柳 茂
9		感覚器疾患：眼と耳の解剖と生理学、病態と治療	柳 茂
10		神経変性疾患：神経変性疾患の病態と治療	柳 茂
11		精神疾患：精神疾患の神経病理、病態と治療 閃きの科学：サヴァン症候群など	柳 茂
12		オルガネラと疾患：ミトコンドリア関連疾患	柳 茂
13		まとめ	柳 茂

単位： 2単位（修士）

成績評価： 講義への取り組み態度、レポート

B05 ゲノム科学特論

生命現象を理解するにあたり、生命の設計図ともいえるゲノムの構造と機能構築原理を理解することの重要性は言及するまでもない。技術の進歩に伴い、ゲノム研究は急速な発展を遂げているが、ゲノムの複雑性により、その全容を解明するまでには至っていないのが現状である。ゲノムには様々な多様性が存在し、この多様性がゲノムの複雑性的一端を担っているが、ヒトゲノムの多様性が様々なヒトの疾患の発症に密接に関わっていることが明らかになっている。本講座では、生物の多様性に焦点をあて、ゲノム研究の基礎と、現状ならびにシステム生物学への発展について講義を行う。

[対象履修モデル] 製薬(生命系), メディア

B05-G 分子細胞生物学特論V (学習院大学)

担当者: 菱田 卓

講義時期: 2026 年度第 1 学期 (前期) に集中講義として実施 (隔年開講のため 2027 年度は開講されない)

講義場所: 南 7 号館 101 教室 (予定)

講義の特徴: 近年発展が目覚ましいゲノム解析分野の研究から明らかとなってきたゲノムの構造と機能について理解を深める。さらに、突然変異の原因となる様々な DNA 損傷とその修復機構について学び、DNA 損傷応答とヒトの発がんや老化との関連性について理解を深める。

レベル: 中級

講義内容:

回数	日時	内容	担当者
1	8/31~9/2	ゲノム概説	菱田 卓
2	8/31~9/2	ゲノム構造と特徴	菱田 卓
3	8/31~9/2	ゲノム配列の解析法 I	菱田 卓
4	8/31~9/2	ゲノム配列の解析法 II	菱田 卓
5	8/31~9/2	ゲノムの機能 (がんやその他の疾患との関連)	菱田 卓
6	8/31~9/2	様々な DNA 損傷	菱田 卓
7	8/31~9/2	DNA 損傷の修復 I (直接修復)	菱田 卓
8	8/31~9/2	DNA 損傷の修復 I (ミスマッチ修復と複製エラー)	菱田 卓
9	8/31~9/2	DNA 損傷の修復 I (ヌクレオチド及び塩基除去修復)	菱田 卓
10	8/31~9/2	DNA 組換え I (原核生物編)	菱田 卓
11	8/31~9/2	DNA 組換え II (真核生物編)	菱田 卓

12	8/31～9/2	DNA 損傷チェックポイントと発がん	菱田 卓
13	8/31～9/2	DNA 損傷トレランス	菱田 卓

単位： 2 単位（修士）

成績評価： 講義への出席状況と演習、レポート

注意事項：開始時刻は履修登録者に事前に Moodle 経由で連絡します。

場所は申請中のため確定ではございませんが、こちらでも変更が生じた場合は履修者に連絡いたします。

B05-01 環境発生進化学（お茶の水女子大学）

担当者：佐藤 敦子

講義時期：2026 年度後期集中講義

講義場所：開講に合わせて、「授業時間割」の冊子や掲示板等にて確認のこと。

講義の特徴：システムズバイオロジーの概略と面白さについて教科書や近年の研究を読み解きながら学ぶ。受講希望者は、9 月末までにメールで佐藤まで連絡すること。いつ開講するかについて連絡がある。教科書を持参。

レベル：専門的

単位：2 単位（博士前期課程）

成績評価：講義への出席状況とプレゼンテーション

教科書：自己組織化と進化の理論：宇宙を貫く複雑系の法則 スチュアート・カウフマン（筑摩書房）

The Systems View of Life: A Unifying Vision by [Fritjof Capra](#) (Author), [Pier Luigi Luisi](#) (Author)

B05-02 環境発生進化学演習（お茶の水女子大学）

担当者：佐藤 敦子

講義時期：2026 年度後期集中講義

講義場所：未定

講義の特徴：環境が生物の発生や進化に及ぼす影響についての研究は、分子生物学、発生生物学、進化生物学およびシステム生物学にまたがる異分野融合研究となっている。一見複雑な解析であっても、生物学的な知見に照らした解釈が出来るようになることを目標に、環境が発生や進化に及ぼす影響に関する最新の分子生物学的研究の論文を読み解き、手法について理解するとともに、結果の解釈について、科学的な批判ができるようになることを目標とする。受講希望者は、9 月末までにメールで佐藤まで連絡すること。いつ開講するかについて連絡がある。

レベル：専門的 単位：2 単位（博士前期課程） 成績評価：講義への出席状況とプレゼンテーション、科学批判

参考文献：Developmental plasticity and evolution, by Mary Jane West-Eberhard

自己組織化と進化の理論：宇宙を貫く複雑系の法則 スチュアート・カウフマン（筑摩書房）

The Systems View of Life: A Unifying Vision by [Fritjof Capra](#) (Author), [Pier Luigi Luisi](#) (Author)

B07 糖鎖科学

糖鎖は核酸、タンパク質とならぶ第三の生命鎖として生命活動に不可欠な生体分子であり、特有の構造多様性がある。生体内で糖鎖は糖タンパク質、糖脂質、プロテオグリカンなどの複合糖質として存在しており、本授業では高等動物の複合糖質糖鎖の構造を学ぶとともに、糖鎖の生理的機能と疾患における構造変化の意義や感染症との関連を理解する。

[対象履修モデル] 製薬(生命系), 化学

B07-0 糖鎖科学 (お茶の水女子大学)

担当者: 相川 京子

講義時期: 2026 年度金曜 13:20-14:50

講義場所: お茶の水女子大学 理学部 1号館 414 室

講義の特徴: 高等動物の複合糖質の糖鎖構造とその生合成過程や糖転移酵素の反応を学ぶ。細菌細胞壁の糖鎖構造と抗生物質の作用機序を理解する。ウイルスや細菌が糖鎖を受容体として感染を成立させる機序や、タンパク質毒素の細胞内侵入と毒性を発揮する機序を理解する。糖鎖とレクチンの相互作用を介した生体内の機能調節のしくみを学ぶ。

レベル: 基礎的～先端的

講義内容:

回数	日時	内容	担当者
1	4月10日	ガイダンス、単糖の化学	相川京子
2	4月24日	糖タンパク質の糖鎖の構造と一般的な機能	相川京子
3	5月1日	糖タンパク質糖鎖の生合成	相川京子
4	5月8日	細菌細胞壁の構造と抗生物質の作用点	相川京子
5	5月15日	植物レクチンを使った糖鎖の検出法	相川京子
6	5月22日	動物レクチンの生物学的役割	相川京子
7	6月5日	ウイルスや毒素の細胞内侵入における糖鎖の関わり	相川京子
8	6月12日	がんと糖鎖、腫瘍マーカーとしての糖鎖	相川京子
9	6月19日	糖鎖科学に関する最近のトピック	相川京子
10	7月3日	糖鎖科学に関する最近のトピック	相川京子
11	-	ALH	相川京子
12	-	ALH	相川京子
13	未定	履修者によるALH課題の発表	相川京子
14	未定	履修者によるALH課題の発表	相川京子

単位: 2単位 (博士前期課程)

成績評価： 講義への出席と ALH 課題の発表とレポート
履修希望者は4月9日までに担当者にメールで連絡してください。
メールアドレス:aikawa.kyoko@ocha.ac.jp

B08 生命薬学特論

感染症の出現と流行は、病原体と宿主および環境との相互関係によって大きく影響される。病原体の解析は、ゲノム解析から新しい病原性因子の同定さらに病原性発現機構の全貌解析へと進んでいる。本特論では、細菌、ウイルスおよび真菌における感染現象の分子メカニズムについてこれまでの知見をわかりやすく説明し、さらに最先端の手法による感染症解析法について紹介するとともに感染予防における最新の話題を紹介する。

[対象履修モデル] メディア, 化粧品, 製薬(生命系), 食品

B08-K 生命薬学特論 (北里大学)

担当者: 奥脇 暢 (生化学教室)

講義時期: 2026 年度後期木曜日 2 時限目 (10:55~12:25)

講義場所: プラチナタワー3114 セミナー室

講義の特徴: 生命薬学領域のうち、1) 感染生物学的研究、2) 生化学の論理的思考法、及び、3) 微生物資源からの創薬研究について、基礎、実用例さらに最先端研究を学ぶ。

レベル: 基礎的~先端的

講義内容:

回数	日時	内容	担当者
1	9月3日	腸内細菌叢移植療法 (FMT) のサイエンスと臨床評価	石川 大
2	9月10日	腸管関連 G タンパク質共役受容体による免疫制御	梅本 英司
3	9月17日	病原体サーベイランスから見る感染症の本質	明田 幸宏
4	9月24日	メタゲノミクスによる腸内マイクロバイオーーム生態系の解明	須田 亙
5	10月1日	IgA 抗体と微生物細菌叢の相互作用	新蔵 礼子
6	10月8日	ウイルスによる遺伝子治療	齋藤 祥子
7	10月15日	オミクス技術とイメージング解析で迫る遺伝子発現制御	小松 哲郎
8	10月22日	細胞が分裂する仕組み: APC/C 巨大複合体の分子生物学	山野 博之
9	10月29日	iPS 細胞の基礎と応用	西村 健
10	11月5日	細胞の分子基盤とエネルギー代謝	飯田直幸
11	11月12日	微生物資源からの創薬研究の基礎	大城 太一

12	11月19日	微生物資源からの創薬研究の具体例(1)	未定
13	11月26日	微生物資源からの創薬研究の具体例(2)	未定
14	12月3日	微生物資源からの創薬研究の具体例(3)	未定
15	12月10日	微生物資源からの抗感染症薬と脂質異常症予防治療薬の開発	未定

単位： 2単位（博士前期課程）

成績評価： 討論への参加（60%）及びレポート（40%）により評価する。

教科書： なし

参考書： 戸田新細菌学 第33版 吉田真一、柳雄一、吉開泰信 編（南山堂）／標準微生物学 第14版 神谷茂、錫谷達也、松本哲也 編（医学書院）

備考： なし

B09 植物環境応答学特論

植物は、遺伝子やタンパク質など基本的な部分については動物細胞で起きていることと共通なことがらも多いものの、環境応答などの面では植物に特有な現象も多く知られている。また、最近では地球生態系との関連から「環境」という観点からも関心が高まっている。これら植物の環境応答にすることがらを中心に講義を行う。

[対象履修モデル] メディア，公務員

B09-G1 統合生命科学特論 I（学習院大学）

担当者： 清末 知宏

講義時期： 2026年度第1学期（前期）に集中講義として実施（隔年開講のため2027年度は開講されない）

講義場所： 南7号館101教室（予定）

講義の特徴： 植物ホルモン（オーキシン、ジャスモン酸、ジベレリン、アブシシン酸、サイトカイニン、エチレン、等）の合成・移動・分解・受容・シグナル伝達等について概説することで、分子レベル、細胞レベル、個体レベルでの植物の生理応答の理解と、植物科学の専門知識の習得を目的とする。

レベル： 中級

講義内容：

回数	日時	内容	担当者
1	8/26～8/28	講義の概要・導入	清末知宏
2	8/26～8/28	オーキシンの合成・移動・分解	清末知宏
3	8/26～8/28	オーキシンの受容とシグナル伝達	清末知宏
4	8/26～8/28	ジャスモン酸の合成・移動	清末知宏
5	8/26～8/28	ジャスモン酸の受容とシグナル伝達	清末知宏
6	8/26～8/28	ジベレリンの合成・移動	清末知宏
7	8/26～8/28	ジベレリンの受容とシグナル伝達	清末知宏
8	8/26～8/28	アブシシン酸の合成・移動・分解	清末知宏

9	8/26~8/28	アブシシン酸の受容とシグナル伝達	清末知宏
10	8/26~8/28	サイトカイニンの合成・移動	清末知宏
11	8/26~8/28	サイトカイニンの受容とシグナル伝達	清末知宏
12	8/26~8/28	エチレンの合成・移動	清末知宏
13	8/26~8/28	エチレンの受容とシグナル伝達	清末知宏

単位： 2単位（修士）

成績評価： 講義への出席状況とレポート

注意事項： 開始時刻は履修登録者に事前に Moodle 経由でご連絡します。
 場所は申請中のため確定ではございませんが、こちらに変更が生じた場合は履修者に連絡いたします。

B09-G2 統合生命科学特論Ⅳ（学習院大学）

担当者： 安部 洋、小竹 敬久

講義時期： 隔年開講のため 2026 年度は開講されない。（2027 年度は第 1 学期（前期）に集中講義として開講予定）

講義場所： 未定

講義の特徴： 生体内の糖鎖のはたらきや重要性に関する理解は最近の研究で大きく進み、ヒトの疾患との関りや、プレバイオティクス、機能性食品としての利用が注目されています。本集中講義では糖鎖に関わる基礎的な知識とともに、植物研究の視点から、細胞壁構成成分やバイオマス上最大のバイオマス資源としての糖鎖の重要性を概説します。同時に今後、避けて通ることのできない地球環境の悪化や食料問題という視点から現在、どのような植物研究が行われており、今後、どのような実用展開が望まれているのか？などについても学習します。

レベル： 中級

講義内容：

回数	日時	内容	担当者
1	未定	糖鎖の多様性とその機能	未定
2	未定	生体内に存在する様々な糖	未定
3	未定	糖の化学（反応と誘導体）	未定
4	未定	植物における二糖類の生合成	未定
5	未定	多糖の合成と分解	未定

6	未定	バイオマス、炭素循環という視点からみた糖ヌクレオチド	未定
7	未定	植物のストレス応答における細胞壁の役割	未定
8	未定	この20年間で劇的に進んだストレス応答研究	未定
9	未定	ゲノム編集などを活用した実用化を視野に入れたこれからのストレス応答研究	未定
10	未定	みどりの食料システム戦略など国内外で進む展開	未定
11	未定	グローバルコモンズの保全に向けた新展開	未定
12	未定	基礎研究からの実用展開（基礎研究編）	未定
13	未定	基礎研究からの実用展開（実用研究編）	未定

単位： 2単位（修士）

成績評価： 講義への出席状況とレポート

B09-0 植物細胞生物学（お茶の水女子大学）

担当者： 植村 知博

講義時期： 2026年度8月3日～8月5日（変更の場合あり）

講義場所： 理学部1号館605室

講義の特徴 植物は、様々な外部環境の変化に対し「動いてその場から逃れる」という手段が使えないため、各々の細胞レベルで環境に柔軟に対応する仕組みを発達させている。その仕組みに関する植物細胞内のオルガネラの機能について最新の論文を読みながら理解する。

レベル： 中級

講義内容：

回数	日時	内容	担当者
1	8月3日 (9:00-10:30)	植物細胞の基礎1	植村知博
2	8月3日 (10:40-12:10)	植物細胞の基礎2	植村知博
3	8月3日 (13:20-14:50)	ゴルジ体研究の最前線	植村知博
4	8月3日 (15:00-16:30)	TGN研究の最前線	植村知博
5	8月3日 (16:40-18:10)	MVE研究の最前線	植村知博

6	8月4日 (9:00-10:30)	最新の植物オルガネラ研究に関する論文を読み解く1	植村知博
7	8月4日 (10:40-12:10)	最新の植物オルガネラ研究に関する論文を読み解く2	植村知博
8	8月4日 (13:20-14:50)	最新の植物オルガネラ研究に関する論文を読み解く3	植村知博
9	8月4日 (15:00-16:30)	最新の植物オルガネラ研究に関する論文を読み解く4	植村知博
10	8月4日 (16:40-18:10)	最新の植物オルガネラ研究に関する論文を読み解く5	植村知博
11	8月5日 (9:00-10:30)	オルガネラ研究に関するディスカッション1	植村知博
12	8月5日 (10:40-12:10)	オルガネラ研究に関するディスカッション2	植村知博
13	8月5日 (13:20-14:50)	オルガネラ研究に関するディスカッション3	植村知博
14	8月5日 (15:00-16:30)	オルガネラ研究の展望1	植村知博
15	8月5日 (16:40-18:10)	オルガネラ研究の展望2	植村知博

単位： 2単位（修士）

成績評価： 講義への出席状況とレポート

B10 薬理・薬物学特論

薬理学は生理学や病態生理学と非常に密接しているため、それらを総合的に理解することが非常に大切である。また、薬物の作用は個体レベルから遺伝子レベルまで非常に幅広い範囲で研究可能され、その多面的な解析から薬物の薬理作用を明らかにするのが現代の薬理学である。薬理学特論や分子薬理学特論では、基礎的な薬理・生理学的考え方から疾患（病態）治療薬開発を意識した薬理学研究まで幅広く解説したい。

[対象履修モデル] 製薬(生命系), 臨床開発, 製薬(有機合成系), 化学, 食品

B10-K 薬理・薬物学特論（北里大学）

担当者： 田辺 光男（薬理学教室）

講義時期： 2026 年度前期水曜日 2 時限目（10:55～12:25）

講義場所： プラチナタワー3301 講義室（13 回と 14 回は 3202 講義室）

講義の特徴： 学部で習得した知識を発展させ、1. 中枢神経系の生理・病態生理と中枢疾患の薬物治療、2. 眼疾患・網膜や末梢の循環 調節、3. 漢方の基礎から治療効果、を主なテーマに、生理学的知識と薬物学的知識を深める講義を行う。

レベル： 基礎的～先端的

講義内容：

回数	日時	内容	担当者
1	4 月 8 日	失明リスクの高い眼疾患の病態と治療法	中原努
2	4 月 15 日	心房細動の発生機序と治療法	尾高椋介
3	4 月 22 日	糖代謝解析から解き明かす代償性心肥大の分子機序	柏原俊英
4	5 月 13 日	非神経性コリン作動系の発現と生理機能調節への関与	川島紘一郎
5	5 月 20 日	脳の神経回路の再生機構の基礎	池田里衣子
6	5 月 27 日	神経薬理学のための神経生理学の基礎	田辺光男
7	6 月 3 日	抑制性神経調節による疼痛治療戦略	尾山実砂
8	6 月 10 日	脂質分子の機能と疼痛における役割	渡辺俊
9	6 月 17 日	ストレス応答と抗うつ・抗不安薬	岩井孝志
10	6 月 24 日	プロテインキナーゼ阻害薬の新しい可能性	内藤康仁
11	7 月 1 日	生薬の生産と品質管理	小平栄一
12	7 月 8 日	漢方における薬物の作用	小林義典
13	7 月 15 日	漢方方剤の抗うつ様効果とその作用機序（3202 講義室で実施）	伊藤直樹
14	7 月 22 日	天然有機化合物の単離、合成並びに生物活性（3202 講義室で実施）	白畑辰弥

15	7月29日	漢方薬のがん薬物療法への応用	日向須美子
----	-------	----------------	-------

単位： 2単位（博士前期課程）

成績評価： 受講態度、レポートの内容、質問をするなどの積極性を重視する。出席前提のレポート提出で採点します(100%)。20分以上の遅刻は欠席とみなします。

B11 薬剤・分析学特論

分析学特論では、分離分析学における最近の分離技術と検出法に関する知識を身に付けるとともに新規医薬品の分析評価の意義を学ぶことを目的とする。また、生体内に微量に存在する物質の解析に関する研究についても紹介する。薬剤学特論では、体内動態に関する基礎的な知識を身につけ、体内動態を評価するための各種パラメータを算出する手法を理解し、医薬品開発への応用例を知ることが目的とする。また、臨床で大きな問題となる薬物間相互作用を予測する手法についても紹介する。

[対象履修モデル] 製薬(生命系), 臨床開発, 製薬(有機合成系), 化学, 食品, 公務員

B11-K 薬剤・分析学特論 (北里大学)

担当者: 前田 和哉 (薬剤学教室)

講義時期: 2026 年度後期水曜日 2 時限目 (10:55~12:25)

講義場所: 1 号館 1507 セミナー室

講義の特徴: 分析化学、生物薬剤学、薬物動態学を基盤とした生命科学や創薬科学のより深い理解と問題発見能力や問題解決能力を身につけるために必要とされる最新の研究内容を学ぶ。

レベル: 基礎的~先端的

講義内容:

回数	日時	内容	担当者
1	9月2日	医薬品や生体分子の機器分析(概論)	杉木 俊彦
2	9月9日	医薬品や生体分子の熱力学的分析法	杉木 俊彦
3	9月16日	医薬品や生体分子等の核磁気共鳴スペクトル測定法による分析	杉木 俊彦
4	9月30日	分離分析学における最新の分離技術と検出法	宮本 哲也
5	10月7日	細菌におけるD-アミノ酸の代謝とその機能	宮本 哲也
6	10月14日	植物における立体特異的アミノ酸と代謝関連酵素	関根 正恵
7	10月21日	モデル生物におけるD-アミノ酸の機能	齋藤 康昭
8	10月28日	紫外線と炎症性物質産生	坂本 光
9	11月4日	生物薬剤学・薬物動態学の重要性(概論)	前田 和哉
10	11月11日	薬物動態の定量的解析の基礎 ~薬物動態を記述するパラメータ~	前田 和哉
11	11月18日	有機アニオントランスポーターの輸送機構	高野 修平
12	11月25日	異性体医薬品の体内動態	奈良輪 知也
13	12月2日	抗体-薬物複合体の細胞内動態を決定づける要因	苫米地 隆人

14	12月9日	薬物動態の in vitro 試験からの予測法	前田 和哉
15	12月16日	製薬企業における薬物動態研究の役割	前田 和哉 小谷 直生

単位： 2単位（博士前期課程）

成績評価： 受講態度・演習問題への取組(50%)、レポート(50%)。欠席は減点する。

B12 食品栄養科学特論

食品科学は、食品素材に含まれる嗜好、栄養、安全性などに関与する成分の生物有機化学、健康機能特性および代謝吸収特性、食品の物性や調理加工特性および食の安全性など、食品を中心とした基礎科学から応用まで幅広い領域を対象とする。これに加えて、本食品科学特論では、食物が人間に対してどのように機能するかという人間栄養学的な領域や、多数の人に食品を安全に供給するトータルマネジメントに関する領域などを含めた広い範囲から、食品栄養科学研究法において、毎年 5 名の教員が各人の専門分野に関連した食物科学領域の最新の研究を紹介する。

[対象履修モデル] 食品, 公務員, メディア

B12-01 食品栄養科学研究法（お茶の水女子大学）

担当者： 清水 誠、森光 康次郎、須藤 紀子、新田 陽子、野田 響子

講義時期： 2026 年度前期金曜日 10:40~12:10（4 月 10 日開講予定）

講義場所： 生活科学部本館 2 1 2 室

講義の特徴： 食品分野、栄養分野、健康分野の最新の研究について、食品栄養学コースの教員から講義を受け、食品栄養科学の様々な分野における研究背景・現状・問題点、研究の進め方・手法、研究の考え方、議論の仕方等を学ぶ。

レベル： 基礎的～先端的（一部管理栄養士分野の内容を含む）

講義内容：

回数	日時	内容	担当者
1	4 月 10 日 10:40~12:10	オリエンテーション/食の機能と分子栄養学研究	清水 誠
2	4 月 17 日 10:40~12:10	ヒューマンバイオロジーと栄養食品研究	清水 誠
3	4 月 24 日 10:40~12:10	ALH（内容は後日提示）	清水 誠
4	5 月 1 日 10:40~12:10	真偽：赤ワインは健康に良いのか？	森光 康次郎
5	5 月 8 日 10:40~12:10	例証：臭いものにはフタをするな？ － 有機硫黄化合物の話	森光 康次郎
6	5 月 15 日	ALH（内容は後日提示）	森光 康次郎

	10:40~12:10		
7	5月22日 10:40~12:10	災害時の栄養・食生活支援 行政栄養士の役割について	須藤 紀子
8	5月29日 10:40~12:10	エビデンスで差がつく食育①	須藤 紀子
9	6月5日 10:40~12:10	エビデンスで差がつく食育②	須藤 紀子
10	6月12日 10:40~12:10	食品物性研究について	新田 陽子
11	6月19日 10:40~12:10	酵素科学研究について	新田 陽子
12	6月26日 10:40~12:10	調理科学研究について	新田 陽子
13	7月3日 10:40~12:10	食品成分の分析法 1	野田 響子
14	7月10日 10:40~12:10	食品成分の分析法 2	野田 響子
15	7月7日 10:40~12:10	食品成分の分析法 3	野田 響子

単位： 2単位（博士前期課程）

成績評価： 講義への出席状況（15%）&各教員による試験または課題等（85%）

連絡先（取りまとめ）： 清水 誠 shimizu.makoto@ocha.ac.jp 居室：総合研

究棟 406 室

B13 総合生命科学特論

前世紀から急速に発展した生命科学は、今世紀さらに関連領域を包み込みながら、新たな学際領域や産業を生み出す核となっており、社会的な重要性が増している。そのような社会のニーズに応える大学院教育科目として、この総合生命科学特論は位置づけられる。具体的には、生命科学とその関連分野について、特定の専門分野に偏ることなく幅広い知識を学べるように、さまざまな分野の教員がそれぞれの専門領域に関して最新の研究動向をわかりやすく概説する。

[対象履修モデル] 臨床開発, 食品, 公務員, 化粧品

B13-0 ライフサイエンス論（お茶の水女子大学）

担当者: 服田 昌之（専攻長）他

講義時期: 2026 年前期金曜日 1-2 限 (9:00~10:30)

講義場所: 共通講義棟 2 号館 102 室

講義の特徴: 生活科学、生命科学の両面から専攻の全体像を把握することを目的とする。各自の研究の位置づけや意義を見出し、修士論文を含む更なる研究の発展に役立てることを目指す。お茶の水女子大学ライフサイエンス専攻教員によるオムニバス講義。

レベル: 基礎的～先端的

講義内容: 4月10日(金) 9:00~10:30 専攻長によるガイダンスと総論。その後、毎週金曜日の9:00~10:30に、担当教員による講義。

回数	日時	内容	担当者
1	4月10日 9:00~10:30	ガイダンス, 科学と技術と科学技術	服田昌之
2	4月17日 9:00~10:30	動物の有性生殖と発生	千葉和義
3	4月24日 9:00~10:30	藻類は厄介者か, 未来を拓く救世主か	鳶田智
4	5月15日 9:00~10:30	行動科学に基づいた栄養教育	赤松利恵
5	5月22日 9:00~10:30	行動はどのように進化するのか	近藤るみ
6	5月29日 9:00~10:30	人を対象とした研究における倫理	三宅秀彦

7	6月5日 9:00~10:30	生物多様性の危機に対するライフサイエンス： 保全遺伝からネイチャーポジティブへ	岩崎貴也
8	6月12日 9:00~10:30	白色脂肪組織におけるカロリー制限作用メカニ ズム	小林正樹
9	6月19日 9:00~10:30	脂質の生体機能と欠乏がもたらす病態の分子機 構	市 育代
10	6月26日 9:00~10:30	食品因子による生体制御と生活習慣病への応用	飯田薫子
11	7月3日 9:00~10:30	調理過程における食品の品質変化とその制御	佐藤瑤子
12	7月10日 9:00~10:30	システムズバイオロジー：環境と発生	佐藤敦子
13	7月17日 9:00~10:30	サンゴ産卵の環境応答	服田昌之
14	7月24日 9:00~10:30	予備：レポート作成日	
15	7月31日	予備日	

単位： 2単位（博士前期課程）

成績評価： 講義への出席状況＋全体レポート＋1教員（選択）のレポート

B13-G1 統合生命科学特論V（学習院大学）

担当者： 安達 卓

講義時期： 隔年開講のため 2026 年度は開講されない（2027 年度第 1 学期（前
期）・木曜日 2 限に開講予定）

講義場所： 南 7 号館セミナー室 8（開講に合わせて、「授業時間割」の冊子や掲
示板等にて確認のこと。学習院大学のシラバス参照も可）

講義の特徴： 我々ヒトの細胞は、少なく見積もっても 1 秒間に 10 万個死んでいる
とされています。これらの細胞は必ずしも老化や傷害のために死ん
でしまったのではなく、むしろ積極的に死に向かう場合も多く、これ
らの現象を総じて細胞死（cell death）と呼びます。本講義では、こ
の細胞死の至近要因と究極要因に関して総合的に解説し、前半では特
に、細胞死の基本的な仕組みとその広範な役割を、後半では主に単細胞
生物によって解明されてきた細胞死の社会生物学的意義を解説したの
ち、ショウジョウバエによって先駆的に解明された個体発生時のダイ
ナミックな細胞間相互作用による細胞死制御を解説します。

レベル： 中級

講義内容：

回数	日 時	内 容	担当者
1		細胞死の一般論 1 : 細胞死の目的と仕組	安達 卓
2		細胞死の一般論 2 : センチュウとショウジョウバエの細胞死	安達 卓
3		細胞死の一般論 3 : 細胞死におけるミトコンドリア	安達 卓
4		細胞死の応用論 1 : 癌と神経変性における細胞死	安達 卓
5		細胞死の応用論 2 : テロメアと組織幹細胞	安達 卓
6		細胞死の応用論 3 : 細胞死が関与するその他の疾病	安達 卓
7		細胞死の応用論 4 : 細胞死の類似現象	安達 卓
8		細胞死の応用論 5 : オートファジー	安達 卓
9		社会生物学 1 : 利他的細胞死の社会生物学的視点	安達 卓
10		社会生物学 2 : 利他的形質の至近要因と究極要因	安達 卓
11		社会生物学 3 : 個体死 (寿命) の目的と仕組	安達 卓
12		個体発生の細胞社会学 1 : モルフォゲンによる位置情報形成	安達 卓
13		個体発生の細胞社会学 2 : 細胞死による分化異常修復と再生	安達 卓

評価: レポート 70 %

授業での発表内容、授業への参加度、グループ作業の成果など
30 %

B13-G2 統合生命科学特論Ⅲ (学習院大学)

担当者: 飯野 雄一、能瀬 聡直

講義時期: 隔年開講のため 2026 年度は開講されない。(2027 年度第 1 学期 (前期) に集中講義として開講予定)

講義場所: 未定

講義の特徴： 生物が正常に発生・成長し、環境の中でうまく活動・繁殖するためには、ゲノム上にコードされる多数の遺伝子がある場面ごとに適切に選ばれて使われることが必要である。遺伝子の機能が異常になると、生命機能の不全に陥りさまざまな疾患が起こる。個体発生、細胞・器官の生理的機能、脳神経系の機能など個体レベルで起こる生命現象を理解するには、研究のしやすいモデル動物を用いてそこに関わる遺伝子を発見し、さらにその機能を生きた個体のなかで解析する必要がある。本講義では、線虫、ショウジョウバエ、マウスなどのモデル生物における順遺伝学や逆遺伝学による遺伝子発見手法、細胞・組織特異的あるいは時期特異的な遺伝子操作による個体レベルの遺伝子機能解析手法、ヒトの疾患の解明への応用について、順序立てて解説する。

レベル： 中級

講義内容：

回数	日時	内容	担当教員
第1回	未定	線虫を用いた個体レベルの分子遺伝学①： 線虫 <i>C. elegans</i> を使った順遺伝学および逆遺伝学による遺伝子機能の解析手法	飯野 雄一
第2回	未定	線虫を用いた個体レベルの分子遺伝学②： 線虫を用いた個体発生の機構、老化・寿命、自然免疫、学習記憶の研究例	飯野 雄一
第3回	未定	線虫を用いた個体レベルの分子遺伝学③： ヒト疾患モデル線虫と疾患遺伝子の機能解析	飯野 雄一
第4回	未定	マウスを用いた個体レベルの分子遺伝学： マウスの遺伝子改変とそれを用いた脳機能の解析手法	飯野 雄一
第5回	未定	種間共通遺伝子とヒトの分子遺伝学： 種間共通な遺伝子の解析、ヒトの遺伝とゲノム解析	飯野 雄一
第6回	未定	ショウジョウバエを用いた個体レベルの分子遺伝学①： 遺伝学の基礎： 個体レベルでの遺伝子機能解析の方法論	能瀬 聡直
第7回	未定	ショウジョウバエを用いた個体レベルの分子遺伝学②： ショウジョウバエの古典的遺伝学、ショウジョウバエ分子遺伝学の基礎	能瀬 聡直
第8回	未定	ショウジョウバエを用いた個体レベルの分子遺伝学③： 発生生物学における研究例	能瀬 聡直
第9回	未定	ショウジョウバエを用いた個体レベルの分子遺伝学④： 神経行動学における研究例、ヒト疾患モデルとしてのショウジョウバエ	能瀬 聡直
第10回	未定	個体レベルの分子遺伝学と神経回路研究における革新的技術進展： 光遺伝学、コネクトミクス、単一細胞 RNA seq による細胞タイプの網羅的同定	能瀬 聡直

C01 先端有機化学特論

現代の有機化学の進歩は著しく、原子や分子が引き起こす化学的変化をあらかじめ予測し、それらを自在に制御することが可能となる時代を迎えた。その学問の対象は材料分野や医薬品・生物活性物質の合成、さらには病や生命現象にまでも拡大している。本講義では医薬品開発の場において求められる化学的な知識として、「有機合成化学」、「有機金属化学」、「創薬化学」を中心に解説する。

[対象履修モデル] 製薬(有機合成系), 化学, メディア, 化粧品

C01-K 有機化学特論 (北里大学)

担当者: 牧野 一石 (医薬品化学教室)

講義時期: 2026 年度後期 火曜日 2時限目 (10:55~12:25)

講義場所: 1号館 1507 セミナー室

講義の特徴: 医薬品開発のために必要な有機合成化学に関する基礎的能力を習得し、合理的な薬物設計と合成計画を立案できる能力を身につける。

レベル: 基礎的~先端的

講義内容:

回数	日時	内容	担当者
1	9月1日	炭素-炭素単結合形成反応 (アルドール反応) ①	長光 亨
2	9月8日	炭素-炭素単結合形成反応 (アルドール反応) ②	長光 亨
3	9月15日	炭素-炭素二重結合形成反応①	長光 亨
4	9月29日	炭素-炭素二重結合形成反応②	長光 亨
5	10月6日	固相合成の基礎	長井 賢一郎
6	10月13日	ファーマコフォアと化合物最適化	藤井秀明
7	10月20日	新薬探索法とドラッグライクネス	藤井秀明
8	10月27日	リード化合物探索法	藤井秀明
9	11月10日	化合物設計法	藤井秀明
10	11月17日	医薬品候補化合物探索の実例 ※学外講師	
11	11月24日	有機金属化学の基礎	牧野一石

12	12月1日	有機金属化学の基礎	牧野一石
13	12月8日	遷移金属錯体の基本反応	牧野一石
14	12月15日	遷移金属錯体の基本反応	牧野一石
15	12月22日	遷移金属錯体を利用した生物活性物質の化学合成	牧野一石

単位： 2単位（博士前期課程）

成績評価： 講義への取り組み姿勢（50%）とレポート（50%）により評価する。

C02 構造理論化学特論

分子の構造や原子の配列は、物質の性質と密接に関係している。現代化学において分子の構造を理論的に調べる代表的な方法は、量子力学に基づく分子軌道計算である。化学反応は、結合の組み換え、あるいは構造変化としてとらえることができ、電子構造やエネルギーの変化を追うことが反応機構の解明につながる。また、最近の計算化学分野の発展は、生体における分子内・分子間の相互作用機構の解析に力を発揮し始めている。

[対象履修モデル] 製薬(有機合成系), 化学

C02-0 分子分光化学特論 (お茶の水女子大学)

担当者: 宮崎 充彦

講義時期: 2026 年度前期開講

講義場所: お茶の水女子大学 理学部 1 号館 330 号室

講義の特徴: 分子構造・化学反応について分光学的手段を用いて理解するために必要な、分子の量子化学的記述と光と分子の相互作用、光源、量子化学計算法などについて学ぶ。自身の研究対象を量子論に基づき検討し、原著論文における分光分析の意味を理解・評価できることを目的とする。

レベル: 基礎～先端的

講義内容:

回	日付	時刻	授業題目	担当教員
1	4/14	10:40-12:10	光の基礎理論と光源・分光器・検出器 光の基礎理論	宮崎 充彦
2	4/21	10:40-12:10	光の基礎理論と光源・分光器・検出器 光源・分光器・検出器	宮崎 充彦
3	4/28	10:40-12:10	電子スペクトル 理論1: 分子の波動関数と電子状態	宮崎 充彦
4	5/12	10:40-12:10	電子スペクトル 理論2: 電子遷移と光遷移	宮崎 充彦
5	5/19	10:40-12:10	電子スペクトル 解析1: 吸収スペクトル、発光スペクトル	宮崎 充彦
6	5/26	10:40-12:10	電子スペクトル	宮崎 充彦

			解析 2 : イオン化スペクトル、その他	
7	6/2	10 : 40-12 : 10	振動スペクトル 理論 1 : 分子の基準振動	宮崎 充彦
8	6/9	10 : 40-12 : 10	振動スペクトル 理論 2 : 分子の基準振動と光遷移	宮崎 充彦
9	6/16	10 : 40-12 : 10	振動スペクトル 解析 : 特性振動分子構造の推測	宮崎 充彦
10	6/23	10 : 40-12 : 10	回転スペクトル 理論と解析 : 慣性モーメントと分子構造	宮崎 充彦
11	6/30	10 : 40-12 : 10	NMR スペクトル 理論と解析 : 遮蔽とスピン間相互作用と分子構造決定	宮崎 充彦
12	7/7	10 : 40-12 : 10	質量スペクトル 理論と解析 : 分子質量・フラグメンテーションと分子構造の推測	宮崎 充彦
13	7/14	10 : 40-12 : 10	理論スペクトル 理論 : 量子化学計算	宮崎 充彦
14	7/21	10 : 40-12 : 10	理論スペクトル 解析 1 : 赤外/Raman スペクトル	宮崎 充彦
15	7/28	10 : 40-12 : 10	理論スペクトル 解析 2 : 電子スペクトル	宮崎 充彦

単位 : 2 単位 (博士前期課程)

成績評価 : 講義への出席状況、発表課題、等

参考書 : P. W. Atkins, "Molecular Quantum Mechanics" など

備考 : 学部レベルの量子化学・物理化学・統計力学を履修し、基礎的理解があること。基本的な微積分、微分方程式、線形代数が利用できること。

履修登録前に講義内容およびスケジュールについて担当教員まで連絡すること。(miyazaki.mitsuhiko@ocha.ac.jp)

C03 機能分子化学特論

化学は物質を対象として、分子、原子レベルでその性質を理解し、制御する学問である。現在、生命科学やナノテクノロジーなどの分野で、生命現象を制御したり、計測したりする化合物の創製や、様々な機能性材料の開発とその応用研究が活発に行われている。本講義では、このような機能性分子創製の基礎と最新の研究動向について概説する。

[対象履修モデル] 製薬(有機合成系), 化学, 化粧品

C03-T 機能分子化学 (東京科学大学)

担当者: 玉村 啓和

講義時期: 2026 度後期 (10 月 26 日~11 月 11 日)

講義場所: オンライン授業

講義の目的: これまでに研究されてきた機能分子について、その設計のコンセプトや応用例について理解を深め、最新の成果について習得する。

レベル: 先端的

講義内容:

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	10/26	08:50- 10:20	オンデマンド	ゲノム化学の基礎と展開	玉村 啓和
2	10/26	10:45- 12:15	オンデマンド	ゲノム化学の基礎と展開	玉村 啓和
3	10/28	08:50- 10:20	オンデマンド	ペプチド・タンパク質化学	玉村 啓和
4	10/28	10:45- 12:15	オンデマンド	ペプチド・タンパク質化学	玉村 啓和
5	10/29	08:50- 10:20	ライブ	リード探索とスクリーニン	辻 耕平
6	10/29	10:45- 12:15	ライブ	リード探索とスクリーニン グ	辻 耕平

7	11/2	08:50- 10:20	ライブ	光化学生物学	隅田 有人
8	11/2	10:45- 12:15	オンデマンド	ペプチドミメティックの基礎と応用	小早川 拓也
9	11/4	08:50- 10:20	ライブ	標的分子の化学修飾	細谷 孝充
10	11/4	10:45- 12:15	ライブ	ケミカルプローブ	丹羽 節
11	11/5	08:50- 10:20	ライブ	リンカー設計と医薬品プロセス化学	金本 和也
12	11/5	10:45- 12:15	ライブ	リンカー設計と医薬品プロセス化学	金本 和也
13	11/9	08:50- 10:20	ライブ	タンパク質の一生とその制御	伊藤 幸裕
14	11/9	10:45- 12:15	ライブ	タンパク質の一生とその制御	伊藤 幸裕
15	11/11	08:50- 10:20	ライブ	核酸高次構造のケミカルバイオロジー	馬 悦

単位: 2単位 (修士課程)

成績評価: 授業の参加状況(20点)及び試験(80点)に基づいて総合的に評価を行う。

参考書: 受容体がわかる (加藤茂明著、羊土社)、ビタミン研究のブレークスルー (日本ビタミン学会編、学振出版)、
The Nuclear Receptors FactsBook (Laudet, V & Gronemeyer, H., Academic Press)、
ゲノム化学の最前線 (杉山弘・中谷和彦編、化学同人)、
生命現象を理解する分子ツール (浜地格、二木史朗編、化学同人)
創薬科学・医薬化学 (第2版) (橋高敦史編、化学同人)
(資料配付予定)

C03-01 超分子化学特論（お茶の水女子大学）

担当者： 棚谷 綾

講義時期： 隔年開講科目のため 2026 年度は開講されない

講義場所： お茶の水女子大学 未定

講義の特徴： 超分子化学とは、2 種類もしくはそれ以上の分子が相互作用し、その配列、構造に由来する特異的な機能を発揮するような分子集合体を対象とした化学である。本講義では、超分子化学の基礎について学習し、最新の話題について討論する。

レベル： 基礎～先端的

単位： 2 単位（博士前期課程）

成績評価： 講義への出席状況とレポート

参考書： 有賀克彦、国武豊喜 著「超分子化学への展開」（岩波書店・岩浪講座現代化学への入門 16）；戸田芙三夫著「超分子化学入門」（裳華房・化学サポートシリーズ）；西尾元宏著「有機化学のための分子間力入門」（講談社サイエンティフィク）

備考： 日程については決まり次第シラバスのウェブページに掲載されます。

講義内容：

回数	日時	内容	担当者
1		分子認識の化学	棚谷 綾
2		分子のトポロジー (1) フラレンと dendrimer	棚谷 綾
3		分子のトポロジー (1) ロタキサンとカテナン	棚谷 綾
4		分子の自己組織化	棚谷 綾
5		超分子ポリマー	棚谷 綾
6		超分子化学の研究手法	棚谷 綾
7		らせん高分子	棚谷 綾
8		分子デバイスとナノテクノロジー	棚谷 綾
9		分子マシン	棚谷 綾
10		芳香族アミドの化学	棚谷 綾

C03-02 界面化学特論（お茶の水女子大学）

担当者： 伊村 くらら

講義時期： 隔年開講科目のため 2026 年度は開講されない

講義場所： お茶の水女子大学 理学部 1号館 318 室（予定）

講義の特徴：コロイド界面化学の基盤的概念と先端研究の事例を学ぶ。界面活性剤に
主軸を置きつつ、その関連分野や種々の評価方法についての知識を身
に付けることを目標とする。文献紹介発表では、双方向形式の議論を
通して本領域の先端研究に触れてもらう。

レベル： 基礎～先端的

単位： 2 単位（博士前期課程）

成績評価： 講義への出席状況、発表課題、ならびに期末試験を実施して総合的に評
価する。

参考書： 日本化学会編「現代界面コロイド化学の基礎 原理・応用・測定ソリュ
ーション

日本油化学会編「界面と界面活性剤－基礎から応用まで－」

備考： 本科目は 6～8 月にかけて集中講義形式で実施する予定です。履修登録前
に講義内容およびスケジュールについて問い合わせたい場合は、担当教
員まで連絡をください。（imura.clara@ocha.ac.jp）

C04 ケミカルバイオロジー・創薬化学特論

ケミカルバイオロジーや医薬化学などの分野は、生命現象を制御したり計測したりする化合物や化学的手段の開発とそれを用いた生命現象や疾患の理解、創薬を目的とした、化学と生命科学の融合領域である。このような化学的アプローチによる生体機能研究はポストゲノム時代の生命科学研究の柱となる。本特論では、ケミカルバイオロジーや医薬化学研究の基礎と、現状ならびに今後の展開について講義を行う。

[対象履修モデル] 製薬(有機合成系), 製薬(生命系), 臨床開発, 食品

C04-T ケミカルバイオロジー特論 (東京科学大学)

担当者: 細谷 孝充

講義時期: 2026年度前期(4月9日~6月4日)

講義場所: オンライン授業

講義概要: ケミカルバイオロジーという分野の概要とその基礎的手法を学び、更に、有機化学、合成化学、天然物化学、医薬化学、ゲノム創薬、バイオインフォマティクス、疾患科学などの観点から最先端の研究を紹介する。

レベル: 基礎的~先端的

講義内容:

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	4/9	08:50- 10:20	ライブ	ケミカルバイオロジー概論	伊藤 幸裕
2	4/23	08:50- 12:15	ライブ	ケミカルバイオロジーのための有機化学	細谷 孝充
3	4/30	08:50- 12:15	ライブ	ケミカルバイオロジーとデジタルバイオ分析	渡邊 力也
4	5/7	08:50- 12:15	ライブ	ケミカルバイオロジーと植物科学	萩原 伸也
5	5/14	08:50- 12:15	オンデマンド	ケミカルバイオロジーとバイオミメティック	玉村 啓和
6	5/21	08:50- 12:15	ライブ	ケミカルバイオロジーと生体工学	藤田 大雅

7	5/28	08:50- 12:15	ライブ	ケミカルバイオロジーとゲノム創薬研究	岩岡 はるな
8	6/4	08:50- 12:15	ライブ	ケミカルバイオロジーと創薬	須田 三記也

単位： 2 単位 (修士課程)

成績評価： 授業の参加状況 (40%) 及び試験 (60%) に基づいて総合的に評価を行う。

[入門書] 入門ケミカルバイオロジー (オーム社)、現代化学への入門 15 「生命科学への展開」 (上村大輔、袖岡幹子 著、岩波書店)

[参考書] Chemical Biology (L. Schreiber, T. Kapoor, G. Weiss 編、WILEY-VCH)、PROTEIN TARGETING WITH SMALL MOLECULES - Chemical Biology Techniques and Applications (Wiley)、ケミカルバイオロジー 成功事例から学ぶ研究戦略 (長野哲雄、萩原正敏監訳、丸善)、ケミカルゲノミクスの誕生 (吉田稔編、蛋白質核酸酵素 Vol. 50, No. 9)、医療・診断をめざす先端バイオテクノロジー：バイオ研究のフロンティア 3 (工学図書)、生物有機化学—ケミカルバイオロジーへの展開— (裳華房)、Bioconjugate Techniques 2nd Ed. (Academic Press)、分子細胞生物学第 5 版 (Lodish 他著、石浦章一他訳、東京化学同人)

C06 創薬物理化学特論

新規医薬品の開発を合理的に行う上で必要となる蛋白質の構造と機能について要点をまとめ、次に、コンピュータを活用した医薬分子設計研究を行うために必要な計算化学的手法を初歩から詳しく講義する。さらに、それらの知識・技術を基盤にした *in silico* 創薬研究の実例についても解説する。

[対象履修モデル] 製薬(有機合成系), 臨床開発, メディア

C06-K 創薬情報科学特論 (北里大学)

担当者: 志鷹 真由子 (生物分子設計学教室)

講義時期: 2026 年度前期火曜日 2 時限目 (10:55~12:25)

講義場所: 第 1 回~第 6 回: 3301 講義室、第 7 回~第 15 回: 1507 セミナー室

講義の特徴: 薬学研究におけるコンピュータの活用に関する基本的知識 (バイオインフォマティクス、ケモインフォマティクス、構造生物学、合理的薬物設計など) を講義する。

レベル: 基礎的~先端的

講義内容:

回数	日時	内容	担当者
1	4 月 7 日	タンパク質構造情報と創薬 1: コンピュータを用いたタンパク質立体構造予測 1	清田泰臣
2	4 月 14 日	タンパク質構造情報と創薬 2: コンピュータを用いたタンパク質立体構造予測 2	清田泰臣
3	4 月 21 日	タンパク質構造情報と創薬 3: 創薬研究における Structure-Based Drug Design と <i>in silico</i> 技術	大田雅照
4	5 月 12 日	タンパク質構造情報と創薬 4: Chemoinformatics 概説	若杉昌輝
5	5 月 19 日	タンパク質構造情報と創薬 5: 人工知能技術の創薬への応用	大田雅照
6	5 月 26 日	タンパク質構造情報と創薬 6: まとめ	志鷹真由子
7	6 月 2 日	X 線結晶構造解析法を用いたタンパク質の立体構造解析の概説	田中信忠
8	6 月 9 日	電子実験ノートの利用とその応用	石原正章
9	6 月 16 日	NMR 法を用いたタンパク質の立体構造解析の概説	小澤新一郎
10	6 月 23 日	クライオ電子顕微鏡法を用いたタンパク質の立体構造解析の概説	安達成彦

11	6月30日	In silico Drug Design 概説	田中信忠
12	7月7日	Ligand-Based Drug Design 概説	中込泉
13	7月14日	Structure-Based Drug Design 概説	吉田智喜
14	7月21日	Fragment-Based Drug Design 概説	小澤新一郎
15	7月28日	Structure-Based Drug Design のまとめ	山乙教之

単位： 2単位（博士前期課程）

成績評価： 履修態度、講義内容に関連した課題レポート（100%）により評価します。無断欠席や正当な理由のない欠席・遅刻・早退などは減点対象となります。

C08 構造生物学特論

核酸や蛋白質といった生体高分子の立体構造、およびその決定方法について教育する。立体構造の基本を学び、さらにそれが分子機能の理解にどうつながるのか、具体例を通して学ぶ。また、こうした生体高分子の立体構造の決定手法について、X線結晶学や核磁気共鳴を中心に学ぶ。

[対象履修モデル] 製薬(有機合成系), 臨床開発

C08-T 分子構造学特論 (東京科学大学)

担当者: 伊藤 暢聡

講義時期: 2026年度後期(10月5日~11月4日)

講義場所: M&Dタワー21階大学院講義室1

講義概要: 蛋白質を中心に生体高分子の立体構造について、その基礎やそこから得られる情報について学び、立体構造の広範な利用法を概観する。さらに、立体構造の決定に用いられる実験手法の基礎を学ぶことにより、それぞれの手法の特徴や欠点を理解し、様々な研究分野への応用する際の問題点を考える。なお、生物学や物理学の知識を前提とはしていないので、広い分野の学生が受講できる。

レベル: 基礎的~先端的

講義内容:

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	10/5	13:30-15:00	大学院講義室1	蛋白質立体構造概論 I	伊藤 暢聡
2	10/5	15:25-16:55	大学院講義室1	蛋白質立体構造概論 II	伊藤 暢聡
3	10/6	13:30-15:00	大学院講義室1	立体構造と分子の機能 I	伊藤 暢聡
4	10/6	15:25-16:55	大学院講義室1	立体構造と分子の機能 II	伊藤 暢聡
5	10/20	13:30-15:00	大学院講義室1	生体高分子の立体構造決定方法 I	伊藤 暢聡
6	10/20	15:25-16:	大学院講義室1	生体高分子の立体構造決定方法 II	伊藤 暢聡

7	10/21	13:30-15:00	大学院講義室 1	クライオ電子顕微鏡による蛋白質の構造解析	沼本 修孝
8	10/21	15:25-16:55	大学院講義室 1	構造生物学の最近のトピックス	花園 祐矢
9	10/27	13:30-15:00	大学院講義室 1	蛋白質の立体構造と計算機実験	木下 賢吾
10	10/27	15:25-16:55	大学院講義室 1	蛋白質の立体構造と創薬	黒田 正孝
11	10/28	13:30-15:00	大学院講義室 1	核磁気共鳴 (NMR) と蛋白質立体構造 I	廣明 秀一
12	10/28	15:25-16:55	大学院講義室 1	核磁気共鳴 (NMR) と蛋白質立体構造 II	廣明 秀一
13	11/2	13:30-15:00	大学院講義室 1	蛋白質の結晶化とデータ解析 I	伊藤 暢聡
14	11/2	15:25-16:55	大学院講義室 1	蛋白質の結晶化とデータ解析 II	伊藤 暢聡
15	11/4	13:30-15:00	大学院講義室 1	赤外・ラマン分光法による構造解析	奈良 雅之

単位： 2単位（修士課程）

成績評価： 成績の評価は、試験成績（70%）と授業の参加状況（30%）に基づいて総合的に評価を行う。

参考書： タンパク質の構造入門／Carl Branden, John Tooze 著, Branden, Carl, Tooze, John, 勝部, 幸輝, : ニュートンプレス, 2000

タンパク質の立体構造入門：基礎から構造バイオインフォマティクスへ／藤博幸編, 藤, 博幸, 太田, 元規, 川端, 猛, 木下, 賢吾, 白井, 剛, 諏訪, 牧子, 高田, 彰二, 高橋, 聡, 廣明, 秀一, 真柳, 浩太, 倭, 剛久, 由良, 敬, : 講談社, 2010

C08-G 分子細胞生物学特論IV（学習院大学）

担当者： 岡田 哲二

講義時期： 2026年度第2学期（後期）・金曜日2限（隔年開講科目のため2027年度は開講されない）

講義場所： 開講に合わせて、「授業時間割」の冊子や掲示板等にて確認のこと。

講義の特徴： 分子・細胞レベルで様々な生命現象や生体機能を理解するためには、生体高分子の構造とダイナミクスに関する知識が不可欠である。本講義では、

いわゆる高難度（高等動物や生体膜の）タンパク質を中心に、高分解能での構造情報蓄積および様々な分類体系整備の進展を概観するとともに、それらの活用に関する演習を行うことを通じて、基礎生命科学的な意義や創薬等の応用研究との関連について、最新の知見を得ることを目的とする。

レベル： 中級

講義内容：

回数	日時	内容	担当者
1	9/25 (金)2限(予定)	イントロダクション	岡田 哲二
2	10/2 (金)2限(予定)	構造情報概論	岡田 哲二
3	10/9 (金)2限(予定)	生体高分子分類体系概論	岡田 哲二
4	10/16 (金)2限(予定)	構造比較概論	岡田 哲二
5	10/23 (金)2限(予定)	ヒトタンパク質の構造生物学	岡田 哲二
6	10/30 (金)2限(予定)	高等動物タンパク質の構造生物学	岡田 哲二
7	11/6 (金)2限(予定)	モデル生物タンパク質の構造生物学	岡田 哲二
8	11/13 (金)2限(予定)	膜タンパク質の構造生物学	岡田 哲二
9	11/20 (金)2限(予定)	タンパク質複合体の構造生物学	岡田 哲二
10	11/27 (金)2限(予定)	構造可変性概論	岡田 哲二
11	12/4 (金)2限(予定)	真核生物タンパク質の構造可変性	岡田 哲二
12	12/11 (金)2限(予定)	原核生物タンパク質の構造可変性	岡田 哲二
13	12/18 (金)2限(予定)	構造可変性と分子進化	岡田 哲二

単位： 2単位（修士）

成績評価： 講義への出席状況、レポートおよび演習

C09 タンパク質工学特論

様々な生命現象に関わっている重要な生体分子であるタンパク質の構造－機能相関について、タンパク質の立体構造ならびにタンパク質工学的解析に基づいて明らかにされている現状を概説する。

[対象履修モデル] 製薬(有機合成系), 公務員

C09-G 応用生物学特論Ⅱ (学習院大学)

担当者: 尾仲 宏康

講義時期: 隔年開講のため2026年度は開講されない。(2027年度第2学期(後期)・金曜日2限開講予定)

講義場所: 未定(2023年度は南1号館101教室で行われた)

講義の特徴: 微生物は地球環境の様々な箇所に生息し、多様な代謝活動を行っている。これら微生物の多様性、進化の歴史、人類による応用利用について講義する。

レベル: 中級

回数	日時	内容	担当者
1		多様な微生物の世界	尾仲 宏康
2		微生物進化の歴史	尾仲 宏康
3		微生物各論1 原核生物	尾仲 宏康
4		微生物各論2 真核生物	尾仲 宏康
5		微生物各論3 古細菌	尾仲 宏康
6		微生物各論4 ウイルス	尾仲 宏康
7		微生物各論5 原生生物	尾仲 宏康
8		微生物生態学	尾仲 宏康
9		共生	尾仲 宏康
10		微生物代謝の多様性	尾仲 宏康
11		微生物の作る天然物	尾仲 宏康
12		生合成工学	尾仲 宏康
13		工業微生物学	尾仲 宏康

C10 生体材料工学特論

生体分子、細胞、組織、臓器およびそれらの集合体を含めた生体システムを発想の源とするバイオマテリアルの創製とバイオナノテクノロジー、ドラッグデリバリーシステム、再生医工学での利用に関する基礎から最近のトピックスまで講義する。

[対象履修モデル] 化学

C10-T1 生体材料学（東京科学大学）

担当者： 川下 将一

講義時期： 2026 年度前期（4 月 28 日～5 月 21 日）

講義場所： オンライン講義

講義の目的： 生体に使用されるさまざまな材料についての基礎を理解する。硬組織および軟組織に使用される材料は、それぞれ要求される特性が異なるが、生体に使用される材料全般にわたり基礎的な知識を習得する。

レベル： 基礎的～先端的

講義内容：

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	4/28	13:30- 15:00	ライブ	バイオマテリアル概論／組成、構造、性質（1）	川下 将一
2	4/28	15:25- 16:55	ライブ	バイオマテリアル概論／組成、構造、性質（2）	川下 将一
3	4/30	13:30- 15:00	ライブ	高分子材料（合成）	松元 亮
4	4/30	15:25- 16:55	ライブ	高分子材料（物性）	松元 亮
5	5/7	13:30- 15:00	ライブ	高分子（構造）	松元 亮
6	5/7	15:25- 16:55	ライブ	無機材料（基礎）	横井 太史

7	5/13	13:30- 15:00	ライブ	無機材料（結晶科学）	横井 太史
8	5/13	15:25- 16:55	ライブ	無機材料（合成と焼結）	横井 太史
9	5/14	13:30- 15:00	ライブ	金属材料（構造）	仲井 正昭
10	5/14	15:25- 16:55	ライブ	金属材料（変形と破壊）	仲井 正昭
11	5/20	13:30- 15:00	ライブ	金属材料（表面と腐食）	植木 洸輔
12	5/20	15:25- 16:55	ライブ	マテリアルと生体組織との反応 生 体側要素（体液～核酸）	沖田 ひかり
13	5/21	13:30- 15:00	ライブ	マテリアルと生体組織との反応 生 体側要素（血液、細胞、細菌）	宮本 昂明
14	5/21	15:25- 16:55	ライブ	マテリアルと生体組織との反応 生 体側要素（骨、皮膚、血管の力学的 性質）	川下 将一
15	5/21	17:15- 18:45	ライブ	マテリアルと生体組織との反応 材 料側要素	鳴瀧 彩絵

単位： 2単位（修士課程）

成績評価： 成績評価は、参加状況（50点）と最終試験（50点）を総合して評価する。

備考： 本講義は「応用生体材料学」の基礎編である。より深い理解のために、「応用生体材料学」との同時受講が望ましい。

C10-T2 応用生体材料学（東京科学大学）

担当者： 松元 亮

講義時期： 2026年度前期（6月1日～6月22日）

講義場所： ライブ、オンデマンド

講義の目的： C10-T1 で学ぶ「生体材料学」を基盤として、バイオマテリアルを医療・歯科医療に用いる場合に知っておくべき生体側の反応や、生体との相互作用

について、および臨床応用における課題の知識を得ることを目標としている。

レベル： 基礎的～先端的

講義内容：

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	6/1	08:50- 10:20	ライブ	応用生体材料学導入	松元 亮
2	6/1	10:45~ 12:15	オンデマンド	疾患・治療学概論	伊藤 美智子
3	6/8	08:50- 10:20	ライブ	生体由来バイオマテリアル	鳴瀧 彩絵
4	6/8	10:45~ 12:15	オンデマンド	生体反応：界面での生体反応・免疫応答	木村 剛
5	6/11	08:50- 10:20	ライブ	バイオマテリアルと骨形成・石灰化	横井 太史
6	6/11	10:45~ 12:15	オンデマンド	バイオマテリアルとバイオテクノロジー	木村 剛
7	6/12	08:50- 10:20	ライブ	バイオマテリアルと感染	島袋 将弥
8	6/12	10:45~ 12:15	ライブ	人工臓器・医療デバイス 1：人工骨・歯科材料	横井 太史
9	6/15	08:50- 10:20	ライブ	人工臓器・医療デバイス 2：構造系金属材料	仲井 正昭
10	6/15	10:45~ 12:15	ライブ	人工臓器・医療デバイス 3：循環器系材料	植木 洸輔
11	6/18	08:50- 10:20	ライブ	人工臓器・医療デバイス 5：神経・感覚器系材料	鳴瀧 彩絵
12	6/18	10:45~ 12:15	ライブ	組織工学	寺村 裕治
13	6/19	08:50- 10:20	ライブ	超分子化学および分子認識化学	BARTH ELMES

					K E V I N
14	6/19	10:45~ 12:15	ライブ	ドラッグデリバリーシステム：概論および最新動向	堀 真緒
15	6/22	08:50~ 10:20	ライブ	再生医療	寺村 裕治

単位： 2単位（修士課程）

成績評価： 参加は12回以上が定期試験受験のために必須であり、12回以上の参加回数に応じて50点まで加点する。定期試験は50点満点とし、参加点と併せて100点満点で採点する。

参考書（教科書）：

バイオマテリアル：その基礎と先端研究への展開／田畑泰彦，埴隆夫編著，田畑，泰彦，埴，隆夫，岡野，光夫，明石，満，：東京化学同人，2016

バイオマテリアルサイエンス：基礎から臨床まで／山岡哲二，大矢裕一，中野貴由，

石原一彦 著，山岡，哲二，大矢，裕一，中野，貴由，1967-，：東京化学同人，2018

備考： バイオマテリアル、バイオエンジニアリングの医療貢献の可能性に関して抱負を持ち受講すること。本講義は、「生体材料学」の応用編である。より深い理解のために、「生体材料学」との同時受講が望ましい。

C12 医歯薬産業技術特論

医歯薬および医療工学の研究によって開発された医薬品・医療デバイスが研究室からでて、臨床で用いられるまでには、企業での開発および許認可を避けて通ることはできない。これらに実際に携わっている講師を招聘し、具体的な開発および許認可の実際を講義する。

[対象履修モデル] 化学

C12-T1 医歯薬産業技術特論（東京科学大学）

担当者： 池内 真志

講義時期： 2026 年後期（10 月 1 日～11 月 19 日）

講義場所： オンライン授業、対面

講義の目的： 医療に資するための研究を遂行する場合に、目先の成果に捕らわれる近視眼的な研究ではなく、実用化までを俯瞰した骨太な研究戦略を構築できる能力の獲得をめざし、基盤的な知見について講義する。

レベル： 基礎的～先端的

講義内容：

回	日付	時刻	講義室	備考
1	9/30	18:00-19:30	ライブ	
2	10/7	18:00-19:30	ライブ	
3	10/14	18:00-19:30	ライブ	
4	10/21	18:00-19:30	ライブ	
5	10/28	18:00-19:30	ライブ	
6	11/4	18:00-19:30	ライブ	
7	11/11	18:00-19:30	ライブ	
8	11/18	18:00-19:30	1F 第 2 会議室	

単位： 1 単位（修士課程）

成績評価： 授業の参加状況（60%）及び講義終了後に行う小試験（40%）に基づいて総合的に評価を行う。

備考： 医薬品医療機器総合機構講師および企業の講師の都合により開催日時は変更

されることがあります。その場合には講義開始時および随時通知します。

C12-T2 バイオメディカルデバイス工学 I (東京科学大学)

担当者: 池内 真志

講義時期: 2026 年前期 (6 月 12 日~6 月 19 日)

講義場所: オンライン授業

講義の特徴: 本授業の目的は、生化学やバイオテクノロジー、機械工学、エレクトロニクス、MEMS、バイオマテリアル、IT 技術などに基づくバイオメディカルデバイスについて知識と技術を理解することです。また最新のデバイスやその基礎科学や技術を紹介し、講義にて議論を行うことで、バイオメディカルデバイスの理解を深めます。

本授業の概要は、バイオセンサやバイオエレクトロニクス、バイオフォトリクスなどの新規なバイオメディカルデバイスについて学び、基礎を修得することです。授業の詳細として、バイオ計測や生化学式ガスセンサ、バイオアクチュエータ、バイオマイクロシステム、光学デバイス、バイオトランジスタ、機能材料デバイスなどのデバイス技術などを解説します。

レベル: 基礎的

講義内容:

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	6/12	13:30- 15:00	ライブ	ガイダンス, 医用マイクロデバイス	池内 真志
2	6/12	15:25- 16:55	ライブ	DNA ナノテクノロジーを利用した生体材料開発	石川 大輔
3	6/15	13:30- 15:00	ライブ	生殖細胞・胚の計測と操作デバイス	星野 由美
4	6/15	15:25- 16:55	ライブ	先端光センシング	飯谷 健太
5	6/16	13:30- 15:00	ライブ	術前術中生体センシングと医療 AI	中島 義和

6	6/16	15:25- 16:55	ライブ	手術支援ロボットに関する 技術	周 東博
7	6/19	13:30- 15:00	ライブ	微細加工とマイクロ流体デ バイス	梶 弘和
8	6/19	15:25- 16:55	ライブ	細胞計測システム	梨本 裕司

単位： 1 単位（修士課程）

成績評価： 授業の参加状況（60%）及び試験（40%）に基づいて総合的に評価
を行う。

参考書： Wearable Biosensing in Medicine and Healthcare / Kohji
Mitsubayashi/Springer Nature/2024

テレワーク社会を支えるリモートセンシング = Advanced remote sensing for
supporting telework/三林浩二 監修, 三林, 浩二, : シーエムシー出版, 2021

「非接触」が拓く新しいバイタルモニタリング = Non-Contact Vital Signs
Monitoring : 革新的な健康管理と医療・介護への応用/三林浩二 監修, 三林, 浩
二, : シーエムシー出版, 2021

Chemical, gas, and biosensors for internet of things and related
applications/edited by Kohji Mitsubayashi, Osamu Niwa, Yuko Ueno, 三林,
浩二, Niwa, Osamu. [丹羽修], Ueno, Yuko. [上野祐子], : Elsevier, 2019

代謝センシング = Metabolic sensing : 健康, 食, 美容, 薬, そして脳の代謝
を知る/三林浩二 監修, 三林, 浩二, : シーエムシー出版, 2018

生体ガス計測と高感度ガスセンシング/ 三林浩二監修/三林, 浩二, : シーエム
シー出版, 2017

バイオチップとバイオセンサー/堀池靖浩, 宮原裕二著 ; 高分子学会編集, 堀池,
靖浩, 宮原, 裕二, 高分子学会, : 共立出版, 2006

Micro Electronic and Mechanical Systems/Kenichi Takahata : IntechOpen,
2009

ソフトマター : 分子設計・キャラクタリゼーションから機能性材料まで/高原
淳, 栗原和枝, 前田瑞夫編, 高原, 淳, 栗原, 和枝, 前田, 瑞夫, : 丸善, 2009

Intelligent surfaces in biotechnology : scientific and engineering
concepts, enabling technologies, and translation to bio-oriented
applications/edited by H. Michelle Grandin, Marcus Textor, Grandin, H.
Michelle, Textor, Marcus, : John Wiley & Sons, 2012

刺激応答性高分子ハンドブック = Stimuli-responsive polymers handbook/宮
田隆志 監修, 宮田, 隆志, : エヌ・ティー・エス, 2018

授業中に資料を適宜、配布する。

C12-T3 バイオメディカルシステム工学 I (東京科学大学)

担当者: 中島 義和

講義時期: 2026 年前期 (5 月 25 日~6 月 10 日)

講義場所: オンライン授業

講義の目的・概要等: 医学・歯科医療の従事者や生命科学・バイオデバイスやシステムの研究開発に携わる者において生命科学・医療の知識に加えて、最先端の科学技術を理解する事は不可欠となりつつある。本講座全体は「デバイス」を中心に理解するバイオメディカルデバイス工学と、「システム」を中心に理解するバイオメディカルシステム工学の3講座で構成され、最先端のバイオデバイスやシステムを理解するのに必須なバイオ工学や機械工学、電子電気工学、ナノ・マイクロ科学、情報科学などの学習と、実際に実用化されているバイオメディカルデバイス・システムの理解を通して、総合的なバイオメディカル工学の知識と技術を理解し活用するためのスキルを育てる。

レベル: 基礎的~先端的

講義内容:

回	日付	時刻	講義室	担当教員	備考
1	5/25	15:25~16:55	ライブ	中島 義和	
2	5/27	15:25~16:55	ライブ	小野木 真哉	
3	5/29	15:25~16:55	ライブ	只野 耕太郎	
4	6/1	15:25~16:55	ライブ	梶 弘和	
5	6/3	15:25~16:55	ライブ	梨本 裕司	
6	6/5	15:25~16:55	ライブ	坂内 英夫	
7	6/8	15:25~16:55	ライブ	川嶋 健嗣	
8	6/10	15:25~16:55	ライブ	宮寄 哲郎	

単位: 1 単位 (修士課程)

成績評価: 講義への参加状況 (50%) ならびにレポート (50%) に基づいて評価する。

I01 統計学特論

私たちの周りでは、様々な調査・実験が行われ、多種多様なバラツキのあるデータが収集される。バラツキのあるデータから価値のある数値上の性質や規則性を読み取り、活用する能力は、今後の研究活動および卒業後の職場で必須となる。基本的なデータの特徴の捉え方、データの規則性を統計的に明らかにする方法が講義される他、統計解析ソフトを用いた演習を通して、この能力の修得をめざす。

[対象履修モデル] 製薬(生命系), 臨床開発, メディア, 製薬(有機合成系)

I01-K1 臨床統計学入門 1 (北里大学)

担当者: 道前 洋史 (臨床統計学教室)

講義時期: 2026 年度前期水曜日 3・4 時限目 13:25~16:35

講義場所: プラチナタワー3114 セミナー室

講義の特徴: 授業の目的は、1) 統計学の基礎知識と実践的な活用方法を修得し、医療分野における研究計画の立案ができるようになること、2) 医療分野に関する具体的な研究事例を通して様々なデータの特徴を理解し、その特徴に応じた適切な統計的推測方法(点推定・区間推定・仮説検定)を修得・活用できるようになることである。記述統計学及び推測統計学の実用例の紹介や適宜演習問題を実施することで統計学の理解を深める。また、統計学的手法を修得するために、R・SASなどの統計ソフトを用いたデータ解析も実施する。

レベル: 基礎的

講義内容:

回数	日時	内容	担当者
1	4月22日	データの表示と数字による要約尺度	道前 洋史
2	5月13日	確率	道前 洋史
3	5月20日	データ解析 1	道前 洋史
4	5月27日	理論的な確率分布	道前 洋史
5	6月3日	平均値の標本分布	道前 洋史
6	6月10日	仮説検定	道前 洋史
7	6月17日	2つの平均の比較	道前 洋史
8	6月24日	データ解析 2	道前 洋史

単位: 2単位(博士前期課程・博士後期課程)

成績評価: データ解析1の課題(50%)とデータ解析2の課題(50%)の合計に基づいて評価する。

参考書: 基礎から理解できる医学統計学 Stanton A. Glantz (著) 足立堅一 (監訳) 篠原出版新

I01-K2 臨床統計学入門 2 (北里大学)

担当者： 道前 洋史（臨床統計学教室）
講義時期： 2026 年度後期水曜日 3・4 限目 13:25～16:35
講義場所： プラチナタワー3114 セミナー室

講義の特徴：授業の目的は、臨床試験で得られるデータ解析を行う上で必要な統計学的知識と統計学的手法を修得することである。講義では、二値データや生存時間データに関する推測方法を修得するとともに、R・SASなどの統計ソフトを用いたデータ解析を実施することで実践的な問題への対応方法も修得する。

レベル： 基礎的

講義内容：

回数	日時	内容	担当者
1	9月16日	分散分析とノンパラメトリック検定	道前 洋史
2	9月30日	割合に関する推測と分割表	道前 洋史
3	10月7日	相関と回帰分析	道前 洋史
4	10月14日	データ解析 1	道前 洋史
5	10月21日	ロジスティック回帰分析	道前 洋史
6	10月28日	生存時間解析 1	道前 洋史
7	11月4日	生存時間解析 2	道前 洋史
8	11月11日	データ解析 2	道前 洋史

単位： 2 単位（博士前期課程・博士後期課程）
成績評価： データ解析 1 の課題（50%）とデータ解析 2 の課題（50%）に基づいて評価する。
参考書： 基礎から理解できる医学統計学 Stanton A. Glantz（著）足立堅一（監訳） 篠原出版新社

I01-01 生命情報学演習（お茶の水女子大学）

担当者： 由良 敬
講義時期： 2026 年度前期開講（木曜日 7・8 限 15:00～16:30）
講義場所： 共通講義棟 1 号館 106/107 室
講義の特徴： 各自のノート PC（持ち込み）を利用して、マルチオミックス情報の機械学習などによる解析の基礎的技術を学習します。教科書として「Multi-Omics Data Integration with Python: Unifying Genomics,

Transcriptomics, Proteomics, and Metabolomics for Systems-Level Biological Insight」を利用し、Python を使って学びます。演習の最後には各自のデータを用いた解析を予定しています。

レベル： 基礎～先端的

講義内容：

回数	日時	内容
1	4月9日 15:00～16:30	Overview of Omics Sciences
2	4月16日 15:00～16:30	Python for Bioinformatics
3	4月23日 15:00～16:30	Genomics Data Integration
4	4月30日 15:00～16:30	Transcriptomics Data Integration
5	5月7日 15:00～16:30	Proteomics Data Integration
6	5月14日 18:20～19:50	Metabolomics Data Integration
7	5月21日 15:00～16:30	Statistical Approaches for Omics Integration
8	5月28日 15:00～16:30	Network Biology and Omics
9	6月4日 15:00～16:30	Systems Biology and Model Building
10	6月11日 15:00～16:30	Integrative Data Mining Strategies
11	6月18日 15:00～16:30	Visualization and Interpretation of Multi-Omics Data
12	6月25日 15:00～16:30	Case Studies in Multi-Omics Integration
13	7月2日 15:00～16:30	Trends and Directions in Multi-Omics
14	7月9日 18:20～19:50	Analysis of Your Own Data
15	7月16日 15:00～16:30	Wrap Up and Future Direction

単位： 2単位（博士前期課程）

成績評価： 講義への出席状況とレポート試験

I01-02 データサイエンス特論（お茶の水女子大学）

担当者： 由良 敬

講義時期： 2026年度後期開講（10月土曜日 13:20-18:10）

講義場所： 共通講義棟1号館106/107室

講義の特徴： データサイエンスの理解は現在の科学には必要不可欠になってきた。本講義では実社会での統計データがどのように活用解析されているのかをみることを通してデータサイエンスの基礎を学ぶ。データサイエンスを理解する上で必要となる統計的学習法を実際にデータ解析することで習得する。統計学の基礎的な理解とデータ解析演習を通してデータサイエンスの基本手法を習得することを目標とする。土曜日に集中講義を実施する。各自PCを持参すること。「Rによる統計的学習入門」(G. James, D. Witten, T. Hastie, R. Tibshirani)を教科書として利用する。

レベル： 基礎的～先端的

講義内容：

回数	日時	内容
1	10月03日 13:20-14:50	統計的学習
2	10月03日 15:00-16:30	線形回帰
3	10月03日 16:40-18:10	Rを用いたデータサイエンス演習
4	10月10日 13:20-14:50	分類
5	10月10日 15:00-16:30	リサンプリング法
6	10月10日 16:40-18:10	Rを用いたデータサイエンス演習
7	10月17日 13:20-14:50	線形モデル選択の正則化
8	10月17日 15:00-16:30	Rを用いたデータサイエンス演習
9	10月17日 16:40-18:10	Rを用いたデータサイエンス演習
10	10月24日 13:20-14:50	線形を超えて
11	10月24日 15:00-16:30	木に基づく方法
12	10月24日 16:40-18:10	Rを用いたデータサイエンス演習
13	10月31日 13:20-14:50	サポートベクターマシン
14	10月31日 15:00-16:30	教師なし学習
15	10月31日 16:40-18:10	Rを用いたデータサイエンス演習

単位： 2単位（博士前期・後期課程）

成績評価： 小論文（レポート）=30%，実習成果=30%，授業への参加態度=40%

I02 生命情報学特論

バイオインフォマティクスについて教える。「生命システム情報学特論」では、バイオインフォマティクスの基礎（配列解析）から始め、分子進化学的展開を中心に先端研究までを紹介する。「疾患オミックス情報学特論」では、バイオインフォマティクスの臨床医科学応用について教える。個別ゲノム情報を利用した疾患の予測には、情報処理技術に加え、疾患の数理モデル的解析アプローチが不可欠である。疾患をシステムとして捉える基礎概念の導入から始め、癌のシステム解析を中心に先端研究までを紹介する。

[対象履修モデル] 製薬(生命系), 臨床開発, 食品

I02-T 疾患オミックス情報学特論（東京科学大学）

担当者： 二階堂 愛

講義時期： 2026年度前期（4月27日～6月2日）

講義場所： オンライン授業

講義概要： 遺伝子の同定や機能解析を通じて、全ゲノム、トランスクリプトーム、多型、エピゲノム解析の実験原理と計算原理について紹介する。

レベル： 基礎的～先端的

講義内容：

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	4/27	15:25-16:55	オンデマンド	遺伝子解析とバイオインフォマティクス	二階堂 愛
2	4/27	17:15-18:45	オンデマンド	全ゲノム解析と全トランスクリプトーム解析	二階堂 愛
3	5/1	15:25-16:55	オンデマンド	遺伝子構造の予測	二階堂 愛
4	5/1	17:15-18:45	オンデマンド	遺伝子機能の予測・遺伝子発現解析 1	二階堂 愛
5	5/11	17:15-18:45	オンデマンド	遺伝子発現解析 2	二階堂 愛
6	5/19	17:15-18:45	オンデマンド	単一細胞遺伝子発現解析	二階堂 愛

7	5/26	17:15- 18:45	オンデマンド	遺伝子変異の同定	二階堂 愛
8	6/2	17:15- 18:45	オンデマンド	エピゲノム解析	二階堂 愛

単位： 1 単位 (修士課程)

成績評価： 授業の参加状況 (20%) 及びレポート (80%) に基づいて総合的に評価を行う。

参考書： Molecular cell biology/Harvey Lodish ... [et al.], Lodish, Harvey F., :
W. H. Freeman, 2016

Epigenetics/C. David Allis, Marie-Laure Caparros, Thomas Jenuwein, Danny Reinberg, editors; Monika Lachner, associate editor, Allis, C. David, Caparros, Marie-Laure, Jenuwein, Thomas, Reinberg, Danny, Lachner, Monika, : Cold Spring Harbor Laboratory Press, 2015

エッセンシャル免疫学/ピーター・パーラム著, Parham, Peter, 笹月, 健彦, : メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2016

ゲノム : 生命情報システムとしての理解/T. A. ブラウン著, Brown, T. A. (Terence Austen), 石川, 冬木, 中山, 潤一, : メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2018

“The immune system” (Third edition), Peter Parham, Garland Science
Molecular Cell Biology Eighth Edition, Harvey Lodish et al, ISBN-13: 978-1-4641-8339-3

Genome 4, Garland Science, 978-0815345084

I02-0 生命情報学特論 (お茶の水女子大学)

担当者： 由良 敬

講義時期： 2026 年度前期開講 (木曜日 5・6 限 13:20~14:50)

講義場所： 共通講義棟 1 号館 106/107 室

講義の特徴： 多くの生物のゲノム塩基配列がわかり、トランスクリプトームなどを筆頭とするオミックス解析が容易にできる時代になった。技術革新は、一個体のオミックスデータをも産出できる状況を生み出してきた。さまざまなオミックスデータを組み合わせて解析することで、生物学の新しい知見がわかっていっている。そこで本講義では、「Machine Learning Methods for Multi-Omics Data Integration」(by Abedalrhman Alkhateeb and Luis Rueda) を輪読し、解析に必要な基礎の機械学習法を勉強する。第 1 回の講義で全受講者に担当章を割り当て、担当日に受講者が口頭発表する。講義

の最中にテキストの翻訳をすることがないように、事前にレジメをつくって講義に臨むことを期待する。なお、講義の進行予定は、輪読の進行状況に応じて変更する。

レベル： 基礎的～先端的

講義内容：

回数	日時	内容（予定）
1	4月9日 13:20～14:50	Introduction to Multiomics Technology
2	4月16日 13:20～14:50	Machine Learning from Multi-omics: Applications and Data Integration
3	4月23日 13:20～14:50	Machine Learning Approaches for Multi-omics Data Integration in Medicine (1)
4	4月30日 13:20～14:50	Machine Learning Approaches for Multi-omics Data Integration in Medicine (2)
5	5月07日 13:20～14:50	Multimodal Methods for Knowledge Discovery from Bulk and Single-Cell Multi-Omics Data (1)
6		Multimodal Methods for Knowledge Discovery from Bulk and Single-Cell Multi-Omics Data (2)
7	5月21日 13:20～14:50	Negative Sample Selection for miRNA-Disease Association Prediction Models (1)
8	5月28日 13:20～14:50	Negative Sample Selection for miRNA-Disease Association Prediction Models (2)
9	6月4日 13:20～14:50	Prediction and Analysis of Key Genes in Prostate Cancer via MRMR Enhanced Similarity Preserving Criteria and Pathway Enrichment Methods (1)
10	6月11日 13:20～14:50	Prediction and Analysis of Key Genes in Prostate Cancer via MRMR Enhanced Similarity Preserving Criteria and Pathway Enrichment Methods (2)
11	6月18日 13:20～14:50	Graph-Based Machine Learning Approaches for Pangenomics (1)
12	6月25日 13:20～14:50	Graph-Based Machine Learning Approaches for Pangenomics (2)
13	7月2日 13:20～14:50	Multiomics-Based Tensor Decomposition for Characterizing Breast Cancer Heterogeneity (1)
14	7月9日 13:20～14:50	Multiomics-Based Tensor Decomposition for Characterizing Breast Cancer Heterogeneity (2)
15	7月16日 13:20～14:50	Multi-Omics Databases

単位： 2単位（博士前期課程）

成績評価： 講義への出席状況とレポート試験

Q01 生命倫理学特論

生命科学の急速な技術的進歩を社会に有用な形で還元して行くためには、これまでの生命科学・医学の発展と社会的葛藤の歴史を正しく認識し、国際的にも通用する確かな生命倫理的知識を身につける必要がある。特に遺伝情報やES細胞などの利用に際しても、生命倫理学に基づき適格な判断ができるように指導する。さらに研究者にとって最も身近な研究倫理審査について実習を交えて学習する。

[対象履修モデル] 製薬(生命系), 製薬(有機合成系), メディア

Q01-T 研究倫理・医療倫理学 (東京科学大学)

担当者: 吉田 雅幸

講義時期: 2026年度前期(4月8日~5月1日)

講義場所: オンライン授業

講義概要: 医学・生物学の急速な技術的進歩を社会に有用な形で還元して行くためには、これまでの医学・生物学の発展と社会的葛藤の歴史を正しく認識し、国際的にも通用する確かな生命倫理的知識を身につける必要がある。特に遺伝情報やES細胞などの利用に際しても、生命倫理学に基づき適格な判断ができるように指導する。研究者にとって最も身近な研究倫理審査について実習を交えて学習する。

レベル: 基礎的~先端的

講義内容:

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	4/8	08:50- 10:20	ライブ	研究倫理・医療倫理総論 1	吉田 雅幸
2	4/8	10:45- 12:15	ライブ	個人情報と守秘義務、インフォームド・コンセント	江花 有亮
3	4/21	08:50- 10:20	ライブ	研究倫理・医療倫理総論 2	吉田 雅幸
4	4/21	10:45- 12:15	ライブ	先天性疾患治療の進歩と課題	奥山 虎之

5	4/27	08:50- 10:20	ライブ	遺伝子解析に関する倫理的問題	江花 有亮
6	4/28	08:50- 10:20	ライブ	ヒト由来検体の取り扱いと研究倫理	甲畑 宏子
7	5/1	08:50- 10:20	ライブ	臨床研究計画論	神田 英一郎
8	5/1	10:45- 12:15	ライブ	研究倫理審査実習	江花 有亮

単位： 1単位（修士課程）

成績評価： 授業への参加（全8回）状況及び授業中に出題する課題に対するA4用紙1枚程度のレポートの提出により総合的に評価を行う。

参考書：

1. 教育出版 「テーマ 30 生命倫理」 生命倫理教育研究協議会 著（絶版ですが中古はわりと入手しやすいです）
2. 文春新書 474 「いのち 生命科学に言葉はあるか」 最相葉月 著（絶版ですが中古はわりと入手しやすいです）
3. 医学出版 ポストゲノム時代の医療倫理 東京医科歯科大学生命倫理研究センター著（絶版ですので必要な時は生命倫理研究センターで貸し出しますので申し出て下さい）
4. じほう Ethical Issues Concerning Advanced Research 鈴木章夫 吉田雅幸 編著

備考：講義前に予め参考資料やインターネットを参照し、基礎的知識を身に付けておくこと。

Q03 医療概論

近年の医療は、大きな変革の潮流のなかにある。ゲノム情報の医療への応用や再生医療の臨床利用、AIの医療利用など、医学の進歩により医療はさらなる高度化を迎えている。そして、医療に求められる人間性への対応として、チーム医療を基盤とした患者中心の医療も進展してゆくと考えられる。その一方で、先進国の高齢化による医療費負担、発展途上国での貧困の格差、COVID-19をきっかけに顕在化したインフォデミック、疾病の治療以外への医療の応用など、倫理面において検討が必要になる様々な課題が出現している。これらの医療の現状や仕組みについて、我が国の医療システムを中心に種々のテーマを取り上げて医療全般を学ぶ。

[対象履修モデル] 公務員, 食品, 化学, 化粧品, メディア

Q03-01 医療概論 (お茶の水女子大学)

担当者: 三宅 秀彦

講義時期: 2026年度前期開講 (月曜日 7・8限 15:00~16:30)

講義場所: 共通講義棟 3号館 202室

講義の特徴: 当大学院の遺伝カウンセリングコースに向けて設置された講義である。本邦の医療体制および医療人におけるプロフェッショナリズムについて総論的に理解する。本邦の医療システム、医療に関わる職種、医療関連法規、医療保険制度、医療安全、疫学、公衆衛生などに関して概説できるようになり、医療に関わる職業意識を理解することを目的とする。講義の進め方は、院生がそれぞれ与えられたテーマについて調査して、発表を行い、その上で討論を行うことを基本とする。一部テーマについては、教員が講義を行う。また、講義のまとめとして、発表会を実施し、普段の授業への参加態度とあわせて評価の対象とする。発表会のテーマに関しては変更の可能性があり、講義内で発表する。

レベル: 基礎的~先端的

参考図書: 学生のための医療概論 第4版 (医学書院 2020)

講義内容

回数	日時	内容	担当者
1	4月13日	オリエンテーション・日本の医療システム	三宅 秀彦
2	4月20日	医療情報をどう収集するか	三宅 秀彦

3	4月27日	健康とは何か？障害とは何か？	三宅 秀彦
4	5月11日	医療を支える職種とチーム医療	三宅 秀彦
5	5月18日	医療情報の取り扱いと個人情報保護	三宅 秀彦
6	5月25日	EBM って何だろう？	三宅 秀彦
7	6月1日	医療事故とその予防策（医療安全）	三宅 秀彦
8	6月8日	院内感染防止対策	三宅 秀彦
9	6月15日	患者の権利とインフォームドコンセント	三宅 秀彦
10	6月22日	医薬品はどのように開発されるのか？	三宅 秀彦
11	6月29日	医療の国際化	三宅 秀彦
12	7月6日	少子高齢化時代と医療	三宅 秀彦
13	7月13日	ゲノム医療とは	三宅 秀彦
14	7月23日	発表会 1	三宅 秀彦
15	7月27日	発表会 2（予備日）	三宅 秀彦

単位： 2単位（修士課程）

成績評価： 発表（通常および発表会）と授業への参加態度により総合的に評価する。

Q03-02 生活習慣病医学・疫学（お茶の水女子大学）

- 担当者： 飯田薫子
講義時期： 隔年開講のため2026年度 は開講されない
講義の特徴： 近年広く社会問題となっている生活習慣病について学ぶ。糖尿病、脂質異常症、高血圧など、生活習慣が発症原因に深く関与する疾患や、これらの疾患が複合して発症する「メタボリックシンドローム」などを中心に、生活習慣病の基礎や臨床について学ぶ。
レベル： 基礎的～先端的
単位： 2単位（博士前期課程）
成績評価： 講義への出席状況と演習における発表およびレポートで判定する
注意事項：

Q03-K 衛生薬学特論（北里大学）

- 担当者： 今井浩孝（衛生化学教室）
講義時期： 2026年度前期木曜日 2時限目（10:55～12:25）
講義場所： 薬学部1号館1507セミナー室
講義の特徴： ヒトの健康を衛る学問である衛生薬学。健康を化学する衛生化学、特に脂質酸化による新規細胞死（フェロトーシス、リポキシトーシス）とその疾患に関する最新の知識と、香粧学、環境を化学する公衆衛生、特に水銀の毒性や耐性機構、環境浄化への応用の最新の研究情報を知り、研究の問題点などを考察できる能力の育成を行う。
レベル： 基礎的～先端的
講義内容：

回数	日時	内容	担当者
1	4月9日	様々な細胞死経路と酸化脂質還元酵素（GP x 4）の機能と疾患との関連	今井浩孝
2	4月16日	腸内細菌による心不全の抑制機構	幸村知子
3	4月23日	超硫黄分子による脂質酸化依存的な細胞死の制御	安田 柊
4	5月7日	リン脂質脂肪酸分子種の機能解析	長谷川純矢
5	5月14日	脂質酸化依存的な新規細胞死（フェロトーシス）のシグナル伝達経路の解析	松岡正城
6	5月21日	皮膚の構造とバリア機能	松永由紀子
7	5月28日	動物性自然毒を対象にした創薬	熊谷 剛

8	6月4日	皮膚の構造と紫外線の影響	吉田克典
9	6月11日	TRPチャンネルを介した皮膚刺激感評価	高石雅之
10	6月18日	重金属・水銀の毒性	清野正子
11	6月25日	トキシコリピドミクスを用いた化学物質の毒性発現機構の解析	原俊太郎
12	7月2日	化学物質による発がんにおけるプロスタグランジンの役割	佐々木由香
13	7月9日	抗メチル水銀薬の探索	中村亮介
14	7月16日	水銀のファイトレメディエーション	大城有香
15	7月23日	植物における有害元素の輸送機構の解析と応用 水銀のファイトレメディエーション	浦口晋平

単位： 2単位（博士前期課程）

成績評価： 討議の積極的参加（30%）、レポートの提出（70%）で評価する。なお、欠席、遅刻、早退、態度不良は減点する。

Q04 産学リンケージ特論

国内の国際企業へのインターンシップを通じて、国際社会がどのように動いており、何を求めているのか、社会のリアルタイムの動向と求める人材像を、現場に滞在して体験的に学習する。修士課程の教科課程で修得した基礎力を基盤として、それを結実させる応用力を活用して、国際産業界で活躍できる実践力を修得するケーススタディ体験型コースである。

[対象履修モデル] 公務員, メディア

Q04-T 産学リンケージ特論 (東京科学大学)

担当者: 玉村 啓和

講義時期: 2026 年度通年 (主に夏休みの期間における 1 週間~1 か月程度)

講義場所: 以下のとおり

講義の概要等: 国内の企業にインターンシップあるいは特別研修として参加するケーススタディ体験型コースである。

企業へのインターンシップを通じて、社会がどのように動いており、何を求めているのか、社会のリアルタイムの動向と求める人材像を、現場に滞在して体験的に学習する。

レベル: 基礎的~先端的

講義内容:

- ・ 5~6月頃 (1ヶ月くらい前にメールにてアナウンス)

事前研修 (マナー講習)、東京科学大学

- ・ 6~9月頃

インターンシップあるいは特別研修

単位: 2 単位 (修士課程)

成績評価: 予め、事前研修に参加する必要がある。成績評価は、参加状況 (40点) とインターンシップあるいは特別研修のレポート内容 (60点) を総合して評価する。インターンシップあるいは特別研修に参加しなかった場合は、履修を取消したとみなす。

受講上の注意: 受講者は、東京科学大学 (またはお茶の水女子大学) にて実施される事前研修に参加する必要がある。インターンシップあるいは特別研修参加前に、指導教員から許可を受けたうえで、科目責任者から参加予定のインターンシップ/特別研修先を本科目のインターンシップ/特別研修として承認を受ける。参加終了後に、レポートを提

出すること。また、学生保険への加入が必要である。

L01 科学英語

理系の学会では国内外にかかわらず、英語が共通言語となり、英語でのプレゼンテーション能力が求められています。日本語の内容を単に英語にするだけでは、論理の流れや表現の効果が違いますので、英語の能力ももちろん必要ですが、聞き手を引きつけられる一般的なプレゼンテーション・スキルも必要です。この授業では、効果的な英語プレゼンテーションの主要な要素に注目しながら、練習をしていきます。

L01-0 英語アカデミック・プレゼンテーション（お茶の水女子大学）

担当者： 小川 美穂子

講義時期： 2026 年度後期月曜日 16:40 ~18:10

講義場所： 文教育学部 1 号館 306 室

講義の特徴： 国際学会などにおいて英語で発表することを目指し、英語プレゼンテーションを実践的に学びます。プレゼンテーションの全体像を把握・理解し、プレゼンターとしてのコツを踏まえた上でプレゼンテーションの練習・準備・修正を重ね、その集大成としてクラスの前でプレゼンテーションをします。また、クラスメートと相互評価をすることによって互いに学び、同時に自分のプレゼンテーションも客観的に分析することで更なるスキルアップにつなげます。

レベル： 基礎的～先端的

講義内容：

回数	日時	内容
1	10月5日 16:40~18:10	Course guidance and introduction to English presentation
2	10月19日 16:40~18:10	Construction of presentation and initial preparation for your presentation
3	10月26日 16:40~18:10	Approaches for presentation delivery (1): presentation style, body language, voice etc.
4	11月2日 16:40~18:10	Approaches for presentation delivery (2): presentation style, body language, voice etc.
5	11月9日 16:40~18:10	Writing out your speech

6	11月16日 16:40~18:10	Effective use of visual aids: Guideline for making PPT slides
7	11月19日 16:40~18:10	PPT slides and presentation language (1): Introduction
8	11月25日 16:40~18:10	PPT slides and presentation language (2): Body / Midterm progress check on final presentation project
9	11月30日 16:40~18:10	PPT slides and presentation language (3): Body (cont.) and Conclusion
10	12月7日 16:40~18:10	Finalizing PPT slides and speech note & one-on-one/group advisory meeting
11	12月14日 16:40~18:10	PPT slides and presentation language (4): Question and answer strategies
12	12月21日 16:40~18:10	PPT slides and presentation language (5): Question and answer strategies
13	1月13日 16:40~18:10	Student final presentations (1); teacher and peer assessment
14	1月18日 16:40~18:10	Student final presentations (2); teacher and peer assessment
15	1月25日 16:40~18:10	Feedback for student presentations and review of the course

単位： 2単位（博士前期課程・博士後期課程）

成績評価： 講義への参加（20%）、課題提出（30%）、最終口頭発表（50%）

L01-T 英語交渉・ディベート特論（東京科学大学）

講義時期： 2026年度休講

J01 留学生特別科目

留学生が日本での日常生活から、日本語による授業の聴講、発表、レポート作成や論文執筆等を円滑に行うために必要な、さまざまなレベルと内容の日本語学習機会を提供する。

J01-0 特設日本語（お茶の水女子大学）

担当者： 西川 朋美（コーディネーター担当者）

講義時期：上級 A 漢字（加藤）令和 8 年度水曜 9:00~10:30（4 月 8 日開講予定）

上級 A 文法（山口）令和 8 年度水曜 16:40~18:10（4 月 8 日開講予定）

上級 AN1 対策（王）令和 8 年度金曜 9:00~10:30（4 月 10 日開講予定）

中上級 A 読解（小林）令和 8 年度月曜 9:00~10:30（4 月 13 日開講予定）

中上級 A 文法（ビンデリア）令和 8 年度火曜 10:40~12:10（4 月 14 日開講予定）

中上級 A 作文・会話（佐々木）令和 8 年度木曜 9:00~10:30（4 月 9 日開講予定）

中上級 AN2 対策（清水）令和 8 年度木曜 10:40~12:10（4 月 9 日開講予定）

中上級 A 聴解（貞安）令和 8 年金曜 13:20~14:50（4 月 10 日開講予定）

中上級 A 漢字（具）令和 8 年度金曜 15:00~16:30（4 月 10 日開講予定）

講義場所：学生センター棟 403(予定)

講義の特徴：日本語を母語としない留学生のための日本語演習科目で上記 7 科目の受講を募集する。中級、初級の授業については基本的に他大学生を対象として開講しないが、どうしても参加を希望する場合は、コンソーシアムのアドバイザー教員に相談すること。受入れについて審議を行い、お茶の水女子大学の本来の受講者の支障にならない範囲での参加を認める場合がある。最新の授業案内や関連資料は国際教育センターのホームページ（<https://www.cf.ocha.ac.jp/gec-in/>）にて随時公開するため、履修希望者は確認すること。また、講義場所や講義日程等は変更の可能性もあるので、事前に国際教育センターまで確認を取ること（global-kyoumu@cc.ocha.ac.jp）。

レベル：上級：日本語能力試験 N2~N1 レベル 中上級：日本語能力試験 N3 レベル

講義内容：上級 A 文法：N1 レベルの文法の応用と実生活で用いられる文型の学習

上級 A N1 対策：日本語能力試験 N1 合格のためのパート別トレーニング

上級 A 漢字：新聞や雑誌などで広く使われている N1 レベル以上の漢字学習

中上級 A 文法：社会的・抽象的事象に関する記事で用いられる文型の学習

中上級 A 読解：大学で必要とされる日本語の読解力の向上

中上級 A N2 対策：日本語能力試験 N2 合格のためのパート別トレーニング

中上級 A 漢字：N2~N1 レベルの漢字のタスク練習

中上級 A 聴解：ニュースや説明などを聞いて専門的な内容を理解する日本語力の
向上

単位：コンソーシアムのアドバイザー教員に相談のこと。

成績評価：補講科目であるので原則として成績はつかないが、必要な場合、受講証明書を発行することができる。

E01 Neuro Diseases

E01-T Introduction to Medical Neurosciences

[Instructor(s)] Itsuki Ajioka: Chief instructor E-mail iajioka.cbir@tmd.ac.jp

[Course Purpose] To understand the basic principles of the development and physiological function of the nervous system and the pathology and etiology of various neurological and psychiatric disorders, as well as to acquire basic knowledge on how to conduct actual research.

[Outline] Lectures will be given on normal brain functions, basic methodologies of brain research, and outline of neuropsychiatric disorders caused by brain dysfunction.

[Course Objective(s)]

Understand the basic principles and molecular basis of brain formation and physiological function. In addition, students will gain an understanding of the latest findings in the pathogenesis of major neuropsychiatric disorders.

[Units] Two (Master)

[Format] Lecture

[Grading System] Report (50%) and Participation (50%)**[Prerequisite Reading]** It is recommended that students review "Functional organization of the human body" and prepare for the lecture materials distributed in advance.

[Reference Materials] カンデル神経科学／Eric R. Kandel [ほか] 編, Kandel, Eric R., Koester, John, Mack, Sarah, Siegelbaum, Steven, 宮下, 保司, 岡野, 栄之, 神谷, 之康, 合田, 裕紀子, 加藤, 総夫 (医学), 藤田, 一郎, 伊佐, 正, 定藤, 規弘, 大隅, 典子, 井ノ口, 馨, 笠井, 清登, : メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2022

[Important Course Requirements] Nothing in particular

[Note(s) to students] Nothing in particular

[Course Schedule]

No	Date	Time	Room	Staff
1	10/30	13:30-15:00	ライブ	味岡 逸樹
2	10/30	15:25-16:55	ライブ	上阪 直史
3	11/4	13:30-15:00	ライブ	實吉 岳郎
4	11/4	15:25-16:55	ライブ	勢力 薫
5	11/11	13:30-15:00	ライブ	平 理一郎
6	11/11	15:25-16:55	ライブ	磯村 宜和
7	11/18	13:30-15:00	ライブ	古屋敷 智之
8	11/18	15:25-16:55	ライブ	七田 崇
9	11/20	15:25-16:55	ライブ	田中 大介
10	11/20	13:30-15:00	ライブ	塩飽 裕紀
11	11/25	13:30-15:00	ライブ	黒田 公美
13	11/27	15:25-16:55	ライブ	吉岡 耕太郎
14	11/27	17:15-18:45	ライブ	味岡 逸樹
15	11/27	13:30-15:00	ライブ	坂上 史佳

E02 Immunology

E02-T Immunology

[Instructor(s)] Katsumori Segawa : Chief instructor E-mail segawa.mche@tmd.ac.jp

[Course Purpose] The lecture will cover a wide range of topics, from the basics to the latest findings in immunology for students who have not yet taken a course in immunology. This course will develop immunological thinking based on scientific evidence by understanding the immune cells and their biological functions that play a role in the immune system and the pathogenesis of various immunological diseases.

[Course Objective(s)]

This course aims to understand the basic principles of immunity and the cells and functions that are the mainstay of innate and acquired immunity from the molecular and the physiology or disease perspective.

[Units] Two (Master)

[Format] Lecture

[Grading System]

Evaluation will be based on the results of reports (50%) and class participation (50%).

[Prerequisite Reading] Basic knowledge of immunology is not required. Yet, knowledge of biochemistry and molecular biology is required. If necessary, please prepare in advance.

[Reference Materials] Immunobiology / Charles A. Janeway, Janeway, Charles A.: Garland Pub.

[Important Course Requirements] Before the lecture, please check your basic knowledge of biology and molecular biology that you have learned in high school and undergraduate. In addition, students should read the related literature introduced in the lecture after the lecture to deepen their understanding.

[Note(s) to students] None

[Course Schedule]

No	Date	Time	Room	Staff
1	11/19	08:50-10:20	ライブ	ASAHARA Hiroshi
2	11/19	10:45~12:15	ライブ	ASAHARA Hiroshi
3	11/20	08:50-10:20	ライブ	NISHINA Hiroshi
4	11/20	10:45~12:15	ライブ	NISHINA Hiroshi
5	11/25	08:50-10:20	ライブ	OTEKI TOSHIAKI
6	11/25	10:45~12:15	ライブ	OTEKI TOSHIAKI
7	11/26	08:50-10:20	大学院特別講義室	ISEKI Shoko
8	11/26	10:45~12:15	ライブ	KANAI Masami
9	11/27	08:50-10:20	大学院特別講義室	GOTO Toshiyasu
10	11/27	10:45~12:15	ライブ	GOTO Toshiyasu
11	12/2	08:50-10:20	ライブ	ONO Satoshi
12	12/2	10:45~12:15	ライブ	TAKAGI Masatoshi
13	12/3	08:50-10:20	ライブ	SATO Taku
14	12/3	10:45~12:15	ライブ	SATO Taku
15	12/3	13:30~15:00	大学院特別講義室	KANAYAMA Tsuyoshi

E06 Development and Regenerative Science

E06–T Developmental and Regenerative Bioscience

[Chief Instructor] Dr. SASAKI Junko

M&D tower 19 FE-mail: isjunko.pip@mri.tmd.ac.jp

[Course Description] This course covers cellular biology and developmental biology with an emphasis on signal transduction. We will discuss how modern cellular, molecular and genetic approaches are advancing the fundamentals of biology and medicine. An additional objective of the course is to learn about research techniques and their application to currently unresolved issues in biology.

[Units] Two (Master)

[Format] Lecture

[Grading] Examination (50%) and Attendance (50%)

[Course Schedule] Offered in Fall 2027 (Tentative)

[Accessory Texts] Scott F. Gilbert Developmental Biology

[Notes] None

E08 Functional Molecular Chemistry

E08-T Introduction to Chemistry and Biology of Biofunctional Molecules

[Chief Instructor] Dr. Hirokazu Tamamura

Surugadai area, 21 Bldg., 6 th floor, Ext. 8036,

E-mail: tamamura.mr@tmd.ac.jp

[Course Description] This course deals with fundamentals and recent topics related to various biofunctional molecules, such as hormones and proteins, related to gene functions and/or cellular signal transduction. This course also covers the research techniques and their applications in the field of medicinal chemistry and chemical biology.

[Units] Two (Master)

[Format] Lecture

[Grading] Final examination (80 points) and Attendance (20 points)

[Course Schedule]

No	Date	Time	Room	Staff
1	10, Nov.	08:50-10:20	Live	HOSOYA Takamitsu
2	10, Nov.	10:45-12:15	Live	HOSOYA Takamitsu
3	11, Nov.	08:50-10:20	On demand	TAMAMURA Hirokazu
4	11, Nov.	10:45-12:15	On demand	TAMAMURA Hirokazu
5	17, Nov.	08:50-10:20	On demand	TAMAMURA Hirokazu
6	17, Nov.	10:45-12:15	On demand	TAMAMURA Hirokazu
7	18, Nov.	08:50-10:20	Live	TSUJI Kohei
8	18, Nov.	10:45-12:15	Live	TSUJI Kohei
9	24, Nov.	08:50-10:20	Live	NIWA Takashi
10	24, Nov.	10:45-12:15	Live	NIWA Takashi
11	25, Nov.	08:50-10:20	Live	ITOU Yukihiro
12	25, Nov.	10:45-12:15	Live	ITOU Yukihiro
13	1, Dec.	08:50-10:20	Live	KANEMOTO Kazuya
14	1, Dec.	10:45-12:15	Live	KANEMOTO Kazuya
15	1, Dec.	13:30-15:00	Live	MA Yue

[Reference Materials]

L. Schreiber, T. Kapoor, G. Wess (eds.) Chemical Biology, WILEY-VCH; Laudet, V & Gronemeyer, H. (eds) The Nuclear Receptors FactsBook, Academic Press; M. Ptashne & A. Gann Genes & Signals, CSHL Press.

[Notes]

Nothing in particular

E09 Chemical Biology

E09–T Chemical Biology

[Chief Instructor] Dr. Takamitsu Hosoya
Surugadai area, 21Bldg, 6th floor,
E-mail: thosoya.cb@tmd.ac.jp

[Course Description] Course Purpose: The purpose of this course is to understand the basic and application about chemical biology field. Chemical biology is a new and significant field of bioscience. This field includes the research to solve the biological problems at the molecular level or to regulate the biological systems by using the techniques, knowledge and ideas of chemistry.

[Units] Two (Master)

[Format] Lecture

[Grading] Final examination (60%) and Attendance/Discussion (40%)

[Course Schedule] Offered in Fall 2027 (Tentative)

[Accessory Texts]

L. Schreiber, T. Kapoor, G. Wess (eds.) *Chemical Biology*, WILEY-VCH

H. Osada (ed.) *Bioprobes*, Springer

Kamerling, J. P. (ed) *Comprehensive Glycoscience From Chemistry to System Biology*, Elsevier

Annes, J. P.; Munger, J. S.; Rifkin, D. B. *J Cell Sci* 116:217-224, 2003.

Liby, K. T.; Yore, M. M.; Sporn, M. B. *Nature Reviews Cancer* 7:357-369, 2007.

Ferrara, N.; Kerbel, R. S. *Nature* 438:967-974, 2005.

[Notes] None

E11 Molecular Structure

E11–T Special Lectures on Molecular Structures

[Chief Instructor] Dr. Nobutoshi Ito
M&D tower 22F, Ext. 4594,
E-mail: ito.str@tmd.ac.jp

[Course Description] Recent advances in structural biology resulted in not only in understanding molecular basis of biology and medicine but also accumulation of a large amount of structural information. The purpose of the course is that those students who are not specialized in the field understand the basics of the method and are able to make use of such information.

[Units] Two (Master)

[Format] Lecture/Lab

[Grading] Final examination (70 %) Attendance (30 %)

[Course Schedule] Offered in Fall 2027 (Tentative)

[Accessory Texts]

Branden & Tooze, "Introduction to Protein Structure" (Garland Publishing)

[Notes] None

E12 Biomaterial Science

E12-T Advanced Biomaterial Science

[Instructor(s)] Masakazu Kawashita : Chief instructor, Prof. of Organic Biomaterials

Email: kawashita.bcr@tmd.ac.jp

[Course Purpose] To understand the basis of biomaterials used for a variety of applications in contact with living body. The properties of biomaterials are requested to vary as to adopt their applications in hard and soft tissues. The final goal of this course is to master basic knowledge on biomaterials including metals, ceramics, and polymeric materials covering a wide range of medical applications.

[Outline] This course deals with bio-inspired systems using metals, ceramics, and organic materials from basic material science to biotechnological and biomedical applications. Recent topics about drug delivery system and tissue engineering will be also lectured.

[Course Objective(s)] This course provides basic information on biomaterials including metals, ceramics and polymeric materials. It is important to understand how these biomaterials have been applied for a wide range of clinical issues as to recover and/or regenerate the lost properties of original body functions.

[Units] Two (Master)

[Format] Lecture

[Grading] Final examination (50%) , Attendance (50%)

[Course Schedule] Offered in Fall 2027 (Tentative)

E14 Omics Informatics

E14–T Disease OMICS Informatics

[Chief Instructor] Dr. Itoshi Nikaido

E-mail: itoshi.nikaido.fgin@mri.tmd.ac.jp

[Course Description]

[Units] One (Master)

[Format] Lectures

[Grading]

[Course Schedule] Offered in Fall 2027 (Tentative)

[Note] Nothing

E16 Biomedical Device and System

E16-T1 Biomedical Device Science and Engineering II

[Instructor(s)] Chief: Prof.IKEUCHI Masashi
(Prof: Dept. Biomed. Devices and Instrument)
Email: ikeuchi.mech@tmd.ac.jp

[Course Purpose] The purpose of this course is to acquire the knowledge's of latest biomedical device (element) technologies based on biochemistry, biotechnology, mechanics, electronics, MEMS, biomaterials, IT technology, etc. For understanding these technologies, related fundamental scientific and technological issues underlying those device technologies are also introduced and discussed.

[Outline] The outline of this course is to study novel biomedical devices such as biosensors, bioelectronics and bio-photonic devices. The course consists of some lectures of biosensing device, biosniffer, bioactuator, micro system, photonics, biotransistor and biomedical functional material & device.

[Course Objective(s)]

The Objective of this course is to ensure the acquisition of fundamentals and basic of latest biomedical devices and their technologies. The acquirer of this course is allowed to understand the fundamental scientific of those devices in some research & technical papers and to discuss some technological issues underlying those devices.

[Unit] One (Master)

[Format] Lecture

[Grading System] Attendance (60%) and Final Examination (40%)

[Course Schedule]

No	Date	Time	Room	Staff
1	10/7	08:50-10:20	Live	MITSUBAYASHI Koji
2	10/7	10:45-12:15	Live	IITANI Kenta
3	10/14	08:50-10:20	Live	ICHIKAWA Kenta
4	10/14	10:45-12:15	Live	IKEUCHI Masashi
5	10/21	08:50-10:20	Live	IKEUCHI Masashi
6	10/21	10:45-12:15	Live	ISHIKAWA Daisuke
7	10/28	08:50-10:20	Live	MATSUMOTO AKIRA, BARTHELMES Kevin

8	10/28	10:45-12:15	Live	BARTHELMES Kevin
---	-------	-------------	------	------------------

[Prerequisite Reading] To be announced at the guidance and regular lectures.

[Reference Materials] To be distributed during the lecture.

[Important Course Requirements]

Chemical, Gas, and Biosensors for Internet of Things and Related Applications / Kohji Mitsubayashi Osamu Niwa Yuko Ueno : Elsevier, 2019.

Immunosensors / Koji Toma, Takahiro Arakawa, Kohji Mitsubayashi: Royal Society of Chemistry, 2019.

Sensors for Everyday Life / Takahiro Arakawa, Kohji Mitsubayashi : Springer, 2017.

Modern sensing technologies / Subhas Chandra Mukhopadhyay, Krishanthi P. Jayasundera, Octavian Adrian Postolache, editors, Postolache, Octavian Adrian, Mukhopadhyay, Subhas Chandra, Jayasundera, Krishanthi P.: Springer, 2019.

Healthcare Sensor Networks: Challenges Toward Practical Implementation / Hiroyuki Kudo, Kohji Mitsubayashi: CRC Press, 2011.

Intelligent surfaces in biotechnology : scientific and engineering concepts, enabling technologies, and translation to bio-oriented applications / edited by H. Michelle Grandin, Marcus Textor, Grandin, H. Michelle, Textor, Marcus,: John Wiley & Sons, 2012.

Micro Electronic and Mechanical Systems / Kenichi Takahata: IntechOpen, 2009, 2018, 2006.

To be announced during the lecture.

[Note(s) to students] Nothing.

E16–T2 Biomedical System Science and Engineering II

[Instructor(s)] Prof. NAKAJIMA Yoshikazu E-mail: nakajima.bmi@tmd.ac.jp

[Course Purpose] The purpose of this course is to acquire the basic knowledge of biomedical system technologies. For understanding these technologies, related fundamental scientific and technological issues underlying those system technologies are also introduced and discussed.

[Course Objective(s)]

This lecture series aims to learn fundamental scientific and technological issues underlying biomedical systems, and skills to utilize your knowledge in practical works.

[Unit] One (Master)

[Format] Lecture

[Grading System] The grade will consider class attendance and performance (50%) and

reports (50%).

[Course Schedule]

No	Date	Time	Room	Staff	Note
1	11/6	08:50-10:20	Live	NAKAJIMA Yoshikazu	
2	11/6	10:45-12:15	Live	KAJI Hirokazu	
3	11/20	08:50-10:20	Live	NASHIMOTO Yuji	
4	11/20	10:45-12:15	Live	MIYAZAKI Tetsuroh	
5	11/27	08:50-10:20	Live	KAWASHIMA Kenji	
6	11/27	10:45-12:15	Live	BANNNAI Hideo	
7	12/4	08:50-10:20	Live	ONOGI Shinya	
8	12/4	10:45-12:15	Live	NAKAJIMA Yoshikazu	

[Prerequisite Reading] Instruction will be done at the first lecture. It will be done in any class if necessary.

[Reference Materials] Handouts will be provided if necessary.

[Note(s) to students]

None

E17 Biomaterial Application

E17-T Applied Biomaterials

[Instructor(s)] Akira Matsumoto, Assoc. Prof. Material-based Medical Engineering

Email: matsumoto.bsr@tmd.ac.jp

[Course Purpose] To understand pathological phenomena associated with biomaterials and pathophysiological responses of the body to the devices. The final goal of this course is to find future challenges of the biomaterials for clinical application.

[Outline] This course deals with the reaction of living body to biomaterials, physiology, biochemistry, cell biology, immunology in order to understand biomaterials in details. Future direction and the problems to be solved of the biomaterials research will be discussed.

[Course Objective(s)] This course provides information on principle interactions between the body and the biomaterials. It is important to build new strategies for clinical application from the existing information.

[Units] Two (Master)

[Format] Lecture

[Grading System] Final examination 50%, Attendance 50%. 12 attendances out of 15 are needed to take the exam.

[Course Schedule] Offered in Fall 2027 (Tentative)

[Prerequisite Reading] Taking a course with an aspiration of the medical contributions of biomaterials and bioengineering. Reading the textbooks, "Biomaterials" Chapter 3 and later, "Biomaterials Science" Chapter 6 and later.

[Reference Materials] To be announced by each lecturer.

[Important Course Requirements] To have a motivation to contribute the advancement of medical science.

[Office hours] As needed

[Note(s) to students] This lecture is an advanced course of "Advanced Biomaterials Science (3034)". For deeper understanding, it is advised to take "Advanced Biomaterials Science (3034)" simultaneously.

E18 Summer Program

E18-0 Special Lectures in Humanities and Sciences III

[Chief Instructor] Dr. Mitsuhiro Miyazaki (Sub-course 3)
Ochanomizu Science Building #1, room #228, Ext. 2057
E-mail: miyazaki.mitsuhiro@ocha.ac.jp

[Course Description] This program is an intensive course for Ochanomizu University / Graduate School students and overseas / Japanese partner universities students. All lectures and discussions are conducted in English in multi-cultural classes, aiming for students' career development and promotion of international exchanges. Students can obtain two credits (interchangeable with partner universities). All lectures will be given in English.

The program in Natural sciences is Sub-course 3:
“Diverse fields and key ideas of natural science”

[Units] Two (Master)

[Format] Lecture and group discussion

[Grading] Reaction papers

[Level] Fundamental

[Course Schedule]

The lectures will be scheduled from July 22 to August 1 in 2026.

The detailed agenda will be announced in April, 2026

The sub-course is taught by several lecturers in an omnibus style and from interdisciplinary perspectives.

The details: Visit the web site at <http://www.cf.ocha.ac.jp/summerprogram/>

[Accessory Texts]

None

[Notes]

None

E19 Disease Prevention Medicine

E19–T Overview of Public Health Medicine in Disease Prevention

※ This is a provisional version ※

[Chief Instructor] Tomoko Ishino E-mail: tishino.vip@tmd.ac.jp

[Course Description] This course offers a general introduction to public health medicine, addressing fundamental topics and basic measures required for a global leader in disease prevention and data science medicine. The course focuses on development of essential knowledge and skills for global disease prevention and implementation science through lectures and discussions based on selected case studies.

At the end of the course, participants will be able to:

- 1) Describe the roles and responsibilities of public health in disease prevention
- 2) Describe development in basic, clinical, and public health research using data science
- 3) Describe theory and application of implementation medical science
- 4) Describe and apply the basic principles and methods of medical research to disease prevention
- 5) Describe the main ethical issues in international medical research
- 6) Describe cross-border health issues in relation to globalization
- 7) Describe leadership in medical education and medical research
- 8) Describe history of medical research

[Units] Two (Doctoral)

[Format]

Lectures, group discussions, and team project. All programs are conducted in English. International students and Japanese students attend the same class and use English in the classroom.

Students from the Medical and Dental Science or Biomedical Science departments are both welcome to the course.

[Grading] Grades are based on attendance at lectures, performances during group discussions and team project as well as on assignments, and levels of attitude, skills and knowledge.

[Course Schedule]

No	Day	Time	Venue	Topics	Instructor
1	11/6	16:00-19:10	大学院講義室 2	Implementation medical science in the context of global health	ISHINO Tomoko
2	11/12	8:50-12:00	ライブ	Life Course epidemiology	TBA

3	11/17	16:00-19:10	大学院講 義室 2	Prevention of infectious disease	GU YOSHIAKI
4	12/1	16:00-19:10	大学院講 義室 2	Prevention and control of tropical disease	SEGAWA Katsumori
5	12/3	16:00-19:10	大学院講 義室 2	Prevention and control of non-communicable disease and implementation science	SHIROGANE Yuta
6	12/8	16:00-19:10	大学院講 義室 2	Prevention and control of cancer	TBA
7	1/12	16:20-19:10	ライブ	History of anatomy and body donation	AKITA KEIICHI
8	1/19	16:20-19:10	大学院講 義室 2	Leadership	NAKAMURA KEIKO

[Accessory Texts] To be announced before or during individual classes, when relevant.

[Notes] Both international and Japanese students participate in the same program provided in English and learn together on public health medicine in disease prevention. The course is a core part of nurturing global leaders in disease prevention that Science Tokyo provides.

各大学キャンパスマップ

<東京科学大学>

所在地：〒113-8510 東京都文京区湯島 1-5-45

教務課湯島教務室大学院教務第2グループ（1号館西1階：03-5803-4534）



講義使用予定：

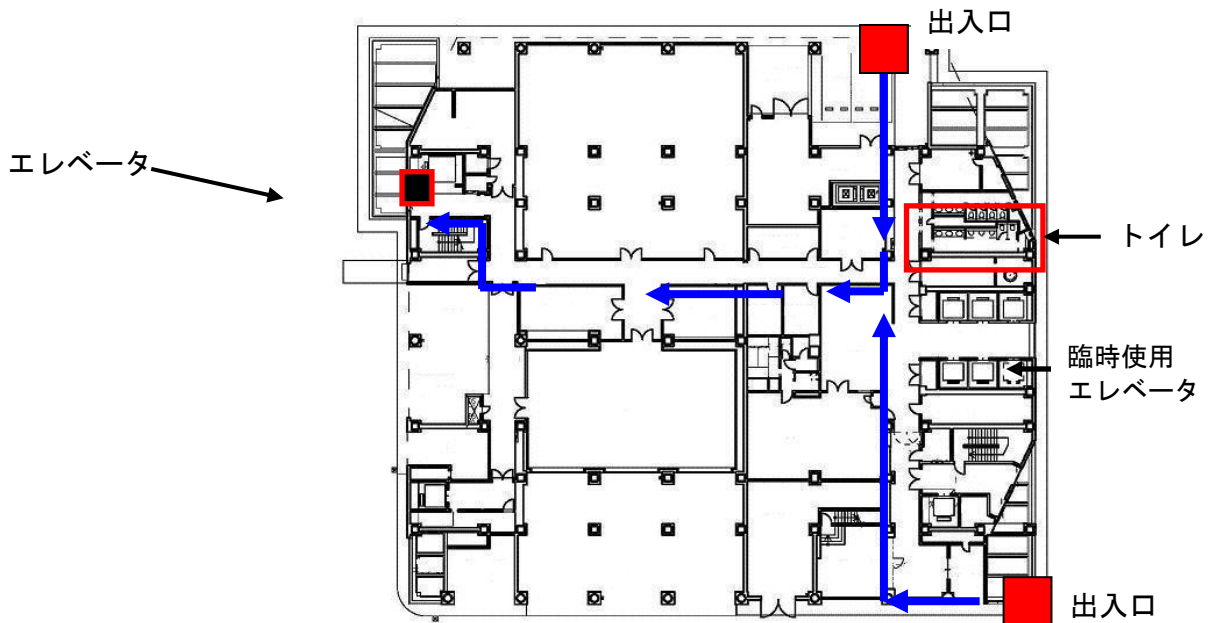
- 3号館（6F 大学院講義室）
- M&D タワー（入構方法と案内図は次項参照）
- 21号館
- 22号館

M&D タワーへの入構方法



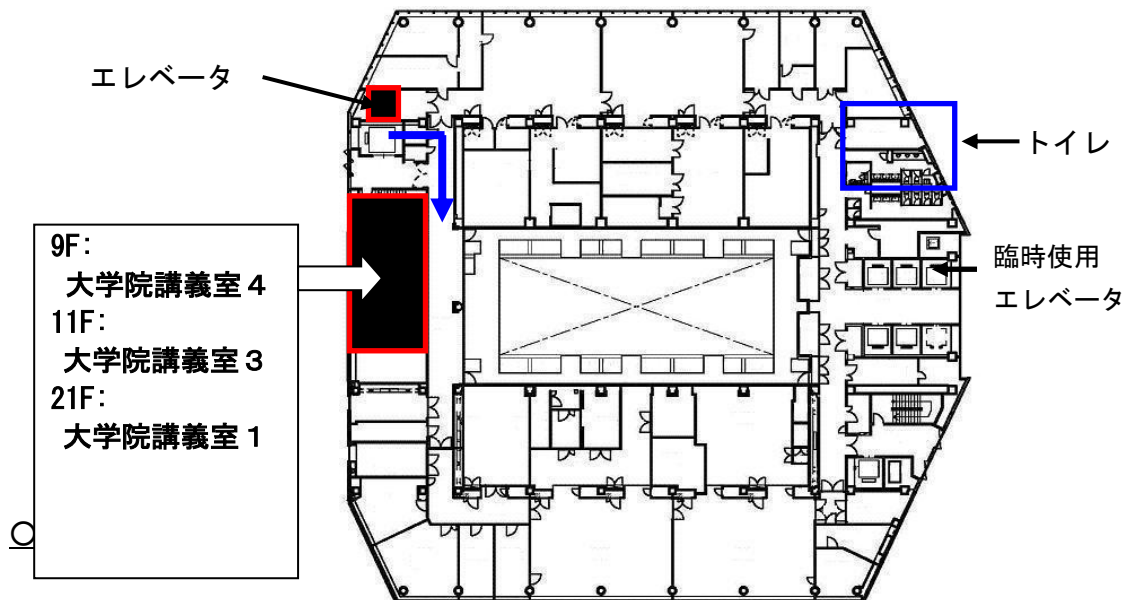
- <順路>
「御茶ノ水駅」より、矢印をたどって進みます。
M&D タワー1F の出入口は2箇所あり、いずれも利用できます。

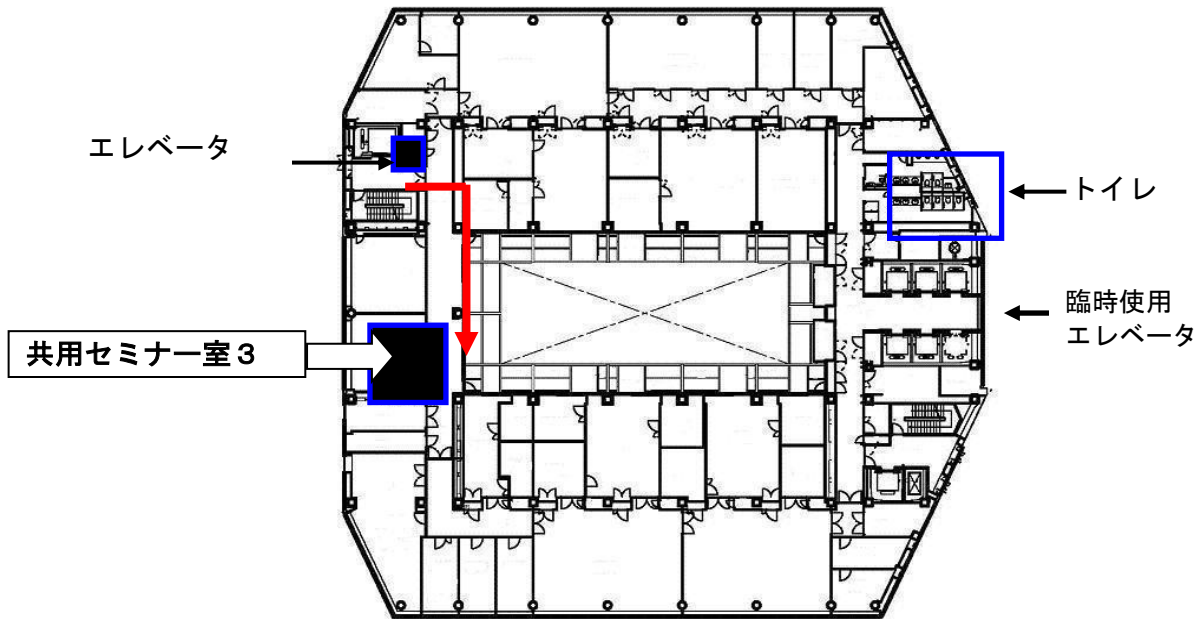
M&Dタワー
○ 1階平面図



- ・ [臨時使用エレベータ]は通常は使用しないで下さい。
- ・ (講義室へのアクセスの際、研究室を通っていかねばならなくなります)
- ・ ただし、節電対策等により、所定のエレベータが稼動していない場合には、[臨時使用エレベータ]を使用してください。
- ・ エレベータは動きが遅いので、時間に余裕を持って移動してください。

○ 9階、11階、21階平面図



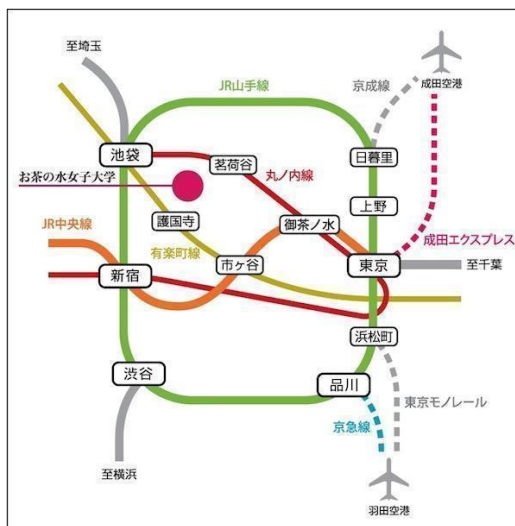


<お茶の水女子大学>

所在地：〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1 電話：03-3943-3151

最寄駅まで

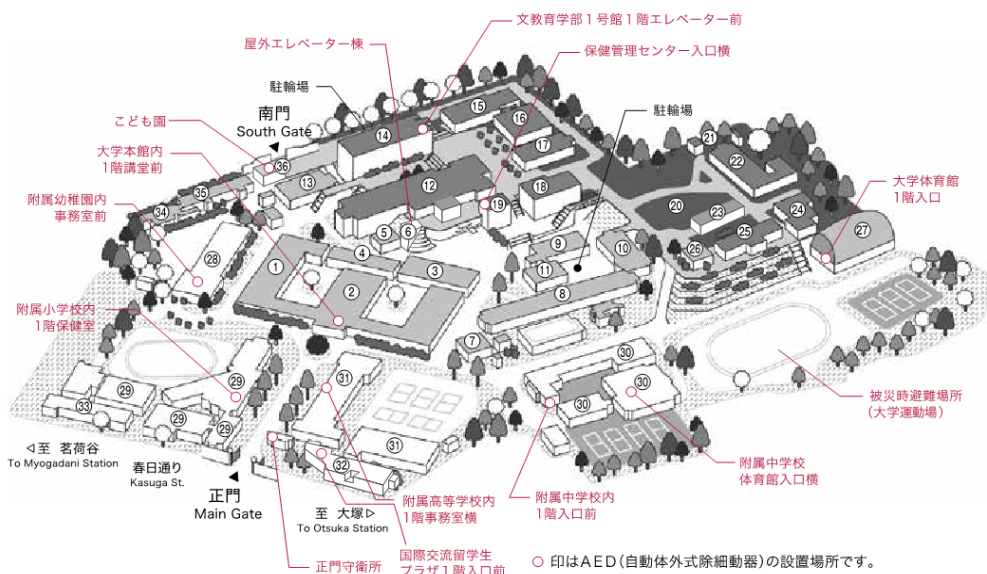
- JR 池袋駅から
 - 東京メトロ丸ノ内線 (新宿、荻窪方面行) 「茗荷谷」駅下車
 - 東京メトロ有楽町線 (新木場方面行) 「護国寺」駅下車
 - 都営バス-都02乙 (春日駅(一ツ橋)行) 「大塚二丁目」下車
- JR 東京駅 又は JR 御茶ノ水駅から
 - 東京メトロ丸ノ内線 (池袋方面行) 「茗荷谷」駅下車
- JR 大塚駅から
 - 都営バス-都02 (JR 錦糸町駅行) 「大塚二丁目」下車



最寄り駅から

- 東京メトロ丸ノ内線「茗荷谷」駅より徒歩7分
- 東京メトロ有楽町線「護国寺」駅より徒歩8分
- 都営バス「大塚二丁目」停留所下車徒歩1分

キャンパスマップ



① 大学本館	⑩ 保健管理センター
② 大学講堂(敬音堂)	⑪ 音羽館
③ 総合研究棟	⑫ 弓道場
④ 生活科学部本館2	⑬ 文教育学部2号館
⑤ お茶大アカデミック・プロダクション研究棟	⑭ Student Commons
⑥ 屋外エレベーター棟	⑮ 課外活動団体談話室
⑦ ラジオイントロップ実験センター	⑯ 人間文化創成科学研究科・全学共用研究棟
⑧ 理学部1号館	⑰ 茶室(芳香庵)
⑨ 理学部2号館	⑱ 大学体育館
⑩ 理学部3号館	⑲ 附属幼稚園
⑪ 情報基盤センター	⑳ 附属小学校
⑫ 附属図書館	㉑ 附属中学校
⑬ 学生センター棟	㉒ 附属高等学校
⑭ 文教育学部1号館	㉓ 国際交流留学生プラザ
⑮ 共通講義棟1号館	㉔ 学生会館
⑯ 共通講義棟2号館	㉕ いずみナーサリー
⑰ 共通講義棟3号館	㉖ 大塚宿舎
⑱ 大学食堂	㉗ こども園

大学間のおおよその移動時間

多少余裕を持った時間を示してあります。

	東京科学大学	お茶の水女子大学	学習院大学	北里大学
東京科学大学		30分	40分	50分
お茶の水女子大学	30分		35分	50分
学習院大学	40分	35分		50分
北里大学	50分	50分	50分	

各大学の時限比較

	東京科学大学	お茶の水女子大学*	学習院大学	北里大学
第1時限	8:50 ~ 10:20	9:00 ~ 10:30	8:45 ~ 10:30	9:15 ~ 10:45
第2時限	10:45 ~ 12:15	10:40 ~ 12:10	10:40 ~ 12:25	10:55 ~ 12:25
第3時限	13:30 ~ 15:00	13:20 ~ 14:50	13:15 ~ 15:00	13:25 ~ 14:55
第4時限	15:25 ~ 16:55	15:00 ~ 16:30	15:10 ~ 16:55	15:05 ~ 16:35
第5時限	17:15 ~ 18:45	16:40 ~ 18:10	17:05 ~ 18:50	16:45 ~ 18:15

*お茶の水女子大学では、第1時限を第1・2時限、第2時限を第3・4時限、...、第5限を第9・10時限と記しているのので注意すること。

学際生命科学東京コンソーシアム

共通シラバス 2026年度版

2010年3月31日	平成22年度版	発行
2011年3月31日	平成23年度版	発行
2012年3月31日	平成24年度版	発行
2013年3月31日	平成25年度版	発行
2014年3月31日	平成26年度版	発行
2015年3月31日	平成27年度版	発行
2016年3月31日	平成28年度版	発行
2017年3月31日	平成29年度版	発行
2018年3月31日	平成30年度版	発行
2019年3月31日	2019年度版	発行
2020年9月14日	2020年度版	発行
2021年3月31日	2021年度版	発行
2022年3月31日	2022年度版	発行
2023年3月31日	2023年度版	発行
2024年3月31日	2024年度版	発行
2025年3月31日	2025年度版	発行
2026年3月23日	2026年度版	発行

編集・発行

学際生命科学東京コンソーシアム 教育高度化部会
共通シラバス pdf のダウンロードは以下の URL から

<http://square.umin.ac.jp/DPSC/>